

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基		本		計		画					
事	項	記 入 欄						備考			
計 画 の 区 分		学部の設置									
フ リ ガ ナ 設 置 者		カ ^カ ツヨリジ ^シ ン シュウト ^ト ウガ ^ガ クエン 学校法人 修道学園									
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ヒロシマシュウト ^ト ウガ ^ガ ク ^ク 広島修道大学 (Hiroshima shudo University)									
大 学 本 部 の 位 置		広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号									
大 学 の 目 的		本学は、「道を修める」という建学の精神に基づき、「地域社会の発展に貢献できる人材の養成」、「地域社会と連携した人づくり」、「地域社会に開かれた大学づくり」を理念に掲げ、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を涵養することを目的とする。									
新 設 学 部 等 の 目 的		健康科学部は、乳幼児から高齢者の各ライフステージにおける「こころ」と「からだ」及びそれらの相互作用に関する基礎知識を修得し、「こころ」と「からだ」の働きを科学的に数量化し分析する能力を修め、自己及び他者の「健康」の回復・保持・増進に向けて、協働して問題を解決できる実践力を備えた人材の養成を目的とする。 心理学科は、人間の「こころ」と行動に関する心理学的知識を修得し、科学的に数量化し統計的に分析する能力を修め、「健康」問題に代表される日常の身近な課題に対して、他者と共感的な人間関係を構築し、協働して問題解決に当たることができる人材の養成を目的とする。 健康栄養学科は、人間の「からだ」の「健康」と栄養に関する専門知識と技能を修得し、客観的かつ論理的な思考に基づき、地域の人々の「健康」の回復・保持・増進に向けて、他者と共感的な人間関係を構築し、協働して問題解決に当たることができる管理栄養士の資格を有する人材の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所 在 地			
	健康科学部 [Faculty of Health Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年 次	広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号			
	心理学科 [Department of Psychology]	4	80	—	320	学士(心理学)	平成29年4月 第1年次				
	健康栄養学科 [Department of Health and Nutrition]	4	80	—	320	学士(栄養学)	平成29年4月 第1年次				
計			160	—	640						
同 一 設 置 者 内 に お け る 変 更 状 況 (定員の移行, 名称の変更等)		広島修道大学 人文学部人間関係学科定員変更（心理学専攻（廃止））（△55） ※平成29年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	健康科学部心理学科	267科目	17科目	78科目	362科目	124単位					
	健康科学部健康栄養学科	233科目	19科目	94科目	346科目	124単位					
新設分	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼 任 教 員 等		
				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設分	健康科学部 心理学科			9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	176 (150)
		健康栄養学科			11 (9)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (9)	5 (5)	163 (141)
		計			20 (18)	4 (3)	1 (1)	0 (0)	25 (22)	5 (5)	339 (291)
	新設分	商学部 商学科			10 (10)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	67 (67)
		経営学科			7 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	63 (63)
		全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)			9 (9)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	110 (110)
		教職課程担当			1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	11 (3)

教員組織の概要	既設分	経済科学部	現代経済学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	45 (45)	
			経済情報学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	46 (46)	
			全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	158 (158)	
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (3)	
		人文学部	人間関係学科 社会学専攻	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	68 (68)	
			教育学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	232 (232)	
			英語英文学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	44 (44)	
			全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	5 (5)	1 (0)	2 (2)	2 (2)	10 (9)	0 (0)	158 (159)	
			教職課程担当	3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	22 (0)	
		法学部	法律学科	10 (10)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	80 (79)	
			国際政治学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	84 (83)	
			全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	8 (8)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	165 (165)	
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (3)	
		人間環境学部	人間環境学科	13 (12)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	66 (66)	
			全学共通教育担当 (教養・外国語・保健体育科目)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	147 (147)	
			教職課程担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (3)	
			計	119 (119)	41 (41)	8 (8)	7 (7)	175 (175)	0 (0)	1611 (1544)	
		合 計		139 (137)	45 (44)	8 (9)	7 (7)	199 (197)	0 (0)	1950 (1835)	
		教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		120 人 (112)		66 人 (74)		186 人 (186)				
技 術 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
図 書 館 専 門 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
そ の 他 の 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計			120 (112)		66 (74)		186 (186)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	36,805㎡	0㎡		0㎡		36,805㎡				
	運 動 場 用 地	101,957㎡	0㎡		0㎡		101,957㎡				
	小 計	138,762㎡	0㎡		0㎡		138,762㎡				
	そ の 他	200,113㎡	0㎡		0㎡		200,113㎡				
	合 計	338,875㎡	0㎡		0㎡		338,875㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
		70,746㎡ (70,746㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		70,746㎡ (70,746㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
	100室	20室	65室		18室 (補助職員一人)		8室 (補助職員一人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数					
		健康科学部心理学科				13 室					
		健康科学部健康栄養学科				12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なため、大学全体の 数			
	健康科学部	942,647 [242,562] (906,647 [236,022])	5,787 [2,531] (5,787 [2,531])	12,403 [12,352] (12,403 [12,352])	22,606 (22,096)	－ (ー)	－ (ー)				
	計	942,647 [242,562] (906,647 [236,022])	5,787 [2,531] (5,787 [2,531])	12,403 [12,352] (12,403 [12,352])	22,606 (22,096)	－ (ー)	－ (ー)				

図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		11,700㎡		948		1,200,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		8,871㎡		屋内プール1面	野球場1面	陸上競技場1面	アーチェリー場1面				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベース整備費（運用コスト含む）を含む
		教 員 1人当り 研究費等	心理学科		676千円	676千円	676千円	676千円	－千円	－千円	
			健康栄養学科		676千円	676千円	676千円	676千円	－千円	－千円	
		共 同 研究費等	心理学科		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	
			健康栄養学科		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	
		図 書 購 入 費	心理学科	0千円	4,318千円	6,239千円	7,565千円	9,358千円	－千円	－千円	
			健康栄養学科	10,708千円	3,858千円	6,196千円	7,563千円	9,396千円	－千円	－千円	
		設 備 購 入 費	心理学科	359千円	2,036千円	3,393千円	9,858千円	15,891千円	－千円	－千円	
			健康栄養学科	270,332千円	2,149千円	3,619千円	10,562千円	17,068千円	－千円	－千円	
		学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	商学部		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円			
	人文学部人間関係学科社会学専攻		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円			
	人文学部教育学科		1,250千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－千円	－千円			
	人文学部英語英文学科		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円			
	法学部		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円			
	経済科学部現代経済学科		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円			
	経済科学部経済情報学科		1,250千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－千円	－千円			
	人間環境学部		1,220千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円			
	健康科学部心理学科		1,260千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	－千円	－千円			
	健康科学部健康栄養学科		1,340千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		広島修道大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍		広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号	
	商学部							1.15			
	商学科		4	155	－	620	学士（商学）	1.18	昭和35年度		
	経営学科		4	155	－	620	学士（経営学）	1.13	昭和38年度		
	経済科学部							1.17			
	現代経済学科		4	115	－	460	学士（経済科学）	1.18	平成9年度		
	経済情報学科		4	115	－	460	学士（経済科学）	1.15	平成9年度		
	人文学部							1.17			
	人間関係学科			115		460		1.18			
	心理学専攻		4	55	－	220	学士（文学）	1.17	昭和48年度		
	社会学専攻		4	60	－	240	学士（文学）	1.14	昭和48年度		
	教育学科		4	100	－	400	学士（教育学）	1.03	昭和48年度		
	英語英文学科		4	110	－	440	学士（文学）	1.17	昭和48年度		
	法学部							1.15			
	法律学科		4	220	－	880	学士（法学）	1.12	昭和51年度		
	国際政治学科		4	80	－	320	学士（国際政治学）	1.22	平成2年度		
	人間環境学部							1.21			
	人間環境学科		4	145	－	580	学士（人間環境学）	1.21	平成14年度		
	商学研究科							0.41			
	商学専攻							0.30			
	博士前期課程		2	8	－	16	修士（商学）	0.27	昭和46年度		
	博士後期課程		3	2	－	6	博士（商学）	0.37	昭和48年度		
	経営学専攻							0.47			
	博士前期課程		2	12	－	24	修士（経営学）	0.60	昭和52年度		
	博士後期課程		3	3	－	9	博士（経営学）	0.00	昭和52年度		
	経済科学研究科							0.28			
	現代経済システム専攻							0.25			
	博士前期課程		2	8	－	16	修士（経済学又は経済情報）	0.24	平成13年度		
	博士後期課程		3	2	－	6	博士（経済学）	0.25	平成15年度		
	経済情報専攻							0.32			
	博士前期課程		2	8	－	16	修士（経済学又は経済情報）	0.37	平成13年度		
	博士後期課程		3	2	－	6	博士（経済情報）	0.12	平成15年度		
	人文科学研究科							0.20			
	心理学専攻							0.31			
	博士前期課程		2	5	－	10	修士（心理学）	0.30	昭和53年度		
	博士後期課程		3	2	－	6	博士（心理学）	0.37	昭和56年度		

社会学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（社会学）	0.05	昭和59年度	
教育学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（教育学）	0.15	昭和59年度	
英文学専攻						0.21		
博士前期課程	2	5	—	10	修士（文学）	0.35	昭和53年度	
博士後期課程	3	3	—	9	博士（文学）	0.00	昭和56年度	
法学研究科						0.61		
法学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（法学）	1.40	昭和56年度	
国際政治学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（国際政治学）	0.22	平成6年度	
法務研究科								
法務専攻	3	—	—	—	法務博士（専門職）	—	平成16年度	
専門職学位課程 （法科大学院の課程）								平成27年度より 学生募集停止
附属施設の概要	該当なし							

（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康科学部心理学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
修 道 ス タ ン ダ ー ド 科 目	全 学 共 通 科 目	修大基礎講座	1①		2		○			2	2	1			兼2 兼6 兼6 兼3 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼4 オムニバス		
		初年次セミナー	1②		2		○			1							
		情報処理入門Ⅰ	1①～②	2			○										
		情報処理入門Ⅱ (情報と表現)	1・2①～④		2		○										
		情報処理入門Ⅱ (情報と分析)	1・2①～④		2		○										
		大学生活とキャリア形成	2①～②		2		○										
		地域イノベーション論	1・2①～④		2		○										
		地域コミュニケーション論	1・2①～④		2		○										
		ひろしま未来協創プロジェクト(都心のコミュニケーション)	2・3①～②		2		○										
		ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション)	2・3①～②		2		○										
		ひろしま未来協創プロジェクト(都心のイノベーション)	2・3③～④		2		○										
		ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)	2・3③～④		2		○										
		ひろしま未来協創特講(ファシリテーション入門)	1・2①		1		○										
		ひろしま未来協創特講(ワークショップ・スキル入門)	1・2②		1		○										
		ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・中山間)	1・2④		1		○										
ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・都心)	1・2①		1		○												
広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2①～②		2		○												
小計 (17科目)		—	2	28	0	—			2	2	1	0	0	兼15	—		
グ ロー バ ル 科 目	留 学 生 教 育 科 目	日本語Ⅰ	1・2①～②		1				○						兼1	—	
		日本語Ⅱ	1・2③～④		1				○						兼1		
		日本語Ⅲ	1・2①～②		1				○						兼1		
		日本語Ⅳ	1・2③～④		1				○						兼1		
		日本語Ⅴ	1・2①～②		1				○						兼1		
		日本語Ⅵ	1・2③～④		1				○						兼1		
		日本語Ⅶ	1・2①～②		1				○						兼1		
		日本語Ⅷ	1・2③～④		1				○						兼1		
		アカデミック日本語	1・2①～④		2		○								兼1		
		ビジネス日本語	1・2①～④		2		○								兼1		
		日本研究	1・2①～④		2		○								兼1		
	小計 (11科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
	留 学 支 援 教 育 科 目	留学スタートアップ	1・2①～④		1		○									兼1	—
		留学英語入門	1・2①～④		2		○									兼1	
		英語圏留学入門	1・2①～④		1		○									兼1	
アジア圏留学入門		1・2①～④		1		○									兼1		
外国語としての日本語		1・2①～④		2		○									兼1		
留学フォローアップ		1・2①～④		1		○									兼1		
グローバル特講Ⅰ		1①～④		2		○									兼1		
グローバル特講Ⅱ		1①～④		1		○									兼1		
グローバル特講Ⅲ		2①～④		2		○									兼1		
グローバル特講Ⅳ		3①～④		1		○									兼1		
小計 (10科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—		
国 際 共 修 科 目	Multicultural Project	1・2①～④		2		○									兼1	—	
	多文化交流プロジェクト	1・2①～④		2		○									兼1		
	小計 (2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2		—

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部心理学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 教育 科目	教養科目	哲学	1・2①～②	2		○								兼1
		倫理学	1・2③～④	2		○								兼1
		美学	1・2①～②	2		○								兼1
		芸術学	1・2①～②	2		○								兼2
		日本文学	1・2①～②	2		○								兼1
		西洋文学	1・2①～②	2		○								兼2
		日本語学	1・2①～②	2		○								兼1
		心理学	1①・③	2		○			3	1	1			
		文化論	1・2①～②	2		○								兼2
		文化人類学	1・2①～②	2		○								兼1
		日本史	1・2①～②	2		○								兼2
		東洋史	1・2①～②	2		○								兼1
		西洋史	1・2①～②	2		○								兼2
		地理学	1・2①～②	2		○								兼2
		社会学	1・2①～②	2		○								兼1
		法学	1・2①～②	2		○								兼1
		政治学	1・2①～②	2		○								兼1
		経済学	1・2①～②	2		○								兼1
		統計学	1・2①～②	2		○								兼1
		情報社会論	1・2①～②	2		○								兼1
		物理学	1・2③～④	2		○								兼1
		化学	1・2①～④	2		○								兼1
		生物学	1・2①～④	2		○								兼1
		環境科学	1・2①～④	2		○								兼1
		数学	1・2①～②	2		○								兼1
		教養講義(現代の哲学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋の美術)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋の音楽)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(江戸文学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(ドイツ文学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋文化論)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(アジアの文化と社会)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(日本近代史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(日本近現代史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(東洋近世史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西欧近代史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋中近世史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(生活の中の地理学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(社会学のものの見方と考え方)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(現代経済学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(応用統計学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(情報環境論)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(ヒトの生命科学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(応用数学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(現代心理学の展開)	1③	2		○					1			
		教養講義(社会と政治)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(近現代の哲学)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(終末期医療と倫理)	1・2③～④	2		○								兼1
		総合教養講義a(西洋美術の図像学)	1・2③～④	2		○								兼1
		総合教養講義a(浮世絵)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	1・2①～②	2		○								兼1

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部心理学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	総合教養講義a(神仏と芸能)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代日本語の特質)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(英語と日本語)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(ことばと社会)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(ピアノ講座)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(声楽と合唱)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(教育文化論)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(歴史と社会)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(ベーシック・ファイナンス)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(コーポレートファイナンス入門)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(働く人のための経営学)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会とマーケティング)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(家族と法)	1・2③～④		2		○								兼2
	総合教養講義a(事例で学ぶ民法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(国際社会と法)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(情報と社会)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(生命の化学)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(病気の生物学)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(大気の問題と生態系)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(生物多様性保全の問題)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(自然環境と災害)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(芸術文化学)	2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(和紙)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(マスコミ論)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(社会保障論)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(国際理解)	2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義b(生命情報論)	2①～②		2		○								兼1
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2①～②		2		○								兼12
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2①～④		2		○								兼3
	小計(88科目)	—	0	176	0	—			3	1	1	0	0	兼62
外国語 科目 英語 科目	英語リスニングⅠ	1①～②		1				○						兼4
	英語リスニングⅢ	1①～②		1				○						兼2
	英語リスニングⅤ	1①～②		1				○						兼1
	英語リスニングⅡ	1③～④		1				○						兼4
	英語リスニングⅣ	1③～④		1				○						兼2
	英語リスニングⅥ	1③～④		1				○						兼1
	英語リーディングⅠ	1①～②		1				○						兼4
	英語リーディングⅢ	1①～②		1				○						兼2
	英語リーディングⅤ	1①～②		1				○						兼1
	英語リーディングⅡ	1③～④		1				○						兼4
	英語リーディングⅣ	1③～④		1				○						兼2
	英語リーディングⅥ	1③～④		1				○						兼1
	実用英語実習Ⅰ	1・2①～②		1			○							兼1

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部心理学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	実用英語実習Ⅱ	1・2③～④		1			○							兼1
	英語ライティング研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼2
	英語ライティング研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼2
	英語ライティング研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語ライティング研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語読解研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼4
	英語読解研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼4
	英語読解研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語読解研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語聴解研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼3
	英語聴解研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼3
	英語聴解研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語聴解研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼3
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼3
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼2
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼2
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語語法研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語語法研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	資格英語研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼5
	資格英語研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼5
	資格英語研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼2
	資格英語研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼2
	資格英語研究Ⅴ	1・2①～②		2		○								兼1
	資格英語研究Ⅵ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語プレゼンテーション研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語プレゼンテーション研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼1
	小計（44科目）	—	0	74	0	—			0	0	0	0	0	兼28 —
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	フランス語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	フランス語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	フランス語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	フランス語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	スペイン語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	スペイン語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	スペイン語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	スペイン語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	中国語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	中国語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	中国語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	中国語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康科学部心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1	集中
	言語と文化Ⅰ(ドイツ)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅱ(ドイツ)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅲ(ドイツ)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅳ(ドイツ)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅰ(フランス)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅱ(フランス)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅲ(フランス)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅳ(フランス)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅰ(スペイン)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅱ(スペイン)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅲ(スペイン)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅳ(スペイン)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅰ(中国)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅱ(中国)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅲ(中国)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅳ(中国)	2③～④		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	2①～②		2			○						兼2		
	言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	2③～④		2			○						兼2		
	言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	2①～②		2			○						兼1		
	言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	2③～④		2			○						兼1		
	上級外国語Ⅰ(中国語)	2①～②		2			○						兼1		
	上級外国語Ⅱ(中国語)	2③～④		2			○						兼1		
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2①～②		2			○						兼1		
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2③～④		2			○						兼1		
	小計(44科目)	—	0	68	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼17	
保健体育科目	健康科学論	1・2③～④		2			○						兼2	集中	
	運動科学論	1・2③～④		2			○						兼1		
	健康科学演習	1・2①～②		2				○					兼1		
	運動科学演習	1・2③～④		2				○					兼1		
	健康スポーツ実習(エアロビクス)	1・2③～④		1					○				兼1		
	健康スポーツ実習(ゴルフ)	1・2①～④		1					○				兼2		
	健康スポーツ実習(サッカー)	1・2①～④		1					○				兼2		
	健康スポーツ実習(ソフトバレーボール)	1・2①～②		1					○				兼1		
	健康スポーツ実習(ソフトボール)	1・2①～④		1					○				兼2		
	健康スポーツ実習(卓球)	1・2①～②		1					○				兼2		
	健康スポーツ実習(テニス)	1・2①～④		1					○				兼2		
	健康スポーツ実習(ニュースポーツ)	1・2③～④		1					○				兼1		
	健康スポーツ実習(バスケットボール)	1・2①～④		1					○				兼1		
	健康スポーツ実習(バドミントン)	1・2③～④		1					○						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康科学部心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	運動スポーツ実習 (テニス)	1・2①～④		1				○						兼2	集中 集中 集中 集中
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	1・2①～④		1				○					兼1		
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	1・2①～④		1				○					兼2		
	運動スポーツ実習 (バレーボール)	1・2①～④		1				○					兼1		
	運動スポーツ実習 (フットサル)	1・2①～④		1				○					兼1		
	野外運動実習Ⅰ (キャンプ)	1・2①～②		1				○					兼3		
	野外運動実習Ⅰ (スキー)	1・2③～④		1				○					兼3		
	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	1・2①～②		1				○					兼1		
	野外運動実習Ⅱ (スキー発展)	1・2③～④		1				○					兼1		
	小計 (34科目)	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	兼20	
主専攻科目	健康科学統計法	1①	2			○				1	1				隔年 隔年 隔年 隔年 オムニバス —
	健康心理学	1・2②	2			○				1					
	食行動科学	2・3①	2			○				1					
	カウンセリング心理学	2・3②	2			○				1					
	栄養と健康	1①～②	2			○							兼1		
	基礎化学	1①～②	2			○							兼1		
	食育入門	3①～②	2			○							兼1		
	地域食文化論	3③～④	2			○							兼1		
	スポーツ文化論	1・2①～②	2			○							兼1		
	コミュニケーション論A	2・3①～②	2			○							兼1		
	コミュニケーション論B	2・3③～④	2			○							兼1		
	スポーツ社会学	2・3①～②	2			○							兼1		
	健康科学部特別講義(生命と倫理)	1③～④	2			○							兼1		
	インターンシップ	2・3通	2				○		1				兼2		
	イノベーション・プロジェクトⅠ(地域課題研究2019)	3・4通	2				○						兼1		
	イノベーション・プロジェクトⅡ(地域課題研究2019)	3・4③～④	2				○						兼1		
	イノベーション・プロジェクトⅠ(地域課題研究2020)	3・4通	2				○						兼1		
	イノベーション・プロジェクトⅡ(地域課題研究2020)	3・4③～④	2				○						兼1		
小計 (18科目)	—	2	34	0	—			3	1	1	0	0	兼9	—	
専門基礎科目	心理学概論Ⅰ	1①	2			○					1			共同 共同 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年	
	心理学概論Ⅱ	1①	2			○					1				
	心理学研究法	1①	2			○					1				
	心理調査概論	1②	2			○			1	1					
	心理統計法Ⅰ	1③	2			○				1	1				
	心理学実習Ⅰ	1④	1					○			1		兼1		
	心理学実習Ⅱ	2①	1								1		兼1		
	心理学基礎演習	2④	1			○			2	2					
	心理学史	2・3①	2			○			1						
	心理学外国語文献	2・3①	2			○			1						
	心理学キーワードA	2①	2												

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康科学部心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門標準科目 心理臨床領域	臨床心理学	1・2②		2		○			2					兼1	隔年
	医学概論	1・2③		2		○									隔年
	障がい者(児)心理学	1・2④		2		○			1						隔年
	ストレスマネジメント	2・3①		2		○			1						隔年
	心理査定論	1・2④		2		○				1				兼1 兼1	隔年
	人格心理学	1・2④		2		○									隔年
	心理療法論	2・3④		2		○									隔年
	認知行動療法論	2・3①		2		○			1						隔年
	犯罪心理学	1・2③		2		○			1					兼1	隔年
	学校臨床心理学	1・2④		2		○			1						隔年
	発達臨床心理学	2・3②		2		○			1						隔年
	児童福祉論	1④		2		○									隔年
	小計 (12科目)		—	0	24	0	—			4	1	0	0	0	兼4
専門標準科目 心理調査領域	社会心理学	1②		2		○			1					兼1	隔年 隔年
	応用心理学	1・2③		2		○				1					
	集団力学	1・2③		2		○				1					
	組織心理学	2①		2		○									
	心理統計法Ⅱ	2④		2		○				1	1			兼1	隔年 隔年
	学校教育心理学	1・2②		2		○			1						
	実験社会心理学	2・3①		2		○			1						
	産業心理学	2④		2		○									
小計 (8科目)		—	0	16	0	—			2	1	1	0	0	兼1	—
専門標準科目 心理科学領域	動機づけ・感情心理学	1・2④		2		○			1					兼1	隔年 隔年 隔年 隔年
	学習心理学	1③		2		○									
	認知心理学	1・2②		2		○			1						
	発達心理学	1・2③		2		○				1					
	進化心理学	2・3②		2		○			1					兼1 兼1	隔年 隔年
	知覚心理学	1③		2		○									
	生理心理学	1④		2		○									
	乳幼児心理学	2・3④		2		○				1					
	心理言語学	2・3③		2		○			1					兼2	隔年
	小計 (9科目)		—	0	18	0	—			3	1	0	0		
専門発展科目	心理学特殊実習	2②	1					○	6	1				兼0	オムニバス 隔年 隔年
	心理学実習Ⅲ	3①～②	1					○	8	3					
	心理学実習Ⅳ	3③～④	1					○	8	3					
	心理臨床・実践職能論	3・4①		2		○			1						
	心理統計法Ⅲ	3・4①		2		○			1						
	演習Ⅰ	3①～②	2				○		8	3					
	演習Ⅱ	3③～④	2				○		8	3					
	演習Ⅲ	4①～②	2				○		8	3					
	演習Ⅳ	4③～④	2				○		8	3					
	卒業論文	4通	4				○		8	3					
	小計 (10科目)		—	15	4	0	—			9	3	0	0	0	
	法学概論	1・2③～④		2		○								兼4 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス
	政治学概論	2・3①～②		2		○									
	教育政策論	2・3①～②		2		○									
	国際法	2・3③～④		4		○									
	国際政治学Ⅰ	2・3①～②		2		○									

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部心理学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
自由 選択 科目	国際政治学Ⅱ	2・3③～④		2		○								兼1
	現代社会学	1・2③～④		2		○								兼1
	現代経済入門Ⅰ	1①～②		2		○								兼1
	現代経済入門Ⅱ	1③～④		2		○								兼1
	生涯学習論Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼1
	生涯学習論Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼1
	社会教育計画Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼1
	社会教育計画Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼1
	哲学概論Ⅰ	1①～②		2		○								兼1
	哲学概論Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼1
	倫理学概論Ⅰ	1①～②		2		○								兼1
	倫理学概論Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼1
	小計（17科目）	—	0	36	0	—								兼14
資格 課程 に 関 する 科目	教職入門(中等)	1①～②			2	○								兼1
	教育心理学（中等）	2・3③～④			2	○			1					
	教育原理(中等)	1①～②			2	○								兼1
	教育制度論(中等)	1③～④			2	○								兼1
	中等社会科教育法A	3①～②			2	○								兼1
	社会科・公民科教育法A	3③～④			2	○								兼1
	中等道德教育論	2③～④			2	○								兼1
	中等特別活動論	2③～④			2	○								兼1
	中等教育方法論	2①～②			2	○								兼1
	中等生徒・進路指導論	2①～②			2	○								兼1
	中等教育相談	2③～④			2	○								兼1
	中等教育実習事前事後指導	3・4通			1	○								兼2
	中等教育実習Ⅰ	3通			2			○						兼1
	中等教育実習Ⅱ	4通			2			○						兼1
	教職実践演習(中・高)	4③～④			2		○							兼3
	差別問題論	1・2①～②			2	○								兼1
	人権教育論	1③～④			2	○								兼1
	小計（17科目）	—	0	0	33	—			1	0	0	0	0	兼12

教 育 課 程 等 の 概 要																
(健康科学部心理学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
資格課程関連授業科目	憲法Ⅰ	1・2①～②			2	○									兼2	※講義
	憲法Ⅱ	1・2③～④			2	○									兼2	
	社会教育実習	3通			2			○							兼1	
	小計(3科目)	—	0	0	6	—				0	0	0	0	0	兼4	
合計(362科目)		—	32	569	39	—			9	3	1	0	0	0	兼172	—
学位又は称号		学士(心理学)			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
・修道スタンダード科目6単位以上、外国語科目英語科目4単位以上・外国語科目初修外国語科目2単位以上を含む共通教育科目22単位以上、「健康科学統計法」2単位を必修とし「栄養と健康」・「食育入門」・「地域食文化論」の3科目のうち2科目4単位を選択必修とする健康科学部総合科目6単位以上・専門標準科目心理臨床領域6単位以上・同心理調査領域6単位以上・同心理科学領域6単位以上を含む主専攻科目78単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 ・履修制限単位数：第1学期及び第2学期の合計、第3学期及び第4学期の合計の各々について24単位(ただし4年次に限り28単位)、年間44単位。								1学年の学期区分				4期				
								1学期の授業期間				8週				
								1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
修 道 ス タ ン ダ ー ド 科 目	全 学 共 通 科 目	修大基礎講座	1①		2		○			3					兼2 兼6 兼6 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼4	オムニバス
		初年次セミナー	1②		2		○			2						オムニバス
		情報処理入門Ⅰ	1①～②	2			○									
		情報処理入門Ⅱ(情報と表現)	1・2①～④		2		○									
		情報処理入門Ⅱ(情報と分析)	1・2①～④		2		○									
		大学生活とキャリア形成	2①～②		2		○									
		地域イノベーション論	1・2①～④		2		○									
		地域コミュニケーション論	1・2①～④		2		○									
		ひろしま未来協創プロジェクト(都心のコミュニケーション)	2・3①～②		2		○									
		ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション)	2・3①～②		2		○									
		ひろしま未来協創プロジェクト(都心のイノベーション)	2・3③～④		2		○									
		ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)	2・3③～④		2		○									
		ひろしま未来協創特講(ファシリテーション入門)	1・2①		1		○									
		ひろしま未来協創特講(ワークショップ・スキル入門)	1・2②		1		○									
ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・中山間)	1・2④		1		○											
ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・都心)	1・2①		1		○											
広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2①～②		2		○								兼4	オムニバス		
小計(17科目)		—	2	28	0	—			3	0	0	0	0	兼15	—	
グ ロ ー バ ル 科 目	留 学 生 教 育 科 目	日本語Ⅰ	1・2①～②		1				○						兼1	
		日本語Ⅱ	1・2③～④		1				○						兼1	
		日本語Ⅲ	1・2①～②		1				○						兼1	
		日本語Ⅳ	1・2③～④		1				○						兼1	
		日本語Ⅴ	1・2①～②		1				○						兼1	
		日本語Ⅵ	1・2③～④		1				○						兼1	
		日本語Ⅶ	1・2①～②		1				○						兼1	
		日本語Ⅷ	1・2③～④		1				○						兼1	
		アカデミック日本語	1・2①～④		2		○								兼1	
		ビジネス日本語	1・2①～④		2		○								兼1	
		日本研究	1・2①～④		2		○								兼1	
	小計(11科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
	留 学 支 援 教 育 科 目	留学スタートアップ	1・2①～④		1		○								兼1	
		留学英語入門	1・2①～④		2		○								兼1	
英語圏留学入門		1・2①～④		1		○								兼1		
アジア圏留学入門		1・2①～④		1		○								兼1		
外国語としての日本語		1・2①～④		2		○								兼1		
留学フォローアップ		1・2①～④		1		○								兼1		
グローバル特講Ⅰ		1①～④		2												

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部健康栄養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通 教育 科目	教養科目	哲学	1・2①～②	2		○								兼1
		倫理学	1・2③～④	2		○								兼1
		美学	1・2①～②	2		○								兼1
		芸術学	1・2①～②	2		○								兼2
		日本文学	1・2①～②	2		○								兼1
		西洋文学	1・2①～②	2		○								兼2
		日本語学	1・2①～②	2		○								兼1
		心理学	1①・③	2		○								兼5
		文化論	1・2①～②	2		○								兼2
		文化人類学	1・2①～②	2		○								兼1
		日本史	1・2①～②	2		○								兼2
		東洋史	1・2①～②	2		○								兼1
		西洋史	1・2①～②	2		○								兼2
		地理学	1・2①～②	2		○								兼2
		社会学	1・2①～②	2		○								兼1
		法学	1・2①～②	2		○								兼1
		政治学	1・2①～②	2		○								兼1
		経済学	1・2①～②	2		○								兼1
		統計学	1・2①～②	2		○								兼1
		情報社会論	1・2①～②	2		○								兼1
		物理学	1・2③～④	2		○								兼1
		化学	1・2①～④	2		○								兼1
		生物学	1・2①～④	2		○								兼1
		環境科学	1・2①～④	2		○								兼1
		数学	1・2①～②	2		○								兼1
		教養講義(現代の哲学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋の美術)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋の音楽)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(江戸文学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(ドイツ文学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋文化論)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(アジアの文化と社会)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(日本近代史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(日本近現代史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(東洋近世史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西欧近代史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(西洋中近世史)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(生活の中の地理学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(社会学のものの見方と考え方)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(現代経済学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(応用統計学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(情報環境論)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(ヒトの生命科学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(応用数学)	1・2③～④	2		○								兼1
		教養講義(現代心理学の展開)	1③	2		○								兼1
		教養講義(社会と政治)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(近現代の哲学)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(終末期医療と倫理)	1・2③～④	2		○								兼1
		総合教養講義a(西洋美術の図像学)	1・2③～④	2		○								兼1
		総合教養講義a(浮世絵)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	1・2①～②	2		○								兼1
		総合教養講義a(神仏と芸能)	1・2③～④	2		○								兼1

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	総合教養講義a(現代日本語の特質)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(英語と日本語)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(ことばと社会)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(ピアノ講座)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(声楽と合唱)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(教育文化論)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(歴史と社会)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(ベーシック・ファイナンス)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(コーポレートファイナンス入門)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(働く人のための経営学)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会とマーケティング)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(家族と法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(事例で学ぶ民法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(現代社会と企業法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(国際社会と法)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(情報と社会)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(生命の化学)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(病気の生物学)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(大気の問題と生態系)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(生物多様性保全の問題)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義a(自然環境と災害)	1・2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(芸術文化)	2①～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(和紙)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(マスコミ論)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(社会保障論)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2③～④		2		○								兼1
	総合教養講義b(国際理解)	2①～②		2		○								兼1
	総合教養講義b(生命情報論)	2①～②		2		○								兼1
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2①～②		2		○								兼12
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2①～④		2		○								兼3
	小計(88科目)	—	0	176	0	—			0	0	0	0	0	兼67
外国語科目 英語科目	英語リスニングⅠ	1①～②		1				○						兼4
	英語リスニングⅢ	1①～②		1				○						兼2
	英語リスニングⅤ	1①～②		1				○						兼1
	英語リスニングⅡ	1③～④		1				○						兼4
	英語リスニングⅣ	1③～④		1				○						兼2
	英語リスニングⅥ	1③～④		1				○						兼1
	英語リーディングⅠ	1①～②		1				○						兼4
	英語リーディングⅢ	1①～②		1				○						兼2
	英語リーディングⅤ	1①～②		1				○						兼1
	英語リーディングⅡ	1③～④		1				○						兼4
	英語リーディングⅣ	1③～④		1				○						兼2
	英語リーディングⅥ	1③～④		1				○						兼1
	実用英語実習Ⅰ	1・2①～②		1			○							兼1
	実用英語実習Ⅱ	1・2③～④		1			○							兼1
	英語ライティング研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼2

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	英語ライティング研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼2
	英語ライティング研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語ライティング研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語読解研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼4
	英語読解研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼4
	英語読解研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語読解研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語聴解研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼3
	英語聴解研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼3
	英語聴解研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語聴解研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼3
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼3
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼2
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼2
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語語法研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼2
	英語語法研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語語法研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼1
	資格英語研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼5
	資格英語研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼5
	資格英語研究Ⅲ	1・2①～②		2		○								兼2
	資格英語研究Ⅳ	1・2③～④		2		○								兼2
	資格英語研究Ⅴ	1・2①～②		2		○								兼1
	資格英語研究Ⅵ	1・2③～④		2		○								兼1
	英語プレゼンテーション研究Ⅰ	1・2①～②		2		○								兼1
	英語プレゼンテーション研究Ⅱ	1・2③～④		2		○								兼1
	小計（44科目）	—	0	74	0	—			0	0	0	0	0	兼28
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	フランス語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	フランス語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	フランス語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	フランス語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	スペイン語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	スペイン語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	スペイン語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	スペイン語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	中国語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	中国語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	中国語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	中国語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1①～②		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1③～④		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1①～②		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1③～④		1				○						兼1
	言語と文化Ⅰ（ドイツ）	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅱ（ドイツ）	2③～④		2		○								兼1

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	言語と文化Ⅲ(ドイツ)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅳ(ドイツ)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅰ(フランス)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅱ(フランス)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅲ(フランス)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅳ(フランス)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅰ(スペイン)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅱ(スペイン)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅲ(スペイン)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅳ(スペイン)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅰ(中国)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅱ(中国)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅲ(中国)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅳ(中国)	2③～④		2		○								兼1
	言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	2①～②		2		○								兼2
	言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	2③～④		2		○								兼2
	言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	2①～②		2		○								兼1
	言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	2③～④		2		○								兼1
	上級外国語Ⅰ(中国語)	2①～②		2		○								兼1
	上級外国語Ⅱ(中国語)	2③～④		2		○								兼1
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2①～②		2		○								兼1
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2③～④		2		○								兼1
	小計(44科目)	—	0	68	0	—			0	0	0	0	0	兼17
保健体育科目	健康科学論	1・2③～④		2		○								兼2
	運動科学論	1・2③～④		2		○								兼1
	健康科学演習	1・2①～②		2			○							兼1
	運動科学演習	1・2③～④		2			○							兼1
	健康スポーツ実習(エアロビクス)	1・2③～④		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(ゴルフ)	1・2①～④		1				○						兼2
	健康スポーツ実習(サッカー)	1・2①～④		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(ソフトバレーボール)	1・2①～②		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(ソフトボール)	1・2①～④		1				○						兼2
	健康スポーツ実習(卓球)	1・2①～②		1				○						兼2
	健康スポーツ実習(テニス)	1・2①～④		1				○						兼3
	健康スポーツ実習(ニュースポーツ)	1・2③～④		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(バスケットボール)	1・2①～④		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(バドミントン)	1・2③～④		1				○						兼2
	健康スポーツ実習(ボディワーク)	1・2③～④		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(Shudo AP)	1・2③～④		1				○						兼1
	健康スポーツ実習(アダプテッド・スポーツ)	1・2③～④		1				○						兼2
	健康スポーツ実習(フットサル)	1・2①～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(アグティックスポーツ)	1・2①～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(エアロビクス)	1・2③～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(ゴルフ)	1・2①～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(サッカー)	1・2①～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(ソフトボール)	1・2①～④		1				○						兼2
	運動スポーツ実習(卓球)	1・2①～④		1				○						兼2
	運動スポーツ実習(ダンス)	1・2①～②		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(テニス)	1・2①～④		1				○						兼3
	運動スポーツ実習(バスケットボール)	1・2①～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(バドミントン)	1・2①～④		1				○						兼2
	運動スポーツ実習(バレーボール)	1・2①～④		1				○						兼1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2①～④		1				○						兼1

集中

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
		野外運動実習Ⅰ（キャンプ）	1・2①～②		1					○						兼3	集中		
		野外運動実習Ⅰ（スキー）	1・2③～④		1					○						兼3	集中		
		野外運動実習Ⅱ（キャンプ発展）	1・2①～②		1					○						兼1	集中		
		野外運動実習Ⅱ（スキー発展）	1・2③～④		1					○						兼1	集中		
		小計（34科目）	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	兼20	—			
主専攻科目	健康科学部総合科目	健康科学統計法	1①		2		○									兼2	隔年		
		健康心理学	1・2②	2			○									兼1			
		食行動科学	2・3①		2		○									兼1			
		カウンセリング心理学	2・3①～②	2			○									兼1			
		栄養と健康	1①～②		2		○			1									
		基礎化学	1①～②		2		○			1	1								
		食育入門	3①～②		2		○												
		地域食文化論	3③～④		2		○			1									
		スポーツ文化論	1・2①～②		2		○								兼1	隔年			
		コミュニケーション論A	2・3①～②		2		○								兼1				
		コミュニケーション論B	2・3③～④		2		○								兼1	隔年			
		スポーツ社会学	2・3①～②		2		○								兼1				
		健康科学部特別講義(生命と倫理)	1③～④		2		○								兼1	オムニバス			
		インターンシップ	2・3通		2			○		2					兼1				
		イノベーション・プロジェクトⅠ(地域課題研究2019)	3・4通		2			○							兼1				
		イノベーション・プロジェクトⅡ(地域課題研究2019)	3・4③～④		2			○							兼1				
		イノベーション・プロジェクトⅠ(地域課題研究2020)	3・4通		2			○							兼1				
		イノベーション・プロジェクトⅡ(地域課題研究2020)	3・4③～④		2			○							兼1				
		小計（18科目）		—	4	32	0	—			3	1	0	0	0	兼10	—		
健康・環境と社会	健康・環境と社会	健康管理概論	1①～②	2			○				1								
		公衆衛生学	2①～②	2			○				1								
		社会福祉概論	2③～④	2			○								兼1				
		地域包括ケア論	3①～②	2			○				1								
		小計（4科目）	—	8	0	0	—			2	0	0	0	0	兼1				
専門基礎分野	成り立ちの構造と機能及び疾病の	生化学Ⅰ	1①～②	2			○				1								
		生化学Ⅱ	1③～④	2			○				1								
		生化学実験	2①～②	1						○	1			1					
		解剖生理学Ⅰ	1①～②	2			○				1								
		解剖生理学Ⅱ	1③～④	2			○				1								
		解剖生理学実験	2①～②	1						○	1			1					
		臨床医学Ⅰ	2①～②	2			○				1								
		臨床医学Ⅱ	2③～④	2			○				1								
		臨床医学Ⅲ	3③～④	2			○				1			1	兼1	オムニバス			
		小計（9科目）	—	16	0	0	—			2	0	0	0	1	兼1				
		食べ物と健康	食べ物と健康	食品学Ⅰ	1①～②	2			○				1						
				食品学Ⅱ（含食品加工学）	1③～④	2			○				1						
				基礎分析実験	1①～②	1						○	1				1		
				食品学実験Ⅰ	1③～④	1						○	1				1		
食品学実験Ⅱ	2①～②			1						○	1								
食品加工学実習	3①～②			1						○	1			1					
食品衛生学	1③～④			2			○				1								
食品衛生学実験	2①～②			1						○	1			1					
調理学	1①～②			2			○				1								
調理学実習Ⅰ	1①～②			1						○	1			1					
調理学実習Ⅱ	1③～④			1						○	1			1					
調理学実習Ⅲ	2①～②			1						○	1			1					
小計（12科目）	—			16	0	0	—			4	0	0	0	2	兼0				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部健康栄養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門分野	基礎栄養学	1③～④	2			○			1					
	栄養生理学実験	2③～④	1					○	1				1	
	小計（2科目）	—	3	0	0	—			1	0	0	0	1	兼0
	応用栄養学Ⅰ	2①～②	2			○				1				
	応用栄養学Ⅱ	2③～④	2			○				1				
	応用栄養学Ⅲ	3①～②	2			○				1				
	応用栄養学実習	3③～④	1					○		1			1	
	小計（4科目）	—	7	0	0	—			0	1	0	0	1	兼0
	栄養教育論Ⅰ	2①～②	2			○			1					
	栄養教育論Ⅱ	2③～④	2			○			1					
	栄養カウンセリング演習	3①～②	2				○		1					
	栄養教育論実習	3③～④	1					○	1				1	
	小計（4科目）	—	7	0	0	—			1	0	0	0	1	兼0
	臨床栄養学Ⅰ	2①～②	2			○			1					
	臨床栄養学Ⅱ	2③～④	2			○			1					
	臨床栄養学Ⅲ	3①～②	2			○			1					
	臨床栄養学演習	3①～②	2				○		1					
	臨床栄養学実習Ⅰ	3①～②	1					○	1				1	
	臨床栄養学実習Ⅱ	3③～④	1					○	1				1	
	小計（6科目）	—	10	0	0	—			2	0	0	0	1	兼0
	公衆栄養学Ⅰ	2③～④	2			○			1					
	公衆栄養学Ⅱ	3①～②	2			○			1					
	公衆栄養学実習	3③～④	1					○	1				1	
	小計（3科目）	—	5	0	0	—			1	0	0	0	1	兼0
	給食経営管理論Ⅰ	1③～④	2			○			1					
	給食経営管理論Ⅱ	2①～②	2			○			1					
	給食経営管理実習Ⅰ（学内）	2③～④	1					○	1				2	
	給食経営管理実習Ⅱ（地域配食）	2③～④	1					○	1				2	
	小計（4科目）	—	6	0	0	—			1	0	0	0	2	兼0
	総合栄養演習Ⅰ	3①～④	2				○		4					共同 オムニバス
	総合栄養演習Ⅱ	4①～④		2			○		4					共同 オムニバス
	小計（2科目）	—	2	2	0	—			4	0	0	0	0	兼0
	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	3①～④	1					○	1				1	集中
	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	4①～④		1				○	1				1	集中
	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	4①～④		1				○	2				1	集中・共同
	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	4①～④		1				○	2				1	集中・共同
	臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）	4①～④		1				○	2				1	集中・共同
	小計（5科目）	—	1	4	0	—			4	0	0	0	5	兼0
専門 発展 分野	食品機能性成分の理解	3①～②		2		○			1					
	食品微生物学	3③～④		2		○			1					
	食産業の理解	3③～④		2		○			1					
	地域食産業演習	4①～④		2			○		1					
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	兼0

教 育 課 程 等 の 概 要																
(健康科学部健康栄養学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ゼミナール		卒業基礎ゼミ	3③～④	2				○			10	1				
		卒業ゼミ	4①～④	2				○			10	1				
		卒業年次セミナー	4①～④		2			○			10	1				
		小計 (3科目)	—	4	2	0	—				10	1	0	0	0	兼0
科選自由	科目択由	他学部他学科の授業科目につき省略														
		小計 (-科目)	—	0	0	0	—									—
資格課程に関する科目	教職に関する科目	教職入門 (中等)	1①～②			2	○									兼1
		教育心理学 (中等)	2・3③～④			2	○									兼1
		教育原理 (中等)	1①～②			2	○									兼1
		教育制度論 (中等)	1③～④			2	○									兼1
		中等道德教育論	2③～④			2	○									兼1
		中等特別活動論	2③～④			2	○									兼1
		中等教育方法論	2①～②			2	○									兼1
		中等生徒指導論(栄養)	2①～②			2	○									兼1
		中等教育相談	2③～④			2	○									兼1
		学校栄養教育実習事前事後指導	3・4①～④			1		○			2	1			1	集中・共同
		学校栄養教育実習	4①～④			1			○		1				1	集中
		教職実践演習(栄養)	4③～④			2		○			2	1				兼1
		小計 (12科目)	—	0	0	22	—				2	1	0	0	1	兼8
		科関連授業	学校栄養教育論Ⅰ	3①～②			2	○				1	1			
学校栄養教育論Ⅱ	3③～④				2	○				1	1				兼1	
憲法Ⅰ	1・2①～②				2	○									兼2	
憲法Ⅱ	1・2③～④				2	○									兼2	
小計 (4科目)	—		0	0	8	—				2	1	0	0	0	兼4	
合計 (346科目)			—	91	464	30	—				11	1	0	0	5	兼163
学位又は称号		学士(栄養学)		学位又は学科の分野				家政関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
・修道スタンダード科目6単位以上、外国語科目英語科目4単位以上・外国語科目初修外国語科目2単位以上を含む共通教育科目22単位以上、「健康心理学」・「カウンセリング心理学」2科目4単位を必修とする健康科学部総合科目6単位以上、専門発展分野2単位以上を含む主専攻科目93単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 ・履修制限単位数：第1学期及び第2学期の合計、第3学期及び第4学期の合計の各々について28単位、年間46単位（資格課程に関する科目を含まない）。									1 学年の学期区分				4学期			
									1 学期の授業期間				8週			
									1 時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
修 道 大 学 学 部 心 理 学 科	全 学 共 通 科 目	修大基礎講座 一年次生が大学での学びや大学生活に円滑に移行するために、大学生としての態度や姿勢を身につけ、大学の学びに必要な学習スキルを習得することを目的としています。 この科目は、部局によって担当され学部・学科単位の講義形式で担当される授業と、少人数クラスで心理学専攻の教員によって担当される授業とから構成されます。 (オムニバス方式／全15回) 3クラス運営、ただし一部の授業は合同で実施。 (13 中嶋 智史、10 児玉 恵美、12 横田 晋大／7回) イントロダクション・履修の仕方 (履修の仕方と履修上の注意事項について) 心理学レポートの書き方(1) (心理学研究論文の書き方、書式について) 心理学レポートの書き方(2) (序論の書き方) 心理学レポートの書き方(3) (方法の書き方) 心理学レポートの書き方(4) (結果の書き方) 心理学レポートの書き方(5) (考察、引用文献の書き方) 総括：振り返り (心理学レポートの書き方のまとめ) (6 中西 大輔／1回) 心理学専攻Moodleの利用の仕方 (広島修道大学 Moodle サイト：Shudo Moodle / Mahara の使い方) (9 増田 尚史／1回) 文章の読み方・書き方 (正しい日本語の読み方と書き方) (部局担当：学習支援センター／1回) 基本のノートテイキング・スキル (ノートを取る目的、効率的なノートの取り方) (部局担当：学生センター／1回) ＜わたし＞と＜あなた＞を大切にする学生生活のために (学生生活とストレス、自他を尊重するコミュニケーション) (部局担当：図書館／1回) 図書館の活用法 (大学図書館の活用)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(部局担当：キャリアセンター／2回) 自己発見と自律へのアプローチ (自己発見レポートをツールとして自分の強みと弱みを理解し、これからの大学生活について考える) キャリアデザインを考えよう (大学生活での目標設定とShuPの活用の仕方) (部局担当：総合企画課・ひろしま未来協創センター／1回) 地域に立脚した修大の歩みと将来像 (広島修道大学を知る)	
	初年次セミナー	本講義では、近年の脳科学の発展やロボット工学の進歩を踏まえつつ、心理学、すなわち「心の科学」とはどのような学問であるのか、またその効用と限界は何かについて講述します。具体的には、①心とは何か？、②心の働きを科学的に（あるいは論理的に）理解するとはどのようなことか？、③われわれの日常生活において遭遇する出来事について、心理学的な立場からはどのような考察を与えられるのか？、などについて論じます。	
	情報処理入門Ⅰ	文書作成や表計算ソフトウェアの操作については、現実的な例題、問題の精選により最適な課題設定を行い、授業時間外学習も活用して基本技能の定着をめざします。情報モラルや著作権、セキュリティなど情報社会の課題、情報通信技術のしくみなど情報科学の基本的事項について可能な限り広範な領域を取り扱い、これらの学習内容をソフトウェア技能の習得と関連付けて、科目全体の一体化をはかります。入学後の早い段階で短期間のうちに修得し、大学における学習基盤として活用できることをめざします。	
	情報処理入門Ⅱ (情報と表現)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。文書作成や画像編集を通じたコンテンツ制作を行い価値創出のプロセスを学びます。	
	情報処理入門Ⅱ (情報と分析)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。データ分析とモデル構築を行い、問題解決の枠組みを学習します。	
	大学生活とキャリア形成	講義（キャリア理論、労働基準法等）の他、フィールドワーク、ペア・ワーク、チームビルディングアクティビティ等、複数のワークを通して自律的キャリア形成力を獲得し、大学生活をマネジメントできるようになります。また、学士課程教育の目標であるディプロマ・ポリシー（思考・行動・態度）、社会人基礎力及びジェネリックスキルを涵養していきます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域イノベーション論	地域課題を自ら発見し、着想し、創造性を発揮するイノベーション人材を育成、ひいては広島地域で、イノベーションを起こす素地づくりを目指します。 真摯に言葉を聴く力、対話する力、気づく力、かけあわせを進める力を醸成し、社会のロールモデルを生み出す協創的な精神を培います。そのために、課題発見やイノベーション、アイディアプランニングの演習を、初学者にも向く初歩的なプログラムで重ねながら、まだ見ぬものに立ち向かい、まだ見ぬ解決方法を編み出せる知恵の取得を対話によって導きます。	
	地域コミュニケーション論	地域コミュニケーション論は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。コミュニケーション力とデザイン力に着目して、地域イノベーションを実現できる立案力やバランス感覚を育みます。 観察と情報整理をもとに、地域の人との会話や現地訪問で感じたことを発言やデザインにつなげていき、地域の未来を構想します。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（都心のコミュニケーション）	ひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。特に前期の「都心のコミュニケーション」においては、都心固有の地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について学習し、かつ、地域実習においては（広島市西区西広島駅周辺を予定）、具体的なデザインや企画実施を通して、課題発見・価値創造のためのデザイン力とコミュニケーション力を修得できます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（中山間地域のコミュニケーション）	新しく開講するひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。特に前期の「中山間地域のコミュニケーション」においては、中山間地域固有の地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について演習し、かつ、地域実習においては（廿日市市を予定）、具体的なデザインや企画実施を通して、課題発見・価値創造のためのコミュニケーション力を修得できます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（都心のイノベーション）	PBL型授業のひろしま未来協創プロジェクトの前期における「都心のコミュニケーション」の成果を引き継ぐかたちで、この後期の「都心のイノベーション」においては、浮かび上がってきた地域課題・地域資源のコミュニケーションプランを一步推し進め、イノベーションと呼べるような具体的なアクションのデザイン力・実施力を地域にもたらすプロジェクト推進能力の修得を目論みます。地域実習（広島市西区を予定）が重要ですが、前期「都心のコミュニケーション」を履修済みであるかどうかは問いません。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（中山間地域のイノベーション）	ひろしま未来協創プロジェクトの前期における「中山間地域のコミュニケーション」の成果をもとに、引き続きPBL型授業として、演習と地域実習を重ねながら、当該地域（廿日市市を予定）における、地域コミュニケーションの改革・変革を模索し、かつ、「中山間地域のイノベーション」としての地域活動の行動化を促進するコーディネート能力の修得を目論みます。前期「中山間地域のコミュニケーション」を履修済みであるかどうかは問いません。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ひろしま未来協創特講(ファシリテーション入門)	急速に注目されている「ファシリテーション」について、その概念を学び、初学者に役立つ入門スキルを習得します。それは、人と人をつなぎ、すべての発言を許容しながら、かけあわせ、集団の知的相互作用を促進する技術。技術であり、状態であり態度である「ファシリテーション」を、難しい知識抜きで、楽しいワークショップの中で、体験的に体得します。広島において未来を協創する基幹スキルと位置づけています。	
	ひろしま未来協創特講(ワークショップ・スキル入門)	地域課題を発見する、課題について関係者が話しあう、さまざまな場面で「対話ワークショップ」形式の導入が盛んです。「ひろしま未来特講」では、地域イノベーションのためのワークショップについて、初学者がはじめてそれにふれ、その楽しさを知るとともに、地域での開催を想定した主催者スキルの習得を目指します。	
	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・中山間)	ひろしま未来協創特講は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。この講義では、特定地域を取り上げ、実際に固有の問題・魅力に対峙し、適切にデザインを提案することで、技術や思想を育みます。今期は「中山間地域(廿日市市玖島・浅原)」をエリアを取り上げ、デザインワークをすすめます。	
	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・都心)	ひろしま未来協創特講は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。この講義では、特定地域を取り上げ、実際に固有の問題・利点に対峙し、適切にデザインを提案することで、技術や思想を育みます。今期は「都心(西広島駅周辺・横川等)」のエリアを取り上げ、デザインワークをすすめます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	講義の柱は二つです。 一つは、広島市が世界の大学に設置をすすめる「広島・長崎講座（被爆都市広島、長崎の事実を後世にいかにかに伝えていくか）」の中味、いま一つは、「今・ここ」の広島を学ぶことです。広島修道大学が広島市に位置する以上、「ここで、今」学ぶことの意味を学生に体感させることです。 広島修道大学に来る留学生が増えてきている今、また、広島修道大学から海外に出て行く学生が増えている今、世界の国々に、「今・ここ」の広島を伝える中味・その伝え方を模索します。 (オムニバス方式／全15回) (178 森島 吉美／10回) 「広島学」概要説明 「広島学－前半の平和問題の概要」 「平和問題とジャーナリズムのあり方」 「戦争と広島」－現地学習のための事前授業 現地学習I（広島平和記念資料館） 現地学習II（江田島海上自衛隊術科学校見学） 現地学習IV（上田宗箇流茶道体験） 福島原発事故のその後 講義のまとめとレポート課題提起 (149 田城 明・178 森島 吉美／1回) 「広島・長崎講座とは？」 (137 斉藤 とも子・178 森島 吉美／1回) 原爆小頭症患者の出会いと生きることの意味 (14 舘尾 尚子・178 森島 吉美／3回) 宮島と町家通り、現地学習III（宮島）	オムニバス方式
グ ロ ー バ ル 科 目	留 学 生 教 育 科 目	日本語Ⅰ	語彙と表現 文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。仮名、漢字の成り立ちや表記、語構成、語彙の体系などの基礎について学びながら、実際の使用例に触れます。	
		日本語Ⅱ	語彙と表現 文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。仮名、漢字の成り立ちや表記、語構成、語彙の体系などの基礎をふまえ、日常生活に見られる使用例について分析や調査を行います。	
		日本語Ⅲ	文法 文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際の場面での使用へと発展させます。前期は、各レベルにおいて習得すべき文法項目の約半分を扱います。	
		日本語Ⅳ	文法 文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際の場面での使用へと発展させます。後期は、各レベルにおいて習得すべき文法項目の残りの半分を扱います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語Ⅴ	読解と作文 文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅵ	読解と作文 文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためのプロジェクト（ポスター発表など）に取り組みます。	
	日本語Ⅶ	聴解と会話 音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話スキルの習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅷ	聴解と会話 音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話技能の習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためのプロジェクト（スピーチ、プレゼンテーション）にも取り組みます。	
	アカデミック日本語	大学における専門的な学びに必要とされる「資料を読む、講義を聴く、レポート・論文を書く、ディスカッション・プレゼンテーションをする」などのスタディ・スキルの習得を目指すとともに、さまざまな課題に取り組むことで実践的運用能力を高めることをねらいとします。日本語能力試験N1レベル以上を対象とします。	
	ビジネス日本語	日本国内での就労において求められる上級レベルの日本語運用能力の習得とビジネスマナー、ビジネス文書作成、職場での会話表現などの技能を身につけることを目的とします。また、地元企業におけるインターンシップ体験を組み合わせ実践力を強化します。日本語能力試験N1レベル以上を対象とします。	
	日本研究	「日本」を知るための入門講座で、文化、政治経済、社会などのテーマに関する知識・経験を深めることを目的とします。講義に加えて、プロジェクト・ワークを取り入れることで、自ら情報収集・考察・発表する力を養成します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学 支 援 教 育 科 目	留学スタートアップ	社会、経済、文化の急速なグローバル化の進展や多文化共生が進む現代の社会状況を踏まえつつ、留学・海外体験の目的や意義について考えます。また、留学体験の効果を高めるために必要な、言語修得、国際理解、異文化間コミュニケーションの基礎について学びます。海外渡航の基礎知識についても触れます。	
	留学英語入門	留学に関わる生活の場面で必要となる英語表現やコミュニケーションの技法について文化的背景をまじえながら学びます。社会生活（日常）、家庭生活（ホームステイの場合）、学校生活（授業、寮など）の場面を想定し、留学生生活を概観しながら実践的な英語運用能力の習得を目指します。	
	英語圏留学入門	欧米、オセアニアなどの英語圏の国・地域への留学プログラムを紹介しつつ、各国事情（社会、経済、文化など）や各大学事情について学ぶとともに、留学派遣先に関する調査・情報収集にもとづいてレポート（発表）します。	
	アジア圏留学入門	中国、韓国、ベトナムなどのアジア圏の国・地域への留学プログラムを紹介しつつ、各国事情（社会、経済、文化など）や各大学事情について学ぶとともに、留学派遣先に関する調査・情報収集にもとづいてレポート（発表）します。	
	外国語としての日本語	学内における留学生、留学派遣先における日本語学習者を対象として日本語学習のサポートをする場面を想定し、「外国語としての日本語」を客観的に観察・分析する視点を養うとともに、日本語学、日本語教育（日本語教授法）の基礎について学びます。	
	留学フォローアップ	学内外の留学プログラムに参加した学生を対象として、留学体験のふりかえりを新たな自己形成（アイデンティティの確立）や将来的なキャリア形成へとつなげるための議論や発表を行います。	
	グローバル特講Ⅰ	グローバルコースの入門講座で、グローバルコース生としての3年間の目標設定や学びのステップについて考察するとともに、異文化相互理解の基礎について学びます。異文化理解のための好奇心・観察力・感受性を高めるとともに知識を深め、異文化の中の自分の立ち位置を確立することをねらいとします。	
	グローバル特講Ⅱ	グローバルコースの発展講座で、入門講座を踏まえつつ、学内外での国際交流活動を通じて異文化コミュニケーションの実践へと展開させます。	
	グローバル特講Ⅲ	グローバルコースの留学直前講座で、入門・発展講座で学んだことを基に、英語による発信技能を習得することを目的とします。自文化や多文化理解に関連する内容について、情報収集・考察・発表する力をプレゼンテーションやディスカッションなどの実践を通して養成します。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康科学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容		備考
		グローバル特講Ⅳ	グローバルコースの留学事後講座で、留学体験のふりかえりを新たな自己形成（アイデンティティの確立）や将来的なキャリア形成へとつなげるための議論や発表を行います。	
	国際 共 修 科 目	Multicultural Project	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。	
		多文化交流プロジェクト	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型共修授業で、使用言語は日本語とします。地域（広島市）との交流・連携や多文化共生を意識してテーマを設定します。学外における活動を組み入れ、その企画、運営を協働して行うことで、履修者間の相互交流を深めるとともに、地域貢献の意識を高めることをねらいとします。	
共通 教 育 科 目	教 養 科 目	哲学	近代哲学の展開について学びます。授業では、主要な哲学者の業績を取り上げていきます。例えば、デカルトの「方法序説」と「省察」、ロックの「人間知性論」、カントの「三批判書」などです。学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを読みこんでくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	
		倫理学	西洋の倫理思想史を概観することを目指します。ただ、すべてを見渡すことは不可能なので、対象を絞って検討します。「講義計画」に示した順序で見て行きます。	
		美学	「芸術」「自然」「天才」など、近代美学の基本概念に着目しながら、西洋近代美学がいかなる問題意識に根ざしていたのか、西洋近代美学の根本問題が何であるのかを、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』に即しつつ探ります。	
		芸術学	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義ではギリシア・ローマ神話に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であるのかなどについて理解を深めていきます。	
		日本文学	日本文学史上、一部の特権階級だけのものだった文学が初めて一般大衆のものになったのは、江戸時代でした。江戸時代に読者層がこのような劇的变化をとげたのは、この時期に印刷技術が向上し、文学作品が出版（大量生産）されて市場に出たからです。この授業では、中学・高校で学んできた文学史とは違った視点から、文学史を取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋文学	ラテンアメリカ（スペイン語圏に限定する）の歴史・社会・文化という背景を学びつつ、この地域の主要な作家たちを紹介します。短編小説や詩、あるいは長編小説の一節などを授業中に読み、その場でミニレポートを書くというアクティビティをできるだけ多く取り入れます。 ラテンアメリカといっても、視覚的情報がないとイメージがわからない受講者も多いと思われるので、アルゼンチン出身の革命家チェ・ゲバラの若き日の南米縦断旅行を描いた映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』と1973年のチリのクーデターを背景にした映画『マチュカ〜僕らと革命〜』を授業中に鑑賞します（これらについてもミニレポートを提出してもらいます）。	
	日本語学	授業では、よく知られている国語の常識（五十音図、ローマ字、小さな「つ」）を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。比較的やさしい日本語の規則性として、以下のテーマを取りあげます。 (1) 日本語の音声（音節、拍、特殊拍） (2) 日本語の韻律（リズム、アクセント、イントネーション） (3) 日本語音声学（母音、半母音、音声記号） 毎週の授業は講義と実習を組み合わせ、次の形式で実施します。 1. 先週の復習 2. 今週の講義 3. ノートテイキング(実習) 4. まとめテスト	
	心理学	何が不思議といって宇宙がその内部に意識を持った存在（人間）を有していることほど摩訶不思議なことではないでしょう。そこで、本講義では生物科学の一領域である心理学から人間の心（意識を含む）の問題にアプローチしてみることにします。講義の結果、受講生に少しでも人間の“心理学的な（＝生物学的な）見方”が理解されれば、と願っています。講義では「心理学の基礎領域（前半部分）」を主に取り上げます。	
	文化論	グローバル化の進展に伴い、世界のありとあらゆる事象が複雑に絡みあうようになった現代社会において、国家間の境界線の揺らぎや文化アイデンティティの変容が起こっています。 こうした社会情勢を背景に文化（商品、ライフスタイル等）の均質化・混淆化・ローカル化が発生しています。 本講義では、マクロ・メゾ・ミクロの観点から各分野の文化変容の考察を行います。 第一部「文化のグローバル化」では、マクロレベルな観点から文化の変容にアプローチします。 第二部「ローカル文化の変容」では、グローバル化が進展しナショナルな境界が薄れる中において、よりいっそう注目されるようになったローカルの文化に焦点を当て、その変容を考察します。事例として広島神楽を取り上げます。	
	文化人類学	文化人類学は(1)「住み込み型の調査（フィールドワーク）」と、(2)それにもとづいて描かれた「民族誌（エスノグラフィー）」によって支えられています。よって本講義では優れた民族誌の紹介と、講師自らの調査経験を交えながら、文化人類学の概念、方法、視角を習得することをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本史	日本史を古代から近世まで講義します。その時代を特徴づけるテーマを選び、掘り下げることによって、歴史の流れを把握する感覚を養います。 学問は本来面白いものです。なかでも歴史は、熾烈な権力闘争があり、また、ときには血も涙もある人間の汗と涙の物語もあります。とりわけ、自分や家族の住んでいる地域や国のたどってきた過程を尋ねるのは、楽しいことです。「面白くなければ学問ではない」というコンセプトのもとに、歴史を学んでいきます。自分がその場にいたらという臨場感をもって、ふり返って欲しいものです。そうすれば歴史上の人物の思いや行動を実感をもって受け止めることができます。そして、そこから今後われわれはどう生きるべきかという問題を考えるヒントを得ることができます。	
	東洋史	この科目では、いまに残る中国の文物や歴史上の人物にスポットをあて、それらを通して中国史を概観してみます。 各時代の文物や人物の生き様には、その時代の特色が濃厚に反映されています。したがって、本科目では、ただ文物や人物だけに注目するのではなく、なぜそのモノが生み出されたのか、なぜその人がそう考え行動したのか、といったことにも関心を払い、それぞれの背景に広がる歴史的世界にも目配りをします。 本科目では、文物などの歴史的遺産を出来るだけ視覚的にも理解してもらうために、画像や写真、映像資料も使いながら授業を進めたいと考えています。	
	西洋史	史学史とは歴史学の歴史であり「どのように歴史が書かれてきたか」を問う学問です。本講義では、西洋世界で歴史がどのように認識され、叙述されたか、詳しく見ていきます。「そもそも歴史とは何か」という問いから入り、古代世界の歴史認識、中世から近代にかけてのヨーロッパにおける歴史叙述を見ていきます。最後に歴史学の最新動向についても触れてみたいと思います。	
	地理学	地理学は、研究上の方法からまず系統地理学と地誌学に大きく分かれます。本授業は、系統地理学のうち、（人間の諸活動が反映した）地表空間を対象とする人文地理学について理解します。地理学の存在理由は、人口の疎密の違いにみるように、地表面上は決して均等な空間ではなく、諸事象の分布が地域的差異に満ちているという点にあります。系統地理学は、これらの諸事象の地域的差異および法則性について扱うものでありますが、この地表空間の差異はすなわち、まず自然環境を基盤とする人間活動の諸性質によって、さまざまな特徴ある地域形成から構成されています。本授業は、テーマとしてさらに「人文地域の諸形成（諸形態）」と題し、こうした人文地域（人々の活動範囲）の諸特徴について、理解していこうとします。その際、主要な各人文現象の立地・分布に関する規則性・法則性に着目した認識法を基本として、各種地図や日本・世界の事例を利用しながら、授業を進めていくことにします。	
	社会学	社会学とは、人間の営みに対して、徹底的に、恥じらうこともなく、倦むこともなく、強烈な関心を抱くことから始まる学問です。探検家や冒険家の記述が「見知らぬ世界を体験すること」による興奮を提供するのに対して、社会学は「見慣れた日常世界の意味を変容させること」によって知的興奮を提供します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法学	現代社会の法の機能を考察するために、ここではジェンダーという切り口で法現象を検討していきます。たとえば、身近な課題としては、ミスコンテストは違法行為なのか、夫婦別姓制度を導入すべきなのか、といったことです。そうした学習を通して、「法とは何か」という命題を考える一助にしたいと思います。	
	政治学	政治学における基礎的な概念を、具体的な事例や問題に即して講義します。 この講義は、経済学や社会学、法学などの社会科学隣接分野、あるいは政治学の各分野をこれから履修していく上での基礎的科目として位置づけてもらいたいと思います。	
	経済学	ミクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、需要と供給、家計・企業の行動、市場のしくみなどの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含む）。 講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定であるので、日々の出来事（特に経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。	
	統計学	本講義の内容は、理論上の厳密性より応用面でのわかりやすさを求めて展開されたものです。統計データの処理から、統計解析、統計推計、仮説検定までという認識論のプロセスによって、統計学の基本概念、データの作成と整理の統計的扱い方、不確実の現象を把握するための確率分布のパターン、標本と母集団の関係、分析現象の姿を帰納的に推定しようという方法論の解説が本講義の構成となっています。統計学の基本的な内容と枠組みを理解したうえで、これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが、本講義のねらいです。	
	情報社会論	この講義は、「情報社会」の未来論ではありません。現実の「情報社会」を解明しようとしています。そういう意味では、情報社会を主体的に生きていくための「マニュアル」になるはずですが。情報社会において、どういう問題が発生し、それらの問題をどのように解決するのかを、自ら考え、模索してもらえたらと思います。	
	物理学	物理学は自然現象を理解するための基礎として重要な学問です。本講義では物理学の分野の中で、力学や熱力学、電磁気学、量子力学、相対性理論の各分野についての基本的な考え方を学びます。力学の分野では速度、加速度の定義やニュートンの運動の法則について学びます。熱力学の分野では、熱と内部エネルギー、理想気体について学びます。電磁気学では電流の性質や電気と磁気の関係について学びます。また、講義の後半では量子力学や相対性理論の概要について学び、最後に物質を構成する素粒子について学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	化学	この授業では化学者達が創ってきた物質の世界を概説します。私達の身の回りには人工あるいは天然の化学物質が満ちあふれています。化学とは、原子・分子あるいは化学反応を土台として物質の世界を理解し、新しい物質を創りその働きを見出す学問です。「化学物質＝わからないもの・危ないもの」、「化学＝暗記科目」、「化学式＝難しい」という発想から抜けだし、周囲にあふれる化学情報を理解するための基礎を身につけることを目標とします。	
	生物学	外界の変化を察知し、的確に行動することは、動物の生存に不可欠です。このため、動物には外界の変化を捉えるための感覚系とこれを中枢に伝え処理する神経系（脳と脊髄）、そして行動を引き起こすための筋肉系（運動）が備わっています。下等な動物では、生まれつき生存に必要な行動プログラムが中枢神経系に備わっており、感覚情報に基づきこのプログラムの中から最適を選択し、筋肉系を動作させて行動に移します。動物が高等になると、生きる過程で獲得した多くの情報（主に経験と学習）は神経系に記憶として蓄えられ、行動プログラムに影響します。本講義では動物行動の背景にある生物学的事項について、 ㊦ 細胞の種類と働き ㊧ 動物が営む生命現象（呼吸、血液循環、消化など） ㊨ 動物が生存するためにとる行動 ㊩ 行動の背景に潜むしくみ ㊪ 中枢神経系の役割 を中心に、最新の研究成果を交えて授業を行います。	
	環境科学	環境や環境問題は現代のキーワードです。多様な環境問題のうち、この講義では熱帯林消失と生物多様性減少について現状とその原因を紹介し、さらに問題解決のために、どのような取組が行われているのかを取り上げます。毎時間配布するプリントをもとに、講義を進めて行きます。	
	数学	古代ギリシャ時代にユークリッドが解いた不定方程式からはじめて、18世紀までの初等整数論について述べます。その手法として、代表的な定理を数個挙げて数学の発展について考えていきます。解き方は分かっている、膨大な計算量のある具体的な問題は解くことは困難を伴いますが、この講義では数学の予備知識が多くない文科系学生にも理解できる問題を選択して、その解法を説明していきます。	
	教養講義 (現代の哲学)	哲学という分野には、2000年以上前にプラトンが提出した問いをいまだに論じ続けている、という面があります。これは、2000年程度では人間の基本的なあり方は変わらないという事実を反映しています。その一方で、今を生きる私たちは現代社会の様々な問題に直面してもいます。この講義ではそれらの問題を取り上げ、哲学の観点から考察を加えていきます。講義で紹介する様々な見解を鵜呑みにするのではなく、それらを自分の頭で考え直していただきたいと思っています。	
	教養講義 (西洋の美術)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義では聖書およびそれに関連する物語に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (西洋の音楽)	チェコ共和国の首都プラハは、18世紀にヨーロッパのコンセルヴァトワール（音楽院）と呼ばれ、ある時期、その主流に比肩する音楽の天才達が集いました。イギリスのルネサンス期にはチューダー王朝の下にシェイクスピアの演劇は栄え、海外からの文化人達が渡英した頃のバロックは名実ともに揺るぎ無い音楽が定着しました。 チェコの宗教改革者フスを称える賛美歌は現代にもおよび、イギリス国教の賛美歌はチェコ同様、近代の作曲家に受け継がれています。それらの作品集を鑑賞し、歌い、比較もしていきます。 イタリアと同様に芸術文化人達を生んだチェコ、音楽の消費国として世界に貢献したイギリス、ともに歴史背景と文化史を読み取りながら、中世から現代までの音楽の変遷と進化の度合いを名曲鑑賞や実演を通して理解していきます。	
	教養講義 (江戸文学)	江戸時代中期から後期にかけて発達した大衆文学の作品例をあげ、その内容を講読します。	
	教養講義 (ドイツ文学)	「父権制の歴史（女性差別の歴史）」を中心テーマに、ヨーロッパの文学（ギリシャ神話から現代にいたるまで）を見ていきます。具体的文学作品にあたるというよりも、「文学をする営み」の意味、その深層を探っていこうと思っています。具体的に扱う教材は、ギリシャ神話『エレクトラ』、オペラ『サロメ』、ドイツ映画『マリア・ブラウンの結婚』、ドイツ小説『朗読者』（ベルンハルト・シュリンク）、在日韓国人作家李良枝（イ・ヤンジ）他	
	教養講義 (西洋文化論)	西洋文化論で扱ったヨーロッパの人権獲得の歴史と日本のそれとの比較を行います。ここでもやはり、映画、ドキュメンタリー、文学作品、音楽、絵画その他ありとあらゆる教材を使用します。	
	教養講義 (アジアの文化と社会)	本講義では、視聴覚教材を活用しながら近現代の韓国・朝鮮の社会変動について考察します。とくに第二次世界大戦後から現在までの歴史・社会・文化の変動を日本との関係も交えながら考察していきます。 具体的には、韓国および朝鮮半島における約1世紀間の出来事（植民地化、開放と分断国家の成立、朝鮮戦争、軍事独裁政権の成立と経済開発、日韓国交正常化、民主化運動、南北首脳会談など）を中心に振り返りながら、現在、朝鮮半島が抱える問題やいまの韓国・北朝鮮と日本との関係について考えていきます。	
	教養講義 (日本近代史)	明治維新以降の日本の歩みを学びます。別途、政治史中心の日本史を開講していますので、経済の部面を中心に学びます。	
	教養講義 (日本近現代史)	日本史を、明治以降現代までの近現代史を中心に講義します。 現代の日本は様々な問題を抱えています。その問題は、歴史のどの時点で出現し、現在の姿に至ったのか、そしてそれは現在に至るまでどのような影響を与えているか、など歴史の流れを重視しつつ検討していきます。 歴史を明らかにするには、歴史史料によらねばならないのは勿論です。しかし、歴史を迫体験するには、歴史史料の他、マンガ、ドキュメント、小説・日記、など多様な素材が有効です。これらを手がかりに、当時の実態に迫りながら、そのとき人々はどう考えどう行動したかなど、多角的に検討していきます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (東洋近世史)	「日本」と「中国」の関係を語る際にしばしば用いられるのが「一衣帯水」という言葉です。この言葉は、一筋の帯のように狭い海によって隔てられているが両者の間は近接している、というほどの意味です。ここでの「海」は、両者の間を区切るものとしてイメージされているとも受け取れますが、実際に日中の関係の歴史を考えてみると、この海を往来した人やモノ、あるいはこの海を拠り所にして活躍した人々の動向を無視することは出来ません。つまり両者の間に広がる海自体が、その周辺に位置する諸地域を巻き込む歴史の舞台であったのです。 本科目では、「日本」と「中国」の関係の歴史について、その間にある海の様相にも着目しつつ取り上げてみたいと思います。なお、時間軸としては、主に9世紀以降19世紀初頭までを対象とします。この時期は、科目名にもある「近世」という時代を考える際にも重要な時期です。	
	教養講義 (西欧近代史)	ヨーロッパ社会の発展を歴史的に考察することを通じて、現代社会の成り立ちを考えていきます。高校時代に「世界史」を履修していない学生にとっても、興味のわく講義にしたいと思います。	
	教養講義 (西洋中近世史)	中近世ヨーロッパの歴史について詳しく見ていきます。本講義では高校世界史に出てくるような事柄にも触れますが、中近世ヨーロッパの人たちが、人間や世界のあり方についてどのような考え方を持っていたのか、ということについても詳しく見ていきます。叙任権闘争後に起きた国家観の変化については特に詳しく論じます。	
	教養講義 (生活の中の地理学)	前半は、比較的身近なトピックの中から、地理学的な現象をとりあげます。後半は、近年の地理学の新しい潮流の中から、行動地理学、交通、ジェンダーの地理学、人口移動、地理情報システム(GIS)を取り上げ講義します。「地理学」(川瀬担当)では物足りなかった人にもこたえる、やや専門的ですが身近な内容です。	
	教養講義 (社会学のものの見方と考え方)	社会学は(1)さまざまな方法による社会調査と、(2)それを説明する社会理論によって支えられています。よって本講義では優れた社会学のモノグラフを通じて、社会学の概念、理論、方法、視角などを習得します。具体的に講義で取りあげるのは、暴走族、建築業、性風俗業、ホームレスの人びとなどです。	
	教養講義 (現代経済学)	マクロ経済学の基礎的概念(経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など)や、GDP、国民所得の決定、投資、財政・金融政策、IS-LM分析、雇用の決定、国際マクロ経済学などの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます(図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます)。講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定であるので、日々の出来事(特に経済に関するもの)に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (応用統計学)	統計学の研究対象とするものは、自然現象であっても、社会現象であっても、どの分野にも適用できる一般的方法論とみなします。本講義は統計的考え方とその応用方法に重点をおいて統計推計の基本内容を説明します。高度情報化社会の進展とともに、統計情報の作成や統計推測は、不可欠な社会認識の手段となっています。本講義の内容は不確実の現象を把握するための連続的確率分布のパターン、統計推計及び仮説検定などの方法論の解説は本講義の構成となっています。これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが、本講義のねらいです。	
	教養講義 (情報環境論)	「情報とは何か」をテーマに講義を行います。情報の技術的な問題が多くあります。これは、自分のマシンを自分で守るにはどうすればいいのかということのヒントを提供しています。また、「情報社会」、「情報環境」を規律する規範を『情報社会の法律』を通して学びます。	
	教養講義 (ヒトの生命科学)	ヒトの身体は、60兆個もの細胞によって構成されています。個々の細胞は細胞外から栄養素や水などを得、生命活動に必要なエネルギーを産生し、またこのエネルギーを利用して生命維持に必要な物質を作り出しています。細胞に栄養素などを届けるため、ヒトには器官系（消化器系、呼吸器系や循環器系など）が備わっています。例えば、食物は口から入り、胃や腸を通過する間に消化されて栄養素や水となり吸収され、血管を通じて身体各部の細胞に運ばれます。エネルギー産生には酸素が不可欠であり、鼻から取り込まれて肺で血液中に入り、身体各部の細胞に運ばれます。また、生命活動によって生じた不要物・老廃物などは肝臓で分解され、血管を通じて腎臓にまで運ばれ、最終的に身体外に排出されます。このような生物の営みは、生命が続く限り止まらないです。本講義では『ヒトの生命維持のしくみ』に焦点を合わせ、 ⑦ エネルギー産生に必要なガス交換（呼吸） ⑧ 物質と熱の運搬（循環） ⑨ 水や物質の身体内への取り込み（消化と吸収） ⑤ 不要物や老廃物の身体外への排出（排泄） について最近の研究成果を交えて授業を行います。	
	教養講義 (応用数学)	この講義では、集合と写像の概念の応用として、あみだくじの作成・一筆書き問題・四色問題について論じます。また初等整数論の応用としてについて2つの例を紹介します。1つは三山崩しゲームにおける必勝法の解析です。もう1つは公開鍵暗号システムにおいて、その暗号が有効に働くことを証明することです。また数学の別な応用として、線形計画法の概略についても述べます。これらのテーマには、現代数学の考え方を含みます。	
	教養講義 (現代心理学の展開)	心理学の基礎領域（動機づけ、意識、自己）に続いて、人格、知能、生涯発達、精神障害、心理療法、集団などの応用の領域について取り上げます。心理学とはヒト、人、人間の行動の理解を試みる生物科学である、ということが理解されることを期待しています。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (社会と政治)	・政治学で使われる基本的な用語の解説をしながら、政治学の基礎的な考え方を習得します。 ・理論の解説を授業の柱にしますので、日本政治や国際政治の「時事解説だけ」を期待される学生には向いていないかもしれません。 ・政治に興味をもってもらえるように講義を準備します。	
	総合教養講義a (近現代の哲学)	柘植尚則『イギリスのモラリストたち』（研究社、2009年）を精読することで、イギリスの近現代哲学における人間観・道徳観を学びます。 学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを精読してくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	
	総合教養講義a (終末期医療と倫理)	終末期医療に関する諸問題を検討します。また、それに基づいて人間が生きていることの意味を考えます。	
	総合教養講義a (西洋美術の図像学)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義では主として旧約聖書を題材にした美術作品、特にシステイーナ礼拝堂内の天井画を取り上げます。受講者は、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
	総合教養講義a (浮世絵)	浮世絵は、海外でも有名な日本の伝統文化の代表格といえますが、その実、浮世絵がどのようにして製作されるかといった基本的なことが意外に日本人の間で理解されていません。特に、広島には浮世絵の常設展示を行っているミュージアムもなく、浮世絵を実際に目にする機会が少ないためか、認識が低いように思われます。 この授業では、知っているようで知らない浮世絵の製作工程・技法について取り上げます。	
	総合教養講義a (江戸時代の化粧・結髪)	日本人の伝統的美意識は、衣食住の様々な局面に表されてきましたが、化粧・結髪の形式も、その一局面です。 化粧・結髪は、男女とも時代により階層により色々な形式がみられますが、この授業では、主に浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・遊女を取り上げます。	
	総合教養講義a (神仏と芸能)	世界的にみても、芸能というものは多く信仰に根ざしています。この講義では、わが国の例として、いわゆる「三大伝統芸能」（能・狂言・歌舞伎）以外の、より直接的な招福除災の性格の強い伝統芸能の各種を紹介します。	
	総合教養講義a (現代日本語の特質)	授業では、学校文法として知られている国語の常識を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。日本語の規則性を扱う日本語学の中で、比較的むずかしいものを取り上げます。 扱うテーマは、以下の通りです。 (1) 日本語の統語 (活用、正格活用) (2) 日本語形態論 (語幹、形態素、異形態) (3) 日本語の音声 (子音、調音、IPA) (4) 日本語音韻論 (音素、異音、相補分布)	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (英語と日本語)	この授業では、日本語と英語を以下のような観点から比較します。 ・世界の諸言語の中での位置づけ ・歴史 ・音声 ・方言 ・語彙 ・文構造 ・未来の姿	
	総合教養講義a (ことばと社会)	ネイチャーライティング(自然・環境に関する文学、芸術・メディア)を通じて、「ことばと社会」について考察します。 特に、日本と英米の文学作品や芸術・メディアの比較を行います。また、「場所の感覚」という視点から様々な文化現象について分析します。	
	総合教養講義a (ピアノ講座)	毎回の授業は、講義と実演とで構成します。 講義では、ピアノ作品を演奏する上で必要となる楽典事項について説明を行い、総合的な音楽的知識の習得を目的とします。 実演では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、ピアノ演奏技法の習得を目指し、音楽表現に必要な感覚や感性を育むことを目的とします。	
	総合教養講義a (声楽と合唱)	実技では、主に合唱曲を用いて、自らの演奏のために必要な発声や歌唱法および表現に関する基礎的な技法を習得することを目的とします。 また上記の事柄をより深く理解するために、講義による基本的な音楽理論も学びます。	
	総合教養講義a (教育文化論)	日清戦争が勃発した明治27(1894)年11月、英文の『日本及び日本人』が民友社から刊行されました。戦争のさなかに幾度か版をかさね、日露戦争終結したのち、『代表的日本人』と改題されます。東アジア世界に育った日本は、明治維新後、急激な脱亜の道につきすすみ、帝国主義国の地位を確立します。『代表的日本人』は、キリスト教に帰依した内村鑑三が「キリスト教徒に優るとも劣らぬ立派な日本人」がいたことを欧米のキリスト教徒にむかって示すために著述したものです。内村は、5人の「代表的日本人」をとりあげ、かれらの生涯を紹介しながら日本的な道徳や倫理の美しさについて語ります。『代表的日本人』は、『茶の本』、『武士道』とともに、日本人が英語で日本の文化・思想を西欧社会に紹介した代表的な著作です。本講義では、『代表的日本人』を講読しながら、それぞれの人物が生きた時代について分析し、自己形成のあり方、価値観などについて検討します。	
	総合教養講義a (歴史と社会)	西洋史では16～18世紀を近世と呼びますが、近世はヨーロッパが周辺世界とかつてないほど深い関わりを持つに至った時代です。近世以降に関して、ヨーロッパからはたらきかけを抜きに南北アメリカ、アジア、アフリカの変容を理解することはできませんが、反対に、周辺世界との関わりを考慮せずにヨーロッパの変容を理解することもできません。本講義では、近世ヨーロッパと周辺世界の関係のなかでも、特にハプスブルク家とオスマン帝国の関係に焦点を絞り、その関係からどのような変化がヨーロッパにもたらされたか、考えていきます。バルカン社会の変容、メディアを用いた世論操作、議会における情報の扱われ方、といったトピックについては特に詳しく見ていきます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (現代日本社会の諸相)	(英文) This course aims to give you a deeper understanding of some aspects of modern Japanese society. One of the themes of the course is minorities, which, in turn, is related to another important theme, human rights and discrimination. I have prepared selected vocabulary lists for each topic and, if you wish, I can give you a mini test every week of a few of those words, which you think may be of use to you. We will also be looking at some key Japanese concepts. In addition I will bring along some popular Japanese music to play to you before the class starts each week. (和訳) 現代日本社会の様々な諸相の理解を深めることを目的とします。ひとつは人権擁護や差別といった重要なテーマに関連するマイノリティについて取り上げます。トピックごとに単語のリストをまとめ、その中から役に立つ語彙があれば、毎回小テストを行います。また、日本人の基本的な考えについても触れています。毎回授業に入る前に、日本のポピュラー音楽を題材に取り上げます。	
	総合教養講義a (日本の社会および経済の文化的基礎)	(英文) This course provides an introduction to Japanese society and culture. Weekly topics will examine the impact of spiritual and belief-related factors on social, economic, and political changes in Japan. The topics will include Japanese spirituality in comparative context, social, political and economic ideas and Japanese culture in international context. Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized economic and social changes and compare them with globally acceptable cultural norms and behaviours. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese unique cultural heritage which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable. The lecture series will cover two main areas: (1) conceptual and phenomenological foundations of modern Japanese societal, cultural and economic order, and (2) the empirical applications and cases. (和訳) 日本の社会・文化についての概論を紹介します。毎週トピックで、日本人の精神的・信仰的な内面が日本の社会、経済、政治の変遷にどのように影響を及ぼしているかを考えます。トピックでは、相対的な見方での日本の精神性や、国際的背景から見た社会、政治、経済の考え方や日本の文化に関する事柄を含んでいます。 講義や事例に関する議論を通じて、文化的基礎に裏打ちされた経済的また社会的変遷の評価すべき点を注目し、これらの変遷を世界一般の文化的規範や行動様式と照らし合わせていきます。また、他の国々でも受入れ可能な日本の伝統文化の長所と、国際的に受け入れがたい短所についても議論します。 講義は、次の2つの分野からなります。(1) 近代日本の社会秩序、文化秩序、経済秩序の概念的かつ現象的な成立基盤 (2) 応用実践・ケーススタディ	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (ベーシック・ファイナンス)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (コーポレートファイナンス入門)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を当て、証券が市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (働く人のための経営学)	現代の日本は、働く人の約85%が企業やその他の組織に雇用される、いわゆるサラリーマン社会といわれています。そこで本講義では、まず日本の経営組織で働く人たちの側に立って、従来までの日本的経営の特質、モノづくり、人事・労務管理、日本企業を取り巻く経営環境の変化とその現状など「働く側の経営学」について取り上げ、次に経営学の基礎的諸事項、基本的視座や見方・考え方など「企業経営の基礎知識」を取り上げながら、近い将来、社会に出て「働く人のための経営学」について講義していきます。	
	総合教養講義a (現代社会と企業)	今日私たちは、様々な組織や社会集団に所属しています。学校を卒業すると多くの人は企業や官庁といった組織で働き、様々な仕事に従事します。本講義では、組織という社会的装置、そこでの仕事や雇用、さらには組織を取り巻く経済社会の動向について基礎的な知識や洞察を深めます。 *扱うトピックスは、授業の進捗状況などにより変更する場合があります。	
	総合教養講義a (現代社会とマーケティング)	現代のビジネスにおいて「マーケティング」を知り、それを「管理（マネジメント）」していくことは必須だと言われます。本講義ではマーケティングとは何かを学ぶとともに、企業のビジネスにおいて戦略・組織面でどのような位置づけにあり、どういった役割を担っているのかを学修します。	
	総合教養講義a (家族と法)	プロポーズをすれば後で気が変わっても必ず結婚しなければならないのでしょうか。結婚すると夫婦それぞれが稼いだお金は誰のものになるのでしょうか。親子の縁を切ることは法律上できるのでしょうか。女性が結婚すれば親の財産を相続する権利を失うのでしょうか。この講義では、結婚や離婚、相続などの家族の問題についての基本的な法律のルールを学びます。日常的問題を法律に結び付けて考えられるように、授業では具体的な事例を挙げて講義を進めます。また、授業の内容を整理し、理解度を確認するために、授業の後半では課題に取り組む時間を設けます。	
	総合教養講義a (事例で学ぶ民法)	本講義の目的は、各種資格試験・国家試験等で出題される民法択一式問題をもとにした事例問題の演習および解答・解説を通じて、民法の基礎的な論点(争点)についての理解を深めることです。本講義では、各学部で開講されている民法科目履修の前提となる知識を整理するとともに、やや発展的内容の学習にもとりくみ、また各種試験の択一式問題に対応できる知識・実践的能力を養うことを意図しています。本講義の検討対象は、民法の各分野（主要には財産法）の基本的な諸論点です。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (現代社会と企業法)	現代社会において企業が法的にどのように位置づけられ、何を期待されているか、そしてどのような問題を内在しているのかについて、現在論じられている最新の法情報にも触れながら解説を行います。内容としては、企業法の中心である「会社法」の仕組み、不正競争防止法、中小企業の事業承継問題、合併などの組織再編、また会社法との比較において一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（一般法人法）と消費生活協同組合法を解説し、さらに企業のCSR活動、NPO法とNPOの活動および社会的企業論を概観します。小テスト（複数回）と期末試験を実施します。	
	総合教養講義a (国際社会と法)	国際社会は、冷厳な国際政治力学で展開される側面も強いですが、国際法をはじめとする国際関係法の機能も重要です。 本講義では、できるだけ時事的話題を中心にして講述して、国際法が身近な存在であることを認識してもらうことを目的にしています。	
	総合教養講義a (情報と社会)	「情報社会論」「情報環境論」において取り上げられた個別問題について、各自の立場から探究して、発表します。発表は自分のGmailサイト上で行うものとします。	
	総合教養講義a (生命の化学)	この科目では生命とは何かを考える基礎となる、生命化学と生活に関わる化学を講義し、自然科学への関心を育て基礎知識を習得します。我々の身体を構成する物質がどのようなものであり、複雑な生命体の仕組みを知ることは、生活・産業・環境・医療・食糧・安全にまつわる様々な社会問題を考える基礎として重要です。生命はいわば分子を素材とする機械とも言えますが、機械にはない“何か”を持っています。その“何か”は科学者もはっきりと答えることはできません。尊い生命をはぐくんできた地球環境の大切さを考える土台をつくるために、生命の仕組みの奥深さと不思議さを学習します。	
	総合教養講義a (病気の生物学)	第二次世界大戦終了後、医療技術の発達、栄養の向上、そして衛生環境の改善によって日本では感染症が激減しました。ところが、高度経済成長期に入ると、生活の場には新たな化学物質が溢れ、これらは公害を生み、その後ガンやアレルギー疾患の発生へと繋がっていきました。また、社会構造が変化（高齢化社会）する中で、脳血管疾患や心疾患が表在化し、これらの発生には生活習慣が関係していることが明らかになってきました。近年、家庭環境や労働環境の変化が過度のストレスとなり、これが原因となって生じる精神疾患が増加の一途を辿っています。このような現代社会を健康に暮らすには、自分の健康に関心を持ち且つ管理することは当然であり、このために「身体機能の正常と異常」を知ることは不可欠です。 本講義では、 ㊦ 病気とは（死因と現代生活） ㊧ 生体防御のしくみ（自然免疫と獲得免疫） ㊨ アレルギーとアナフィラキシー（生体の防御過剰） ㊩ 見えない恐怖（ウイルス、細菌、カビの攻撃） ㊪ 心疾患と脳血管障害（高血圧、動脈硬化と糖尿病） ㊫ ガンとの戦い（正常細胞のガン化） ㊬ タバコの害 などのテーマについて解説し、われわれが健康に生きるための術を授けます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (大気環境問題と生態系)	わが国では1980年代の後半から地球環境問題が注目されはじめました。その後20年以上たった現在でも、深刻な影響をおよぼす、未解決の問題としての位置づけはかわっていません。この講義では、地球環境問題のうち、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の問題と最近注目されている微小粒子状物質(PM2.5)問題を取り上げます。地球誕生以来生物の進化が大気の形成にどのようにかわり、現代の人間活動が大気環境をどのように変え、上記の四つの問題が生態系にどのような影響を与えているかについて講義します。さらにこれらの地球環境問題の解決のためにどのような試みがなされているかについて紹介します。毎時間配布するプリントをもとに講義を進めます。	
	総合教養講義a (生物多様性保全の環境問題)	現在、地球上の様々な環境で生物種や品種の多様性が失われ、また個体数が減少しています。このような現象はこれまで生物学者や自然愛好家だけが注目していましたが、近年環境問題の一つとして位置づけられ、その深刻さに対する理解も少しずつ進んできています。この講義では地球上に多様な生物が生息することの価値、様々な生態系における生物多様性消失の現状とその問題点、生物多様性保全への取り組みます。講義は、毎時間配布するプリントをもとに進めて行きます。	
	総合教養講義a (宇宙と環境科学)	この科目では、生命誕生のサイエンスを宇宙環境の視点から概説し、自然科学への関心を育て基礎知識を習得します。現在、地球上で起こっている様々な問題は、宇宙規模で見れば小さなことかも知れませんが、我々にとっては大きな問題です。これを解決するためには宇宙・地球・生命の歴史を知ることが必要です。生命出現は、宇宙史の最大の出来事です。広大な宇宙において生命が存在するこの地球は最も尊いものなのでしょう。この科目では、地球の一員としての我々がどこから来たのか、生命と地球環境の尊さと自然の奥深さを講義・討論します。生命は、約40億年前の原始地球上で無生物から出現したと考えられていますが、この歴史を、地球外生命探査やバイオテクノロジーなどによる最新の成果を取り入れ講義します。	
	総合教養講義a (自然環境と災害)	近い将来、西日本の太平洋沿岸を震源とする南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。2011年3月の大震災では、地震や津波の知識が十分に理解されていなかったことが、人的被害を増大させた一因だと考えられています。自然環境や災害に関して正しい科学的知識は時には命を守ったり、被害を軽減することに役立ちます。また、地球温暖化やオゾン層の破壊など、自然環境に関しても同じことが言えます。高校で地学を履修しなかった学生にも理解できるように、地震災害を中心に自然災害と自然環境に関わる諸問題を取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (市民と行政法)	「行政法」というと、公務員志望の学生が受講する科目というイメージを持たれているかもしれませんが、「行政書士試験」でも行政法は出題されます。公務員試験や資格試験で行政法が必要なのはわかるけど、「民間に就職するのに、なぜ、行政法？」という疑問を持たれる方がいらっしゃると思います。このような疑問を持つのもよくわかりますが、民間に就職してからも、行政法は大いに役立ちます。規制緩和がなされてはいるものの、企業が何かしようとする、まだまだ許認可の壁があつて、これを突破するだけの、行政法の知識と、それを活用する能力が必要だといわれています。法学部以外の学生にとっても、行政法という科目は、社会に出て必ず必要となる科目ともいえます。	
	総合教養講義b (芸術文化学)	本講義ではドイツを中心としたドイツ語圏の映画芸術について学びます。特に近年の中心テーマ「移民」「ナチス」「東西統一」を扱った21世紀のドイツ映画を取り上げ、それぞれの作品が時代の社会状況といかに照応しているのかに関して理解を深めます。	
	総合教養講義b (江戸時代の服飾)	日本の伝統的美意識は、衣食住のさまざまな局面に表されてきましたが、外出着の文様・形式も、その代表的な局面の一つです。外出着の文様・形式は、男女とも時代・階層によって色々なものがみられますが、本講義では、主として浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・芸者・遊女の服飾を取り上げます。	
	総合教養講義b (和紙)	和紙は現在、書や絵画に用いられるだけでなく、その独特な風合いを生かしてインテリア・服飾品の材料としても注目されていますが、和紙の広範な活用は今に始まったことではありません。この授業では、古来、日本人が和紙を情報記録媒体としてそのまま利用するだけでなく、様々な加工をほどこして衣料・調度品の材料としてきたことについて取り上げます。	
	総合教養講義b (マスコミ論)	インターネット時代の到来で新聞など伝統的メディアだけでなく、テレビなど既存の映像メディアも生き残りのための変容を激しく迫られています。その中でマスコミ全般が世論の厳しい批判にさらされています。現代社会におけるマスコミの機能と役割、問題点と課題、および将来的な可能性について具体的な事例を取り上げながら検証し、報道の在り方とマスコミが進むべき道を考えます。考察の対象は主としてわが国のマスコミとしますが、比較論の対象として世界のマスコミの事例も取り上げます。	
	総合教養講義b (社会保障論)	社会保障の対象領域、基本構造、原理などを学び、その後各領域の現行制度について講義します。	
	総合教養講義b (労働問題と法)	労働法のポイントとなる項目について、裁判例や実務上の問題点を素材として現実の労働問題と労働法とのかかわりを説明します。近年、労働法の分野では法改正が続いています。それらの動向もできる限り、授業内容に反映させます。授業は、各回の項目について、裁判例や実務上の問題点を取り上げて説明します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義b (国際理解)	テキスト『国際社会を学ぶ』を素材に、国際社会を分析するための多様なアプローチの仕方を理解します。アイデンティティ、地球文化、人類益がキーワードとなります。各章には具体的な問いが設定されているので、その問いに基づいてテキストを読み解きます。	
	総合教養講義b (生命情報論)	5億3千年程前、生物に眼が現れ、外界の光環境の変化を感知することが可能となりました。その後、眼には光感度の調節、波長弁別、そして動きの感知などの高度な視覚機能が加わり現在に至っています。眼の獲得によって、接触、臭い（あるいは匂い）そして物音などに頼っていた生活に『見る』という感覚が加わり、周囲を探索する能力が格段に向上したため、生物の行動範囲は相当広がったに違いありません。ヒトでは、生活に必要な情報の約80%を視覚から得ているといわれています。昨今のマルチメディア技術の発達とこれを媒体とした情報伝達の現状に鑑みると、他の感覚器に比べ視覚への依存度が高いことは肯けます。本講義では、眼球内に入った光がどのような生体内プロセスを経て『見る』という感覚を生むのかを、 ㊦ 光の性質 ㊧ 眼の構造と機能 ㊨ 眼から脳への視覚情報伝達 ㊩ 脳での視覚情報処理 の順序で、最新の研究成果を交えて授業を行います。	
	総合教養コース (世界の言語と文化)	元来、人間と言語、そして言語と文化は切っても切れない関係にあり、そのつながりを理解することは、人間と異文化理解に大いに役立つものと考えられます。講義は、東から西の方（アジア言語圏からヨーロッパ言語圏）の順に進みます。 (オムニバス方式／全15回) (53 藤井 隆／1回) ・ガイダンス ・中国 (50 朴 大王／2回) ・韓国 (130 金 栄鎬／1回) ・北朝鮮 (23 郭 春貴／1回) ・シンガポール (38 高田 峰夫／2回) ・タイ ・バングラデシュ／ベンガル (72 吉川 史子／1回) ・イギリス	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(97 山尾 涼／1回) ・ドイツ (81 杉浦 順子／1回) ・フランス (169 Ferran Santiago／1回) ・スペイン (40 高橋 利安／1回) ・イタリア (63 矢田部 順二／1回) ・チェコ (140 佐藤 道雄／2回) ・アラビア ・イスラエル	
	総合教養コース (情報化社会と人間)	タイピング練習、Windowsの操作の修得、ワープロソフトWord、製本エディタTexの修得、HTMLの修得、ホームページの作成を行います。 (オムニバス方式／全15回) 3クラス運営。 (95 都築 寛・77 佐藤 達雄／8回) ・オリエンテーション ・Officeソフトの活用（1） ・Officeソフトの活用（2） ・情報環境に応じた表現 ・情報化社会と人間 ・ワードプロセッサ“Word”と”TeX” ・ワードプロセッサTeXの概要 ・TeXによる表の作成 ・Word とTeXによる数式の表現 ・本の作成について (27 北原 宗律／7回) ・インターネットの仕組み ・インターネットHPの作成 ・インターネットHPの開設 ・インターネットHPの出版 ・インターネット宝探し	オムニバス方式
	外国語科目 英語科目	英語リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リスニングⅢ	リスニングの弱点を克服して、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦するためのクラスです。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅤ	より高いリスニング力を身につけ、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しむよう訓練するクラスです。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅡ	「英語リスニングⅠ」に続いて、リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅣ	「英語リスニングⅢ」に続いて、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦します。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅥ	「英語リスニングⅤ」に続いて、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しむようリスニングの訓練をします。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リーディングⅠ	英語の基礎的な読解力を身につけるためのクラスです。やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校までに学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅢ	弱点を克服して様々なテキストを読み進める力を養うためのクラスです。少しやさしめの英語で書かれた読み物からはじめて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップしていきます。苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リーディングⅤ	読解に必要な語彙力をさらに高め、読むスピードアップを図るためのクラスです。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	英語リーディングⅡ	「英語リーディングⅠ」に続いて、比較的やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校で学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅣ	「英語リーディングⅢ」に続いて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップして行きます。リーディング活動を通して、苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅥ	「英語リーディングⅤ」に続いて、さらに読解に必要な語彙力を高め、読むスピードをアップ図ります。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	実用英語実習Ⅰ	日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の習得を目指します。語彙・文法・語法の確認を併用しつつ、場面設定にそったアクティビティーやグループワークを活用して実践的運用能力の養成を行います。英語学習に対する動機づけ、英語の使用に対する積極性や自信を醸成することをねらいとします。	
	実用英語実習Ⅱ	「実用英語実習Ⅰ」に続き、日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の習得を目指します。より発展的な場面設定を行いつつ、習得した語彙や文法の範囲内で発信・自己表現するための実践的活動を行うことで、英語を使う楽しさを感じとることをねらいとします。	
	英語ライティング研究Ⅰ	トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やしながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語ライティング研究Ⅱ	「英語ライティング研究Ⅰ」に続いて、トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やしながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究Ⅲ	自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。手紙、メール、履歴書、短いエッセイなど日常生活で必要とされる内容の文章を英語で書くことができる能力を養成します。また適切な書式に従って書くことについても学びます。	
	英語ライティング研究Ⅳ	「英語ライティング研究Ⅲ」に続いて、自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。ビジネスレポートや本・映画の書評などある程度まとまった内容を持つ文章などを英語で書くことができる能力を養成します。	
	英語読解研究Ⅰ	精読、多読、もしくは、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフ構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながらやさしい読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅱ	「英語読解研究Ⅰ」に続き、より難易度の高い英文の精読か、やさしい英文の多読、または、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、やさしい読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅲ	難易度のやや高い英文の精読、初中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながら、初中級レベルの読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語読解研究Ⅳ	「英語読解研究Ⅲ」に続き、より難易度の高い英文の精読、中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、中級レベルの読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語聴解研究Ⅰ	英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	
	英語聴解研究Ⅱ	「英語聴解研究Ⅰ」に続いて、英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	
	英語聴解研究Ⅲ	(英文) The aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English. (和訳) より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者がします。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れることを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語聴解研究Ⅳ	(英文) Building upon the skills and concepts in English Listening Studies Ⅲ, the aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English. (和訳) 「英語聴解研究Ⅲ」で学んだスキルと概念を踏まえて、より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者がします。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れるようにします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	さまざまなコミュニケーションの場面に基づくコミュニケーションの基本的な理論と実践について学びます。文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションの様式を理解しつつ、多様なアクティビティを通じて実践的な訓練を行います。	
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	「英語コミュニケーション研究Ⅰ」に続いて、文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションについて、より複雑な場面を想定して、情報の受信から発信にいたるプロセスを意識した言語活動の実践的な訓練を行います。	
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わり合いを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	「英語コミュニケーション研究Ⅲ」に続いて、人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わり合いを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	(英文) The aim of this course is to develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. Through lectures and various activities, students will learn how to listen to and understand the ideas and viewpoints of others, and to express their own ideas and viewpoints as clearly as possible. They will review fundamental communication techniques such as using appropriate eye contact, body language, and vocal tone and through lectures and activities they will also learn and practice more advanced techniques such as active listening, reflecting, clarification, and timing. (和訳) 英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。講義に加えて、様々な教室活動を行い、話者の考えや視点を聴きとり理解する方法や、できるだけはっきりと自分の考えや視点を表現する方法について学びます。適切なアイコンタクトや、身ぶり、声の調子などについて概観すると同時に、アクティブ・リスニングや、相手のことばを繰り返して質問し、相手の言ったことを明確にする方法、タイミングのはかり方といったより高度な技術についても学び、練習します。	
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	(英文) Building on the skills and concepts in English Communication Studies V, the aim of this course is to further develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. They will learn more advanced techniques such as empathy, building rapport, dealing with aggression and criticism, and communicating in difficult situations. (和訳) 「英語コミュニケーション研究Ⅴ」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。共感、信頼関係の構築、攻撃や批判の処理、困難な状況の中でのコミュニケーションといったより高度なコミュニケーション技術について学びます。	
	英語語法研究Ⅰ	高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めて行きます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語語法研究Ⅱ	「英語語法研究Ⅰ」とは異なるトピックで高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めていきます。	
	英語語法研究Ⅲ	英語の語法・文法のより細かな事項を習得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 テキストをまとまりのあるものにするための文法的もしくは語彙的結束装置(grammatical/lexical cohesive device) について、具体的にテキストを分析しながら学んでいきます。文法・語法に関する専門用語を英語で学び、英語で書かれた文法書も臆せず利用できるよう訓練します。	
	英語語法研究Ⅳ	「英語語法研究Ⅲ」に続き、英語の語法・文法のより細かな事項を習得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 類義語の語源の違いに基づくニュアンスの違いや、話者の心的態度（法：mood）を表すいくつかの手段などについて学び、現代の英文法・語法をより総合的かつ俯瞰的に考えられるようにすることを目標とします。そのため、現代の英文法・語法に至るまでの英語の歴史的な変化についても学びます。	
	資格英語研究Ⅰ	TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得を目指します。特に、企業などで利用される機会の多い TOEIC テストの出題形式の解説を行い、試験の形式に慣れるとともに、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、必要な英語力を身につけます。語彙力や文法などの総合的な英語能力を身につけます。	
	資格英語研究Ⅱ	「資格英語研究Ⅰ」に続いて、TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得を目指します。特に、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、解説を行います。TOEIC テスト形式の問題に取り組みながら、基本的語彙を身につけたり、英語を聞いたり読んだりして検定試験でより高い得点を取ることを目指します。	
	資格英語研究Ⅲ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	
	資格英語研究Ⅳ	「資格英語研究Ⅲ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	資格英語研究Ⅴ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	
	資格英語研究Ⅵ	「資格英語研究Ⅴ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	
	英語プレゼンテーション研究Ⅰ	(英文) The aim of this course is to develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. Through lectures and various activities, students will learn how to analyze model presentations, brainstorm for ideas, organize and develop content, and write short presentations of their own. They will also learn and practice fundamental presentation techniques such as making effective note cards, using eye contact to connect with their audience, making gestures to describe objects, and using correct posture and hand position. (和訳) 本科目は英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力を養うことを目的とします。講義に加えて、様々な教室活動を行い、手本となるプレゼンテーションを分析したり、アイデアを出し合ったり、伝えたい内容をプレゼンテーションとして組み立てて発展させたり、短いプレゼンテーション案を書いたりします。また、プレゼンテーションに効果的なインデックスカードの作成、アイコンタクト、ジェスチャー、正しい姿勢や手の置き方といった基本的なプレゼンテーション技術についても学び、実際に練習します。	
	英語プレゼンテーション研究Ⅱ	(英文) Building upon the skills and concepts in English Presentation Studies I, the aim of this course is to further develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. They will learn slightly more advanced presentation techniques such as projecting their voice, speaking clearly and avoiding fillers ("um" , "ah" , etc.), using stress to emphasize intensifiers ("very" , "really" , etc.), making gestures for actions, checking for understanding when giving instructions, using sentence stress, and pausing between phrases. (和訳) 「英語プレゼンテーション研究Ⅰ」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力をさらに養うことを目的とします。明瞭な声を出し、はっきり話す、つなぎ言葉を避ける、強調語を強く発音する、身ぶりで動作を示す、指示を与える場合は理解しているかチェックする、文強勢を用いる、まとまりのある句と他の句の間に休止を入れる、といった少し高度なプレゼンテーション技術を学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国 語 科 目 初 修 外 国 語 科 目	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に文法を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。	
	ドイツ語Ⅱ	前期ドイツ語Ⅰの続きです。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。ドイツ語Ⅱでは、辞書を引きながら自分でドイツ語の文章を読み、書くことができるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、Ⅲ、Ⅳ合わせて、簡単な日常会話が話せ、簡単なドイツ語の読み物を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲの続きです。基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、ここでは、具体的な場面での日常会話が話せ、ドイツ語の簡単な読み物（物語等）を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲにつづいて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰ～Ⅳ(スペイン語初級)では、初修者を対象として、スペイン語の基礎を学習します。1年間を通しての学習で、「読む」「書く」「聞く」「話す」という4種類のスペイン語運用能力の向上をはかると同時に、スペイン語の学習を通して、スペイン語圏世界の文化の豊かさと多様性にも触れてゆきます。スペイン語Ⅰ～Ⅳは共通の教科書を用いますが、Ⅰ・Ⅱでは文法説明が中心になります。Ⅲ・Ⅳでは、Ⅰ・Ⅱとの密接な連携を保ちつつ、表現学習や、文法知識を応用する形での各種練習に重点を置きます。前期のスペイン語Ⅰでは、文字と発音、名詞の性・数、形容詞、冠詞、重要な動詞の現在形などを学びます。	
	スペイン語Ⅱ	前期に引き続き、スペイン語Ⅳと連携しつつ、スペイン語の基礎文法を学びます。重要な動詞の現在形の学習を継続するとともに、再帰動詞、目的語代名詞、比較表現、不定語と否定語などの事項を学び、最後に現在進行形と現在完了形に触れます。	
	スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅰの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅰで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力の向上を目指します。前期は挨拶からはじめて、日常生活の表現にチャレンジします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スペイン語Ⅳ	前期に引き続き、スペイン語Ⅱの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅱで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。後期は前期よりも複雑で高度な内容をスペイン語で表現することにチャレンジします。	
	中国語Ⅰ	本講義は「中国語Ⅲ」と連動して行います。最初の4週で中国語の発音を習得するとともに、発音記号であるピンインを学びます。その後、基本的な文法事項と会話表現を系統的に学びます。すなわち「是」を使う判断文に始まり、形容詞述語文、名詞述語文、動詞述語文の基本形を学びつつ、それらを使った実用的な文を組み立てる練習をします。また、日常会話に欠かせない、年齢、時刻、金額などの数詞を使った文の作り方も学びます。	
	中国語Ⅱ	本講義は、「中国語Ⅰ」の続きの講義であり、「中国語Ⅳ」と連動して行われます。「中国語Ⅰ」で学んだ文法事項をふまえて、助動詞を用いる文（願望や可能の表現）、アスペクト（経験、過去、持続、進行、将然）の表し方、副詞、前置詞を用いる文など、やや複雑な語法を学びます。「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」をあわせると、中国語検定試験4級合格レベルの文法事項を修得することができます。	
	中国語Ⅲ	本講義は「中国語Ⅰ」と連動して行います。最初の4週は発音練習に充てます。その後は「中国語Ⅰ」で学ぶ文法事項を用いた会話表現の実践練習を行います。中国語による自己紹介の練習や他人の自己紹介を聞き取る練習をはじめとして、中国語のオーラルコミュニケーション（聴くことと話すこと）の力を養います。授業では履修者同士の練習が主たる内容となります。	
	中国語Ⅳ	本講義は「中国語Ⅲ」の続きの授業であり、「中国語Ⅱ」と連動して行われます。「中国語Ⅱ」で学ぶさまざまな文法事項を用いて、実用的な会話表現の実践練習を行います。履修者同士の練習を主とし、自己の願望の表現や、過去、現在の叙述、接続詞を用いる複文など、中国で生活するうえで基本となる会話表現をマスターします。会話では話す力とともに聴く力が重要であるので、中国語のリスニング能力の向上も重視します。	
	韓国・朝鮮語Ⅰ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの前期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	前期に引き続き、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの後期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国・朝鮮語Ⅲ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの前期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	
	韓国・朝鮮語Ⅳ	前期に引き続き、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの後期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	
	言語と文化Ⅰ (ドイツ)	初級～中級レベルの教材を使用し、復習を兼ねて一年次で習得したドイツ語の基礎知識を発展させることが当講義の目的です。易しいドイツ語で書かれたテキストを読解しながら、ドイツ語力を伸ばすと同時にドイツの社会、文化、歴史への理解を深めていきます。	
	言語と文化Ⅱ (ドイツ)	後期は、ドイツが近代国家になった頃から現在に至って、様々な時代的・社会的背景を物語る「ドイツ語」に挑戦します。 例えば、19世紀を代表する言語学者のGrimm兄弟の童話や20世紀の戦争の恐怖を表現するBrechtの作品に触れたいと思います。なお、ドイツ初の漫画、そして現代の社会問題をピックアップする、生きている話し言葉で書かれている漫画などを用意しております。それぞれのテキスト、分かりやすい、短いものにします。そして、授業で一緒に読んで、解説し、ドイツの社会、文化、歴史などについて考えて行きたいと思います。	
	言語と文化Ⅲ (ドイツ)	ここでは、少なくともドイツ語Ⅰ、Ⅱあるいは、ドイツ語Ⅲ、Ⅳを受講した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	
	言語と文化Ⅳ (ドイツ)	ここでは、少なくともドイツ語Ⅰ、Ⅱあるいは、ドイツ語Ⅲ、Ⅳを受講した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。教科書を使用しますが、それは、「言語と文化Ⅲ(ドイツ)」で使用しているものです。したがって、「言語と文化Ⅲ(ドイツ)」を受講していることが望ましいです。	
	言語と文化Ⅰ (フランス)	「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で習得した基礎をしっかりと固め、さらに未習の文法事項の学習へと発展させます。それと同時に、フランスの最新の文化事情と、フランスから見た日本を考えつつ、実践的なフランス語によるコミュニケーション能力を高めます。日仏の歴史・文化・経済・政治を比較しつつ、今われわれが生きつつある世界の変容について考えます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅱ (フランス)	「言語と文化Ⅰ（フランス）」（前期）に引き続き、フランス語の未習事項を学び、実践的コミュニケーション力を向上させます。同時に、フランスの最新の文化事情を知り、過去の歴史との関連の中で、理解を深めます。	
	言語と文化Ⅲ (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」 シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー（フランス語圏）に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということ不可分です。	
	言語と文化Ⅳ (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」 シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー（フランス語圏）に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということ不可分です。	
	言語と文化Ⅰ (スペイン)	「言語と文化Ⅰ・Ⅱ（スペイン）」では、「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」の単位取得者を対象に、日本人大学生がラテンアメリカ諸国を旅行するという設定の教科書を用いて、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかるとともに、ラテンアメリカの社会や文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅱ (スペイン)	前期開講の「言語と文化Ⅰ（スペイン）」の継続です。前期に引き続き、ラテンアメリカの国々について学びつつ、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかります。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅲ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習。 a. 2) スペイン語の直説法の過去形。Imperfecto線過去、indefinido点過去、perfecto現在完了、pluscuamperfecto大過去。 a. 3) 会話の練習。 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペインの多様性：言語、歴史、地理、食文化等を日本と比較。 b. 2) サッカーと闘牛 “Fútbol y Toros”。	
	言語と文化Ⅳ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習 a. 2) Futuro (未来形)、Condicional (過去未来) Imperativo (命令形)、Subjuntivo (接続法) a. 3) 会話の練習 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペイン人の平日のスケジュール、余暇の使い方、夏休み等を日本と比較。 b. 2) 都市計画と人間関係。Gaudí (ガウディ)。	
	言語と文化Ⅰ (中国)	中国語Ⅰ～Ⅳを修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。講義は中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅱ (中国)	「言語と文化Ⅰ(中国)」を修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。講義は中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅲ (中国)	この科目は中国語Ⅰ～Ⅳをすでに履修している人を対象として、中国語の文章を読解しながら、①中国語のレベルアップを図り、②中国の伝統的な文化について学ぶとともに、③グローバル化のなかでの中国社会・文化の変化の様子を紹介します。	
	言語と文化Ⅳ (中国)	この科目は「言語と文化Ⅲ(中国)」に引き続き、中級レベルの中国語文章の読解を通じて、中国語の力(特に読解力とリスニング力)をひき上げ、それとともに中国の社会・文化への理解を深める科目です。「言語と文化Ⅲ(中国)」につづく科目とはいっても、「言語と文化Ⅲ(中国)」の内容理解を直接に前提とする授業構成ではありませんので、「言語と文化Ⅲ(中国)」を履修していない学生の履修も可能です。	
	言語と文化Ⅰ (韓国・朝鮮)	韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳを履修し、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅱ (韓国・朝鮮)	前期に引き続き、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅲ (韓国・朝鮮)	本講義では、歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することを目指します。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学び、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさぐっていきたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。(本講義ではとくに近代から1980年代までを扱います。)	
	言語と文化Ⅳ (韓国・朝鮮)	本講義では、歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することを目指します。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学びながら、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさぐっていきたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。本講義ではとくに1980年代以降の韓国社会、南北関係、歴史認識をめぐる問題など、テーマごとに学びます。	
	上級外国語Ⅰ (中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。 また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	
	上級外国語Ⅱ (中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。 また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	
	上級外国語Ⅰ (韓国・朝鮮語)	3年間韓国・朝鮮語関連科目を履修した受講者を対象に、最上級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康科学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	上級外国語Ⅱ (韓国・朝鮮語)	前期に引き続き、3年間韓国・朝鮮語関連科目を履修した受講者を対象に、最上級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。		
保 健 体 育 科 目	健康科学論	健康に関する情報が氾濫しているとも言える今日において、それらの情報の正否は何を基準に判断すれば良いのでしょうか？また自分が今、健康的な生活を営んでいるのかどうか、何を基準に判断すれば良いのでしょうか？これらについての理解をしていないと、自分の健康を維持・増進することはできません。 この科目では、健康を維持・増進するための運動を中心とした基礎的な知識を集積し、それを実行するためには何が必要かを学習します。また、健康に関する最新の話題や身近な問題を提供する予定です。		
	運動科学論	スポーツや運動にかかわる諸問題を考える場合、運動をとらえる切り口はいろいろあります。この科目では、スポーツ運動だけでなく日常的な運動も含めた、身体運動における私たちの身体の構造と機能の理解から始め、この側面から人間の運動というものにアプローチしていきます。		
	健康科学演習	今日、運動不足やストレスの問題はますます増加の傾向にあり、これらは健康阻害の一因となっています。この科目では、「運動・スポーツ」を通じて、どのように「健康」な状態を生み出していけるのかについて考察します。まずは、健康づくりに関する基礎的な知識を学習した上で、運動時の生理的指標の変化を確認します。そして、明らかにしたい運動や健康に関連した実験テーマを自分で決め、正しい手続きで数値データを取り、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明することを目指します。		
	運動科学演習	この科目では、人間の運動や運動の学習を材料にして「学問・研究」を行います。 また、広島県の高中生バスケットボール国体候補選手や小学生スーパージュニア選手のタイミングコントロール能力の測定・解析も予定しています。 正しい手続きで数値データを取り、あらわれた差が偶然のものではないことを明らかにして、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明することを目指します。		
	健康スポーツ実習 (エアロビクス)	エアロビックエクササイズを用いて、自己の身体を最適にコントロールすることを学びます。生活や健康に役立つ体力とは何かということを積極的に考え、健康体力づくりの基礎となる有酸素運動の理論をもとに、身近で誰もが楽しめるエアロビックダンスを実施します。音楽のビートに合わせて楽しく軽快に全身を動かします。		

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (ゴルフ)	生涯スポーツとして取り組むことのできる種目「ゴルフ」をとりあげます。 ゴルフの基本的技術のグループ練習やゲームを通して、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方法を身につけることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (サッカー)	サッカーは、激しいボディコンタクトが許されており、女性や体の弱い人が参加することは難しいという印象を受けがちなスポーツです。しかし、フットサルに見られるように、①オフサイドをなくす ②ボディコンタクト、対人へのスライディングを禁止する ③交代を無制限にする など、ルール設定を変化させることで、①選手一人のボールタッチ回数が増える ②怪我をしにくい ③室内でも行える などの利点が生じます。このように競技ルールの変化によって、様々な競技レベル・性別・場所などでスポーツの実践が可能になることを体験し、これらのスポーツ活動を自らの心身の健康づくりに役立てられる能力の育成を目指します。また、サッカーはチームスポーツであるため、コミュニケーションスキルの習得も目的としています。	
	健康スポーツ実習 (ソフトバレーボール)	ソフトバレーボールは、6人制のバレーボールとは異なり、軟らかいボールを使用し、ネットの高さも低く、4人制で男女ミックス、大人と子供のミックスなど独特の競技方法がとられている特長があり、生涯にわたって行うことができるスポーツです。この授業では、ソフトバレーボールの基本的技術やゲーム戦術、ルールを学び、ソフトバレーボールの競技の楽しさを実感することを目的としています。	
	健康スポーツ実習 (ソフトボール)	野球・ソフトボールなどの攻守交替型の球技は、サッカー・バレーボールなどと比較すると、特に、攻撃時においてプレイに直接的にかかわることが少なくなる局面があらわれます。チームプレイが必要な集団競技とはいえ、自分の打順が回ってきそうにないイニングには、ともすれば自チームのプレイから注意がそれてしまうことがあります。 この授業では、社会的健康を成熟したチームとして機能することと捉えます。この場合、自他の能力を本質的に理解することが必要とされますが、ここでは、まず他人のプレイに注意を向け、見ることで、そして、すごいな、うまいな、というレベルにとどまることなく、これを分析することに主眼をおきます。	
	健康スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、人間関係の健康のために適切な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。将来に渡って、自己のライフステージや心身の状態に応じて、それぞれに適したスポーツを生活に取り入れ、豊かで健康的なライフスタイルを形成する能力を養うことを目的とします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (テニス)	テニスは老若男女を問わず自分の体力や性格に合わせて生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。そして、自分の体力や性格に合ったプレイを選択し遂行できるための素地を養い、健康の維持・増進のための生涯スポーツへとつなげることを目標とします。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (ニュースポーツ)	ニュースポーツの授業では、一般的に多くのスポーツ愛好者に普及しているオリンピック種目などとは異なる、比較的近年になって作られたスポーツを行います。ニュースポーツは、おそらくほとんどの受講者が実施した経験のない種目であり、一からルールを覚えて実施することになります。新しいスポーツに全員で取り組む中で、スポーツの有益性を学んで行くことが授業の主要目的であり、健康な心身を作るという面で運動がどのような役割を担っていけるかを考えていきます。ニュースポーツ種目のルールを把握し、自分たちでゲームを実施できるようになることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールというスポーツ種目が、果たしてからだの健康の維持増進を図る上でのスポーツとして適切であるか否かについて検討します。また、そうすることで、最適な運動とは何かを探り、環境や身体の変化に適応したスポーツ種目の選択をするための方略を学びます。 同時にバスケットボールの基本的な技術や戦術を身につけ、ルールを覚えてゲームを他の人と一緒に楽しめるようになることも目的とします。	
	健康スポーツ実習 (バドミントン)	健康の維持増進を目的として、バドミントンを生涯継続してできるための基本的技術や戦術を学びます。また、バドミントンのルールや審判法を学び、チームのメンバーと協力し自主的に試合を運営します。さらに脈拍や歩数計を用いて自分の健康状態や活動レベルを確認します。	
	健康スポーツ実習 (ボディワーク)	ボディワークを用いて、からだの健康（または、こころの健康、人間関係の健康）のために最適な運動行動とは何かについて学習します。授業では、適度な運動を通して気分がすっきりしたり心地よく感じる動きを体感しながら、しなやかな体づくり（滑らかに柔らかく動ける身体）、きれいな姿勢づくりを目指します。ヨガやクラシックバレエの基礎的な動きを基に、音楽に合わせたゆるやかな動きやリズムミカルな動きなど、自分の身体と向きあう課題を行います。誰もが楽しめるボディワーク、仲間と楽しめるボディワークを実施します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (Shudo AP)	プロジェクト・アドベンチャーの手法による体験学習を用いて、人間関係の健康のために最適な言動・行動とは何かを探り、人間関係を主とした環境の変化に適応するための方略を学びます。「Shudo AP」とは、広島修道大学 (Shudo) アドベンチャー (Adventure) プログラム (Program) の略です。	
	健康スポーツ実習 (アダプテッド・スポーツ)	アダプテッド・スポーツとは、障害のある人はもちろん、幼児から高齢者、体力の低い人であっても、ルールや用具を対象者の特徴に適合 (adapt) することによって展開するスポーツ活動のことです。本授業では、様々なアダプテッド・スポーツのルールを学習し、体験していきます。また、特別支援教育に対応できるように、障害の疑似体験者をインクルーシブしてスポーツを行います。このようなことから、アダプテッド・スポーツを理解し、どのように展開していくと、みんなが楽しむことができるのかということの理解を深めていきます。	
	健康スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	運動スポーツ実習 (アクアティックスポーツ)	スキンドайビングやスクーバダイビングで自由に活動するためには、器材の取り扱いに慣れるだけでなく、水中という特殊な環境が身体に及ぼす影響やダイバーが自然に与える影響についての理解が必須となります。そこでは安全に対する高い意識と自然に対する謙虚な姿勢が強く求められます。 この授業では、フィン・マスク・スノーケル・ウェットスーツをはじめとしたダイビング器材を用いて、スキンドайビングとスクーバダイビングの基本的な技術を身につけるとともに、野外（海）で安全に楽しむために必要な知識・技術・態度を最適にコントロールすることを学ぶことで、生涯にわたってスキン&スクーバダイビングを楽しむ態度やマナーを養成します。	
	運動スポーツ実習 (エアロビクス)	エアロビックエクササイズを用いて、自己の身体を最適にコントロールすることを学びます。生活や健康に役立つ体力とは何かということを積極的に考え、健康体力づくりの基礎となる有酸素運動の理論のもとに、身近で誰もが楽しめるエアロビックダンスを実施します。音楽のビートに合わせて楽しく軽快に全身を動かします。	
	運動スポーツ実習 (ゴルフ)	ゴルフを通じてマナー、自主性や指導性、社会性などを身につけることを学びます。 ゴルフは生涯スポーツとしてとらえられ、ジュニアから高齢者、男女問わず愛好者が目立っています。また、原則的に人間対人間の勝負というより、人間がコースという自然と闘うゲームであるゴルフにおいて自らのプレーを自らのレフリーとなって律するという基本精神について実践を通して学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (サッカー)	サッカーを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	
	運動スポーツ実習 (ソフトボール)	ソフトボールの実験を通して、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーからなるゲームを最適にコントロールすることを学びます。ソフトボールを楽しむための基本的な技術を習得して、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、チームゲームを通して協調性などの社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、自分の身体、ラケット、ボールを最適にコントロールすることを学びます。 卓球は誰にでも気軽にできるスポーツであり、生涯スポーツとして楽しんでいる人も多いです。また、競技スポーツとしての卓球はボールスピードが速く、それに対応するための俊敏な動きや持久力も必要となっています。球の楽しみ方には色々あります。やさしいラリーが続くことを楽しむこともできますし、俊敏な動きとダイナミックなスマッシュで運動不足を解消することもできます。この授業では卓球を教材として取り上げ、基本的な技術とルールを学び、各自の技能に応じた戦術を考え、試合で効果的に用いることができるようにしたいです。また、練習や試合方法を工夫し、それを積極的に実行することで卓球の楽しさを体験します。	
	運動スポーツ実習 (ダンス)	ダンスを用いて、自己の身体や表現性を最適にコントロールすることを学びます。ダンスは、リズムを動きで表現したりリズミカルな動きを楽しむ「リズム型」や具体的な対象を模倣することを楽しむ「模倣型」、形式をもつリズミカルな動きが特徴の「フォークダンス型」や考えや感情、対象を動きによって表現する「創作ダンス型」などがあります。ここでは、そのようなダンスの基本要素（舞踊身体育成法、リズム取り、動きのスケッチ、即興、構成法など）を学習すると共に、ヒップホップやジャズダンスなどの現代的なダンスの動きを習得し、仲間と楽しくダンスの創作や発表ができるようになることを目的とします。	
	運動スポーツ実習 (テニス)	テニスは老若男女を問わず生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。 また、雨天時にはテニスコートが使用できないため、体育館などで卓球、体力トレーニングなどを行ないます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。 チームプレイは、個々のプレイヤーの動作（走る、跳ぶ、止まる、向きをかえる、投げる、捕る、ころがすなど）の相互作用によって成立しています。このときのプレイヤーの関係には、①ボール保持者と非ボール保持者、②非ボール保持者と非ボール保持者という2つがあります。このことはチームプレイには最低3人が必要であることを示しています。現在のバスケットボールのチームプレイは、カットインプレイとスクリーンプレイの少なくとも一方を含んで構成されています。プレイヤーは、カットインをするか、スクリーンをするか、何もしないかによって相互作用を行うのです。授業では、チームとして、カットインやスクリーンを用いてディフェンスラインを破った状態でシュートをすることの学習を行います。	
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	バドミントンを通して、身体を最適にコントロールすることを学びます。サーブやスマッシュ、ドロップ、ドライブといったバドミントンの個人技術を身につけ、ゲームとしてバドミントンをより楽しめることを目的とします。また、どのようにすればゲームに勝てるかの戦略を考え、シングルスやダブルスゲームを行っていきます。バドミントンでは、「目では見えていけど身体が動かない」、「当てたつもりなのに空振りをした」、「練習しているうちにいつの間にか頭で考える前に身体が動くようになった」などを経験することがあります。本授業では、こういったスポーツで経験する身体と脳の不思議や健康への貢献についても学んでいきます。	
	運動スポーツ実習 (バレーボール)	バレーボールを用いて、練習方法と指導方法の関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。バレーボールのルールや審判法を学びます。バレーボールのサーブ、レシーブ、パス、スパイク、ブロックなどの基本的技術を習得し、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、身体運動を通して社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	野外運動実習Ⅰ (キャンプ)	「はじめチョロチョロ、なかパッパ、...グツグツ いったら火をひいて、...赤子泣くともフタとる な。」これは、炊飯器のマイクロコンピュータの中に 隠されてしまった先人たちの「日常」です。この授業 は、山の中で生活することによって、このようなブ ラックボックスと化した日常を手作業で行います。し かし、これは決して歴史への逆行や単純に「不便さ」 を求めるものではありません。それは、「便利さ」を もたらす科学技術へのより深い理解を目指した学習な のです。 また、私たちはふだん雑菌の中で生活していることを ほとんど気に留めていませんが、山の中では、ちょっ と気を許すと、食料は傷み寝床は虫だらけ、というこ とになってしまいます。ゴミを片付けたり、清潔に整 理整頓しておくことは、けっして環境のためだけでは ありません。環境問題はきっと私たち人間にはね返っ てくるということを切実に思い起こさせてくれる科目 です。 大自然は逆らおうとする者には激しく牙を剥き、友達 でいようとする者には優しく応えてくれます。山での 生活は、人間がまさに大自然の一部であることを感じ させてくれるでしょう。大自然の懷に抱かれて、PC・ スマホゲームやカラオケボックス・テレビ・漫画以外 の楽しいことを「同じ釜の飯を喰う」仲間とともにた くさん見つけることを目的とします。	
	野外運動実習Ⅰ (スキー)	この科目では、冬のスポーツであるスキーをとりあ げ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境に おける最適な身体の使い方について学習します。これ は、各スポーツ実習の授業では習得できない身体のコ ントロール方法です。初めてスキー板を履く人、ス キーを始めたばかりの人について、重心線が常に2本 のスキー板の間にある安定したポジションで、スピー ドコントロールをしながら安全に、山の頂上から麓ま で滑って降りられるようになることを目標とします。 一方、野外運動実習Ⅱ（スキー発展）においてパラレ ルポジションでのターンを習得した人については、プ ルークポジションで左右のエッジをすばやく切り替え ることによる、より短いタイミングでのターンの習得 を目標とします。いずれも、しっかりと「谷足にの る」感覚を身につけます。 また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が 増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うと きの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定な ど）についての知識を実践的に獲得することも目的と します。	
	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	この科目は、野外運動実習Ⅰ（キャンプ）で行う、 テントの設営と撤営、鉈を用いた薪割り、かまどにお ける火起こしと炊事、などのいわば理論的側面を主に 扱います。「理論」といっても机の上で行うのではあ りません。理論化することとは、体系的に言語化 することです。 ほかの人に伝えようとしても、内容が十分に理論化さ れていない場合は、聞いている人が「ん?!」という 顔をします。 この授業では、テントを張る順番がなぜ決まっている のか、ご飯が炊けるとはどういうことなのか、火や鉈 がきの上もなく危険なものとなるのはどういうとき か、などを体系的に言語化し、「整理」して、キャン プⅠの受講者にわかりやすく「伝達」することの学習 を行います。 また、Ⅰにはない、ロープワーク、クラフト、ナイフ や鉈の手入れ、見えない相手との通信方法などの学習 も予定しています。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康科学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	野外運動実習Ⅱ (スキー発展)	この科目では、冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では習得できない身体のコントロールです。 スキー発展では、クロスオーバーのあるターンができるようになることを基本とし、そのターンを基にした大回りのパラレルターン・小回りのパラレルターンの習得を目標とします。また、新雪や不整地など様々な状況に合わせた滑り方の学習も行います。さらに、板をずらさないカービングターンについても学習します。 また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。		
主 専 攻 科 目	健康科学統計法	本講義は、「統計学」ではなく「統計法」の概説です。すなわち、心理学・栄養学の分野で活用される統計的データ解析法の習熟を目指しています。前半では、記述統計学（度数分布、代表値、散布度、正規分布と標準得点など）の学習を行います。後半は、前半の内容を基礎として、種々の統計的検定法（相関係数、t検定、 χ^2 二乗検定など）の基本原則について概説します。		
	健康心理学	健康心理学は、人生の質（quality of life）を高めることを目的にした新しい心理学ないし行動科学であり、基礎研究と実践という2つの領域があります。健康に関連するさまざまなテーマ（食行動、肥満、身体運動、ストレス、コーピング、パーソナリティなど）について行動科学的見地から学習し、基礎研究に基づいた実践活動のあり方を理解することを目的とします。また、授業を通して自らの健康観を見直すこともねらいとします。	隔年	
	食行動科学	食行動は、生物行動であると同時に学習行動であり、また社会・文化行動でもあります。心理学の中では、動物心理学、知覚（特に味覚・嗅覚）心理学、学習心理学、感情・動機づけ心理学、発達心理学、社会心理学、文化心理学、健康心理学、ポジティブ心理学、臨床心理学といった諸領域において研究されており、本授業ではこれらについて講述していきます。	隔年	
	カウンセリング心理学	健康とは身体的・精神的及び社会的に良好な状態（well-being）のことをいいます。カウンセリングとは、こうした健康を阻害する諸問題について、来談者が自分自身の状況や考えを整理し、納得のいく結論や判断に到達するよう支援することです。本講義では、言語的あるいは非言語コミュニケーションを用いたカウンセリング理論や技法について概説します。教育、福祉、医療、産業、司法矯正などの各領域での実践例を交えながら具体的にカウンセリングの理論と実際について詳述します。	隔年	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	栄養と健康	食習慣の良否は大きく心身の健康を左右します。したがって、健康の維持・増進のための正しい食習慣のあり方について学ぶことによって、これから人々の健康に関わる専門知識を学ぶという意識の導入を図ります。また、大学生となり一人暮らしを始めることで、食習慣の乱れに伴って健康を害する者の出現が危惧されます。そこで、心身を健康に保ち、健全な大学生活を送るための自己管理のあり方についての教育も目的とします。	
	基礎化学	物質の基礎的・化学的性質に関する知識を習得することを目標とします。特に、化学物質の分子構造やイオン状態、化学反応など無機化学・有機化学の基礎の学習を通じて、身近な事例について化学的に見る目を養うと共に、科学的ニュース番組を理解できるようにします。そうすることで、心理学科学生に対しては理化学的教養を身につけさせ、健康栄養学科の学生に対しては資格に直結した基礎専門科目を修得する場とします。	
	食育入門	管理栄養士・栄養士といった食の専門資格を取得する健康栄養学科の学生はもちろんのこと、心の健康と食習慣の関連性も指摘されていることから、心理学科の学生も、その資格を活かした職務を遂行する上で、必要に応じて食生活について言及する必要性が生じる可能性もあります。そこで、食育の意義、法的根拠（「食育基本法」）、食育活動の方法論と事例等について学修します。	
	地域食文化論	人の食行動は、生理的・心理的要因とともに、食文化や食環境（（経済的・地理的環境を含む））が深く関与しています。栄養教育や心理カウンセリングを行うときに、対象者が居住している地域の食文化を理解しておくことは重要です。広島県および日本の食文化について、その食材、料理の変遷、技能・様式・食器等の変遷、年中行事と食、儀礼と食、各地域の伝統食・郷土食と背景について学び、食が生活に果たしてきた役割を考えます。さらに世界各地の食文化にも触れ、多彩な食様式やその背後にある考え方を理解します。	
	スポーツ文化論	スポーツを文化として捉え、社会におけるスポーツの意味の変遷を考察し、現代社会におけるスポーツのあり方を考えます。更にスポーツ文化について歴史的・社会的事実から論証し、理解を深めます。 本講義は、パワーポイントを使用し、進めていきます。	隔年
	コミュニケーション論A	日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日の問題について検討します。「コミュニケーション論 A」では対面的コミュニケーションを中心に学び、さらにITという言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのかについて考えます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーション 論B	日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日の問題について検討します。「コミュニケーション論B」ではメディアを介したコミュニケーションのあり方について学び、さらにITという言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのかについて考えます。	
	スポーツ社会学	スポーツを取り巻くさまざまな社会的事象について考察し、スポーツと社会の関わりを理解します。更に社会とスポーツの関わりについて社会的事実から論証し、理解を深めます。 本講義は、パワーポイントを使用し、進めていきます。	隔年
	健康科学部特別講義 (生命と倫理)	E.フロムの『悪について』を手懸りに「生命軽視の風潮」の背後にある病理現象について考察します。また生命の解明が進み、生命の操作が可能となった今日、生命をめぐる様々な問題が生じてきました。生命倫理の諸問題について具体的に考察するとともに、そもそも「生命とは何か」という根本問題にまで考察を進めます。そして最後にシュヴァイツァーの語る「生命への畏敬の倫理」の重要性について再認識します。	
	インターンシップ	食品関連企業にインターンを派遣します。食品の開発・製造・販売や衛生管理など食品産業の実態を体験します。 (オムニバス方式／全15回) (66 山内 有信／6回) 実習前授業（事前指導） (8 古満 伊里・42 多山 賢二・66 山内 有信／6回) 実習先の概要に関する説明、実習 (8 古満 伊里・42 多山 賢二・66 山内 有信／2回) 実習後の授業（事後指導） (8 古満 伊里・42 多山 賢二・66 山内 有信／1回) 報告会でのプレゼンテーション	オムニバス方式
	イノベーション・プロジェクトⅠ（地域課題研究2019）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業で、4月からの上半期に大学休日、夏季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化の発見のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅠの進行状況は、教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まとめは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	イノベーション・プロジェクトⅡ（地域課題研究2019）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業です。（特に冬期特有の課題（豪雪・買い物難民）等に関して取り組んでいく）9月からの下半期に大学休日、冬季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅡの進行は教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まともは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	
	イノベーション・プロジェクトⅠ（地域課題研究2020）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業で、4月からの上半期に大学休日、夏季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化の発見のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅠの進行状況は、教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まともは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	
	イノベーション・プロジェクトⅡ（地域課題研究2020）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業です。（特に冬期特有の課題（豪雪・買い物難民）等に関して取り組んでいく）9月からの下半期に大学休日、冬季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅡの進行は教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まともは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	
専門基礎科目	心理学概論Ⅰ	心は見ることも触ることもできません。そのような曖昧な心について、心理学という学問では科学的な研究手法を用いて分析し、法則性を明らかにしてきました。本講義では、毎回、感覚・知覚、情動、動機づけ、学習、記憶、パーソナリティ、意思決定、集団心理、ストレスなどのトピックを取り挙げ、現在までの成果を概説します。	
	心理学概論Ⅱ	心は見ることも触ることもできません。そのような曖昧な心について、心理学という学問では科学的な研究手法を用いて分析し、法則性を明らかにしてきました。本講義では、毎回、発達、自己、知能、ジェンダー、精神疾患、心理療法、社会行動などのトピックを取り挙げ、現在までの成果を概説します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学研究法	人間の心の働きを理解するために、心理学では様々な研究方法が提案されてきました。本講義では、人間の心を科学的に研究するために必要な基礎知識として、実験法、調査法、面接法、観察法などについて学習します。合わせて、統計手法の必要性や研究を実施する上で気をつけねばならない倫理上の問題などについて講述します。	
	心理調査概論	心理調査の意義と諸類型、および方法論について概説します。目標は、社会の中で調査結果がどのような形で利用されているのかについて、全般的・包括的に理解することです。具体的には、適切な調査方法の選択、標本抽出方法などを概観した後、質問紙法、インタビューによる調査法、インターネットを介した調査法などについて事例を交えて詳述します。また、フリーで得られるデータ（国勢調査、犯罪統計など）を元に、記述統計法を用いた分析を行い、研究方法の理解に努めます。	
	心理統計法 I	心理学の実験・調査データの処理・検定・分析に必要な知識と手法を身につけることを目的とします。具体的には、Microsoft Excel、統計ソフトSPSSを使用し、代表値・係数の算出、t 検定・分散分析を学習します。また、実際の論文の結果の見方や、論文と同じ分析を実践し、分析の手続きを学びます。	
	心理学実習 I	実験器具やコンピュータを用いた基礎的な実験実習を通じて、要因計画、仮説検証作業、データの統計的処理、および科学レポートの執筆の仕方について学習します。実験実習は、1つのトピックについて3回程度の授業時間を割り当てます。基本的な心理学実験や社会心理学実験を行う予定です。	共同
	心理学実習 II	質問紙による調査実習を通じて、要因計画、仮説検証作業、データの統計的処理、および科学レポートの執筆の仕方について学習します。調査実習は、1つのトピックについて3回程度の授業時間を割り当てる予定です。各実習内容は既成の質問紙を用い、先行研究の追試を行なうことが中心になります。	共同
	心理学基礎演習	3年次に演習クラスに配属された段階で、適切に先行研究の読解・紹介・討論ができるようになっていくことを目標として、約20名ごとにクラス分けし、各クラスで資料や文献の検索方法、レジュメの作成方法、レジュメに基づく発表方法、発表された内容についての質疑・討論の仕方について、実践形式で学習します。さらに、心理学に関する研究を実施する上で遵守すべき研究倫理などについても講述します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学史	多岐にわたる現代心理学を歴史的観点から理解することにより、現代心理学の全貌がある程度理解できるようになります。本講義では、枝葉にとらわれることなく、いわゆる心理学のメインストリームについて、その歴史的解説を試みます。	隔年
	心理学外国語文献	本講義では心理学英語文献の読解を行います。Japanese Psychological Researchに掲載された最新の論文について、予習をもとに課題に取り組みます。事前に指定された受講者が解答を発表し、担当者が解説を加えます。各回で学習した心理学用語について、次の授業のはじめに小テストを行います。	隔年
	心理学キーワードA	心理学の基礎的内容ならびに専門的内容を学び終えた者を対象とします。大学院進学、心理学専門職（公務員）への就職、心理学検定一級受験を想定し、それらに課せられる試験に合格することを直接の目的とします。本講義では、心理学検定のA領域（原理・研究法・歴史、学習・認知・知覚、発達・教育、社会・感情・性格、臨床・障害）を対象とし、心理学キーワードBでは、B領域（神経・生理、統計・測定・評価、産業・組織、健康・福祉、犯罪・非行）を対象とします。	
	心理学キーワードB	心理学の基礎的内容ならびに専門的内容を学び終えた者を対象とします。大学院進学、心理学専門職（公務員）への就職、心理学検定一級受験を想定し、それらに課せられる試験に合格することを直接の目的とします。本講義では、心理学検定のB領域（神経・生理、統計・測定・評価、産業・組織、健康・福祉、犯罪・非行）を対象とします。	
	心理情報処理Ⅰ	情報処理入門で習得した内容を、心理学を学習する上で有効に利用できるようにします。コンピュータの操作等を通して、その役割と機能について理解します。主としてデータ処理という点から情報を適切に活用する応用的な能力を養うことを目標とします。具体的なトピックとしては、コンピュータの基礎、電子メール・文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーション用ソフトの基本的な使用方法、インターネットの仕組みとWebシステム、モデリングとシミュレーション、データ・マイニングなどです。	隔年
	心理情報処理Ⅱ	データの収集、収集したデータの整理、分析、表現のための技術を習得します。具体的には、表計算ソフトにおける、数式・基本関数・条件分岐の使い方、グラフ作成、データベース処理、マクロおよびデータベース関数の使用法について、コンピュータを用いた演習形式の授業を行います。	隔年
	最新心理学講義 (文化心理学とその展開)	国際化の進む現代社会において重要なスキルとなる、こころの社会差・文化差について体系的に理解することを講義の目標とします。本講義では、まず、90年代初頭から蓄積されてきた文化心理学の古典的な知見を紹介し、社会によって私たちのこころがどのように違うのかを説明します。その後、その最新の展開として、脳神経科学的観点・発達の観点・社会生態学的観点から（再）検討を行った研究を紹介し、社会によるこころの差がなぜどのように生まれてくるのか、最新の理論仮説を説明します。	隔年

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	最新心理学講義 (連合学習理論の基礎と応用可能性)	本講義では、ヒトや動物が経験によって行動や知識をアップデートしていく様子が連合学習理論によっていかに記述され、また新たな現象の予測を行うかを紹介します。扱う手続きは古典的条件づけや道具的条件づけといった比較的単純なものです。唾液分泌といった末梢反応に留まらず、時空間に関する情報や因果関係の学習、生殖、自己主体感といった問題も取り上げ、連合という単純な道具立てで複雑な行動変容を扱うことの意義や利点について検討します。	隔年
	地域援助実践体験	広島市児童相談所一時保護所、情緒障害児短期治療施設の広島市こども療育センター愛育園、広島市教育委員会少年サポートセンターひろしま、乳幼児ホームの広島乳児院、児童養護施設の広島修道院及び広島修道院きずなの家において、施設の職員の指導の下、乳幼児の養育支援や、情緒障害児、家庭環境に問題のある児童・生徒、あるいは非行少年・少女の相談相手となり、学習支援やレクリエーションの企画・実施等を通じた生活支援を行うことにより、地域において心理学の知識を活かした実践活動の場を体験します。 (オムニバス方式／全8回) 実践体験における留意事項と倫理 (5 志和 資朗・8 古満 伊里・9 増田 尚史／1回) 実践体験施設の紹介 (5 志和 資朗・8 古満 伊里・9 増田 尚史／1回) 子どもの成長・発達へのサポートのあり方 (8 古満 伊里／1回) 少年非行へのサポートのあり方 (5 志和 資朗／1回) レポート(体験の言語化)と発表会でのプレゼンテーションの指導 (5 志和 資朗・8 古満 伊里・9 増田 尚史／3回) 発表会でのプレゼンテーション (5 志和 資朗・8 古満 伊里・9 増田 尚史／1回)	オムニバス方式
	心理学とキャリア形成	本演習は、心理学科で学ぶ学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育てることを目的としています。そもそも自分はなぜ心理学を学ぼうと思ったのか、現時点でその目標がどの程度達成されているのか、将来どのような職業に就きたいと思っているのかについて内省し、そのためには今後大学の内外でどのようなことを学び活動していかなければならないのかを参加者全員で議論します。また、当学科卒業生や4年生有志の参加を得て、大学生活全般にわたる自らの体験、就職活動、卒業研究の実態について語ってもらい、私たちの議論の参考にします。さらに、ここで得た自らの将来展望に関する答を基にして、キャリア形成のための活動計画表を各々が作成し、活動推進学期中にその計画の一部を遂行し、最終的に活動報告書を提出してもらいます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 標準 科目 心理 臨床 領域	臨床心理学	臨床心理学は幅広い領域にかかわる学問領域です。本講義では、臨床心理学の初学者向けに、保健福祉領域、学校教育領域、病院医療領域、司法矯正領域、産業領域などでどのような業務を担うのかについて具体的なイメージが描けるようになることを目的とします。それぞれの領域で臨床心理業務を遂行するにあたり必要な心理アセスメント、カウンセリング、心理療法などについて概説します。	隔年
	医学概論	疾患を起こした時の細胞・組織変化、その変化が引き起こす種々の症候、それら症候の診断法、疾患の治療法について概説し、病気によって引き起こされる生体の変化、また病院におけるその病気に対する検査、診断、治療の一連の流れを学びます。また老化、クリティカルケア、移植、緩和ケア、死の基準や医療倫理の問題についても考えます。これらによって、心理療法士あるいは管理栄養士としてチーム医療に参加する際に要求される基本的医学知識を習得することを目標とします。	隔年
	障がい者（児）心理学	本講義では、視覚・聴覚・言語・運動・知的障がい・発達障がいの特徴を学び、同じ社会を生きるものとして、支援のあり方について考えていきます。特に診断や対応が困難といわれている発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠陥多動性障がい、学習障がい）の定義と特徴、これら障がいのアセスメント方法と支援方法とについて、具体的症例や実践例を交えながら講述します。	隔年
	ストレスマネジメント	科学技術の高度な発達による急激かつ大きな変化が新たなストレスを生み、人間の「ストレス対処システム」がそれに対応しきれなくなっているのが現代のストレス社会です。本講義では、こうした現代ストレス社会を生きていくために、必要なストレスと不必要なストレスを見極め、ストレスに対する建設的な対処（コーピング）について学び、実践できるようになることを目標とします。適切なストレスの理解と建設的なストレス対処法の習得のために、実技を取り入れながら行います。	隔年
	心理査定論	心理査定とは何かについて概観した後、知能検査法、質問紙法、投影法などの特徴を学び、どのような目的でどのようなテストを用いるか（テストバッテリー）について事例を交えて講述します。さらに、心の現象を量的に測定し理解することの意義と限界や心理テストを扱う上での倫理についても講述します。これらを通じて、どのように個人を査定し、どのように心理診断や予後に役立てるのかについて考えられるようになることを目標とします。	隔年
	人格心理学	人は自分や他人の行動や行動の原因について関心を持っています。これは多様な個人差が人の行動に認められるからであるし、また一つの行動についてもさまざまな説明が可能であるからでしょう。本講義では人格（パーソナリティ）に関する研究を紹介し、さまざまな側面からの人格の理解について考えます。主たるトピックとしては、人格の意味、人格理論、人格の発達と形成、脳と人格、人格の測定と診断、健康な人格、などです。	隔年

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理療法論	世界には数多くの心理療法が存在しており、その数は300を超えていると言われています。心理療法には大きく分けて、「こころからからだへのアプローチ（成長モデル）」と「からだからこころへのアプローチ（医療モデル）」があります。近年その折衷的なアプローチも使われるようになっていきます。本講義では、主要な心理療法について概観します。また本講義の特徴として、折衷的なアプローチである「家族療法」と「システムズアプローチ」についてより詳細に事例を交えて解説を行います。	隔年
	認知行動療法論	認知行動療法とは、クライアントの不適応状態に関連する行動的、情緒的、認知的な問題を標的とし、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて、不適応な反応を軽減するとともに、適応的な反応を学習させていく治療法です。本講義では、認知行動療法について、その基本的な考え方と実際を学ぶものです。具体的には、自己モニタリングと行動活性化法、呼吸法と漸進的筋弛緩法、応用行動分析、段階的・持続的曝露法、認知的概念化、認知再構成法などについて講述します。	隔年
	犯罪心理学	犯罪は特殊な社会に暮らす特殊な人間が引き起こすものではありません。犯罪の原因を社会環境に求めようとも、あるいは人々のこころのあり方に求めようとも、それは通常の世界システムの中で、普通の人々のこころの延長線上で生起する事象です。本講義では犯罪の個体要因、社会的要因を順次解説し、次に罪種による犯罪者の特徴を眺め、さらには犯罪捜査の方法や矯正教育について述べます。これら一連の講義を通じて、犯罪が極めて特殊な事象であるという私たちの認識を改め、私たち自身の身近な問題として犯罪ならびに防犯対策を考えます。	隔年
	学校臨床心理学	学校という場において、臨床心理学をどのように生かしていくか、学校という空間が持つ独自性、さらには心理学という学問における学校臨床心理学の位置づけについて講述します。具体的なトピックとしては、教育相談・生徒指導との関連、不適応・問題行動、いじめ、暴力行為、怠学・非行、不登校、発達障がい、およびこれらに対する支援についてです。	隔年
	発達臨床心理学	乳児期から思春期の子どもの発達の様子と発達課題について概観し、子どもの心の健康を阻害する社会的環境（養育環境、保育環境、コミュニティ）、問題行動、発達障がいについて詳述します。さらに、子どもおよび家族への心理的支援の方法についても講述します。	隔年
	児童福祉論	児童虐待や親の監護・養育力不足、経済的貧困など子どもの発達成長を疎外する要因が顕著になり、子どもの保護や環境調整を必要とするケースが増えています。本講義では、乳幼児の諸問題（虐待、保育など）や児童の諸問題（いじめ、不登校、家庭内暴力、非行など）について事例を交えながら近年の動向を概説します。また、児童福祉の意義、児童相談所・児童福祉施設での心理療法士の役割について詳述します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 標準 科目 心理調査 領域	社会心理学	人間は社会的動物であると言われています。人間は社会のサポートなくして人間として育つことはできず、成長した後も数多くの社会的影響を受けます。本講義の目的は、こうした人間の社会性が、1) どのような形で人間の心に備わっており、2) いかにかに成立可能なのかを知ることにあります。授業のトピックは、対人認知、社会的推論、態度、感情、自己認知・評価、動機づけ、対人行動、人間関係、集団と個人、健康と幸福、文化と人間などです。	
	応用心理学	心理学の各分野における古典的研究および最新の研究に触れることを通じて、人の心と社会との関わりについて理解を深めることを目標とします。特に、基礎的な実験の結果が、現実直面するあらゆる社会問題とどのように関連するのかについて理解することを目指します。そして、それらの知識をもとに、心理学のユーザーとして、現代社会における諸問題の理解と解決に対し、心理学をどのように応用できるかを考えます。本講義のトピックは、消費行動、災害と防災、偏見と差別、紛争と葛藤解決、民主主義、法、政治とイデオロギー、マスコミ、異文化適応などです。	隔年
	集団力学	本講義では、社会心理学の中でも特にグループ・ダイナミクスと呼ばれる領域を中心に解説を行います。グループ・ダイナミクスとは、個人と社会の動的な影響過程のことであり、人間の社会行動とその集積によって生み出される社会的現象との有機的な関連を考察するものです。人間の心と社会との関係性をダイナミクスという観点から理解することを目指します。本講義では、特に、社会的動物としての人間が他者から影響を受ける過程（社会的影響）や主体的に物事を決定する（意思決定）メカニズムに焦点を当てます。	隔年
	組織心理学	本講義では、働き甲斐（内発的動機づけ、達成動機など）、職場環境（規範の生成、生産性など）、人間関係（対人葛藤、リーダーシップなど）、個人と組織（集団圧力など）に着目し、どのように心理学が応用されているのかを知ると同時に、それらに共通する心理的メカニズムを考えます。人がどのように他者、組織、企業と結びつき、時にしばられているのかを実証的な知見に基づき理解していきます。	
	心理統計法Ⅱ	心理学の実験・調査データの処理・検定・分析に必要な知識と手法を身につけることを目的とします。具体的には、Microsoft Excel、統計ソフトRを使用し、因子分析・重回帰分析を中心とした多変量解析、ノンパラメトリック検定を学習します。また、実際の論文の結果の見方や、論文と同じ分析を実践し、分析の手続きを学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 標準 科目 心理 科学 領域	学校教育心理学	学業、友人関係、適応、ストレス、問題行動などをトピックとして、講義とグループ学習・全体討論を組み合わせてすすめていきます。履修者は、グループ学習・全体討論の場で活発な意見交換をすることにより、講義で学んだ知識をより確かなものとします。これによって、教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら、教育現場での今日的課題について考え、「生きる力」を育む教育とはどのようなものかについて心理学的見地から考えます。	隔年
	実験社会心理学	実験社会心理学の成果を古典的なものから最新のものまで紹介し、実験という方法によって社会およびそれを構成している人間の特性を抽出しうること的理解することを目標とします。具体的には、同調行動、服従、印象形成、社会的手抜き、偏見などに関する実験研究について講述します。	隔年
	産業心理学	産業心理学は、組織と個人の関係を人間の具体的な行動や意識レベルでとらえ、実証的に検討する学問です。本講義では、仕事への動機づけや消費行動などの産業心理学におけるメイントピックに加えて、リーダーシップや組織における意思決定などについて学びます。	
	動機づけ・感情心理学	人間行動はさまざまな側面から理解・説明していくことができます。本講義では動機づけ・感情の側面からの理解・説明をおこないます。「動機づけ」「感情」ともに、きわめて日常的な用語・概念であり、きわめて安易に用いられています。行動説明としてはトートロジー（同語反復・言い換え）にすぎない場合が多いですが、それで「納得する」のもまた人間です。本講義では、科学的心理学の歴史の中で「動機づけ」「感情」がどのように「使用」されてきたかを説明し、「動機づけ」「感情」の科学研究を紹介していきます。特に「感情」研究は近年飛躍的に発展してきた領域であり、感情研究の実際を詳述していきます。	隔年
	学習心理学	私たちは日々さまざまなことを学びながら行動を変容させています。学習心理学とは、私たちが何をどのように学ぶのか、学んだ結果がどのように行動に反映されるのかについて研究する学問です。動物を用いた研究が主流ですが、そこで得られた知見は、臨床・教育・福祉といった他の心理学の分野にも大きく影響しています。本講義では、馴化、古典的条件づけ、道具的条件づけを中心に解説し、関連する諸領域の最近の研究についても言及します。	
	認知心理学	認知心理学という学問分野の特色は、人間の諸活動を情報処理という観点から捉えなおすところにあります。本講義では、人の様々な活動に通底する情報処理機構について「情報の統合」という過程に着目して検討します。授業では可能な限り多くの心理学的な現象を紹介し、実際に体験してもらいます。それに基づき、日常生活や授業における経験と認知心理学的理論（モデル）との異同を認識してもらい、両者の有機的な結びつけを促します。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発達心理学	本講義では、人の心の働きが年齢を重ねることや経験をつむことによってどのように変化するかについて概説します。発達を誕生から死までのプロセスとみなす生涯発達心理学の視点に立ち、胎児期から老年期までの発達の特徴を説明します。	隔年
	進化心理学	本講義では、人間行動を進化生物学の理論から説明する視点について解説を行います。ハードウェアとしての身体だけではなく、ソフトウェアとしての“心”や行動も自然的あるいは社会的環境への適応として考える進化・適応論的視点が近年急速に拡大しつつあります。こうした視点は、人間行動はすべて生後の経験(学習)によって説明できるとする旧来の(極端な)伝統的心理学の価値観と相反するため、多くの論争を生み出しています。一方で、進化論的視点は究極因から人間行動を説明する(おそらく唯一の)有力な仮説をいくつか提出しています。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのでしょうか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー(社会的性別)によって説明できるのでしょうか? これらの問いに一定の答えを与えるのが本講義の目的です。	隔年
	知覚心理学	私たちは日常生活の中で、特に意識することなく外界の情報を処理して知覚的世界を作り上げています。しかし、その知覚的世界は必ずしも物理的世界と同じではありません。本講義では視覚の複雑な働きを概説し、適宜、体験も通してその役割の理解を深めます。	
	生理心理学	現在までに得られている脳神経科学研究の成果を基に、刺激と脳と行動との関係について理解することを目標とします。刺激と行動の関係を考える行動科学の立場を明確にしながら、生体から測定される従属変数としての生理学的指標を、具体的な実験研究例を引用して紹介します。授業内容は刺激に対する自律系の反応を扱った研究紹介とそこから考えられる特性を講義します。さらにヒトと動物の脳波分析を中心に論文を紹介して、睡眠と覚醒および認知情報処理と事象関連電位等の分析について講義する予定です。	
	乳幼児心理学	本講義は主に乳幼児のこころの発達に焦点を当てるものです。講義の前半は、発達を説明する諸理論について具体例をあげて講義を進めます。講義の後半では、「両親の離婚は子どもの心にどのような影響を及ぼすか」、「家庭の経済力は子の学力に影響するのか」といった、子育てをめぐる素朴な疑問について実証的研究をもとに心理学的視点から考えます。	隔年
	心理言語学	人間の知的活動の一つとしての言語行動について、認知心理学および認知科学的観点から、可能な限り広範囲にわたって検討を加えます。特に、言語行動を支える脳と心的表象(mental representation)とを中心に据えて、言語の獲得と喪失、生得的要因と環境要因との関係などについて考察します。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目	心理学特殊実習	初回の全体説明に続いて、演習担当教員のうちの7名によるオムニバス形式の授業（担当者全員によるイントロダクション1回＋担当者1名あたり2回ずつ）とします。各担当者の専門領域の研究テーマ、研究方法等を、演習形式の授業でわかりやすく紹介するとともに、担当者ごとにレポートの提出を求めます。担当者毎の授業テーマ、資料、事前研究課題、作業資料、レポート課題等については、授業開始時に配布します。次年度以降のコース配属を決定する上で重要な授業であることを認識し、積極的に取りくむことが求められます。 （オムニバス方式／全15回） （1 今田 純雄・5 志和 資朗・9 増田 尚史・7 西野 泰代・3 河本 肇・4 黒田 美保・12 横田 晋大／1回） イントロダクション（授業の目的等の説明、各担当者による実習概要説明） （1 今田 純雄／2回） 動機づけ・感情心理学領域実習（心理尺度への回答、実験参加、データ分析、レポート作成） （5 志和 資朗／2回） 医療心理学領域実習（ストレス反応尺度の作成・回答、データ分析、レポート作成） （9 増田 尚史／2回） 認知心理学領域実習（認知実験参加、汎用実験ソフトウェアの解説、データ分析、レポート作成） （7 西野 泰代／2回） 教育心理学領域実習（心理尺度への回答、尺度の妥当性・信頼性の検討、データ分析、レポート作成） （3 河本 肇／2回） 学校臨床心理学領域実習（心理検査の実施、採点、結果の解釈、レポート作成） （4 黒田 美保／2回） 発達臨床心理学領域実習（心理検査の実施、採点、結果の解釈、レポート作成） （12 横田 晋大／2回） 社会心理学領域実習（実験参加、データ分析、レポート作成）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学実習Ⅲ	実験・調査・観察・検査に関する実習を、11の演習クラス（医療心理、学校臨床心理、発達臨床心理、心理査定、犯罪心理、社会心理、応用心理、教育心理、食行動科学、認知心理、発達心理）に準じたクラスごとに行います。実習を通じて、適切な研究計画・研究方法を立案し、結果を科学的に分析し考察できるようになるとともに、実験制御用ソフトウェア・統計分析用ソフトウェア・各種心理テストの使用方法についても習得します。 心理臨床コース（5クラス＝5 志和 資朗、8 古満伊里、3 河本 肇、4 黒田 美保、10 児玉 恵美）では、心理検査と心理面接を中心とし、合わせて公認心理師資格対応のため、医療、福祉、教育領域における見学・体験実習を行います。 心理調査コース（3クラス＝6 中西 大輔、7 西野泰代、12 横田 晋大）では、心理調査とそのデータ解析を中心とし、合わせて集団実験の実習を行います。 心理科学コース（3クラス＝1 今田 純雄、9 増田尚史、11 鈴木 亜由美）では、実験・観察とそのデータ解析を中心とし、合わせて実験制御用ソフトウェアや行動解析装置の実習を行います。	
	心理学実習Ⅳ	実験・調査・観察・検査の企画立案（先行研究・資料の収集・講読を含む）・具体的な方法の設定・結果の分析・考察という研究の全過程をグループごとに行い、論文（レポート）にまとめます。授業は、11の演習クラス（医療心理、学校臨床心理、発達臨床心理、心理査定、犯罪心理、社会心理、応用心理、教育心理、食行動科学、認知心理、発達心理）に準じたクラスごとに行います。 心理臨床コース（5クラス＝5 志和 資朗、8 古満伊里、3 河本 肇、4 黒田 美保、10 児玉 恵美）では、心理検査と心理面接を中心とし、合わせて公認心理師資格対応のため、医療、福祉、教育領域における見学・体験実習を行います。 心理調査コース（3クラス＝6 中西 大輔、7 西野泰代、12 横田 晋大）では、心理調査とそのデータ解析を中心とし、合わせて集団実験の実習を行います。 心理科学コース（3クラス＝1 今田 純雄、9 増田尚史、11 鈴木 亜由美）では、実験・観察とそのデータ解析を中心とし、合わせて実験制御用ソフトウェアや行動解析装置の実習を行います。	
	心理臨床・実践職能論	心理臨床家になるために必要な基礎知識や原則をまずは講義形式で修得できるようにします。次に心理臨床の実務領域（医療保健、教育、福祉、司法矯正、産業、私設心理相談、学生相談、被害者支援）について、調査研究の課題を与え、心理臨床の実務領域にはどのようなものがあり、現場で実際にどのような心理臨床業務・行為が行われているのか、そこで働く心理臨床家はどのような経験をしているのか等を学生に調べさせ、心理臨床の実務について関心をもたせます。	隔年

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理統計法Ⅲ	コンピュータならびに統計ソフトウェアの発達により、心理・健康科学の分野では、重回帰分析や因子分析に代表される多変量解析の利用率が増加しました。そこで本講義では、重回帰分析、パス解析、主成分分析と因子分析、ロジスティック回帰分析、多変量分散分析、判別分析、さらには林による数量化Ⅰ類からⅣ類までの各多変量解析手法について、その目的、仮定、論文における表記法、結果解釈上の注意点を順次取り上げます。その結果、多変量解析を使用した心理学・健康科学論文の正確な読解が可能となります。	隔年
	演習Ⅰ	11の演習クラスごとに、その特色を紹介した後に、各履修者の関心・興味のある研究テーマを明確化することを目標として、関連する資料・文献をレジュメに基づいて順次報告し、コメンテーターによる質疑・応答を経て全員で討議を行います。 心理臨床コースでは、医療心理学、犯罪心理学、学校臨床心理学、発達臨床心理学、精神分析学の領域に関する研究テーマを扱います。 (01クラス 5 志和 資朗) 医療心理学の立場から、脱感作療法等の行動療法の基礎となる研究を指導します。 (02クラス 8 古満 伊里) 犯罪心理学の立場から、精神生理学に関する基礎的な研究を指導します。 (03クラス 3 河本 肇) 学校臨床心理学の立場から、子どもの健やかな成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (04クラス 4 黒田 美保) 発達臨床心理学の立場から、障がいを持つ子どもの成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (05クラス 10 児玉 恵美) 精神分析学の立場から、精神病理の理解と心理査定に関する基礎的研究を指導します。 心理調査コースでは、社会心理学、教育心理学、応用心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (06クラス 6 中西 大輔) 社会心理学の立場から、集団と個人の相互作用に関する基礎的研究を指導します。 (07クラス 7 西野 泰代) 教育心理学の立場から、学校や教室という社会場面での子どもの行動に関する基礎的研究を指導します。 (08クラス 12 横田 晋大) 応用心理学の立場から、社会に応用しうる基礎的研究を指導します。 心理科学コースでは、食行動科学、認知心理学、発達心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (09クラス 1 今田 純雄) 食行動科学の観点から、人間の食行動を支える精神過程に関する基礎的研究を指導します。 (10クラス 9 増田 尚史) 認知心理学の観点から、人間の認知過程に関する基礎的研究を指導します。 (11クラス 11 鈴木 亜由美) 発達心理学の観点から、主に乳幼児の発達過程に関する基礎的研究を指導します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	演習Ⅱ	11の演習クラスごとに、各履修者の関心・興味を特定の研究テーマに絞り込み、適切な方法に基づく研究計画を作成することを目標として、関連する資料・文献、自分の研究テーマに関する目的・仮説などについて、PowerPointで作成したスライドに基づいて順次報告し、コメンテーターによる質疑・応答を経た後に全員で討議を行います。 心理臨床コースでは、医療心理学、犯罪心理学、学校臨床心理学、発達臨床心理学、精神分析学の領域に関する研究テーマを扱います。 (01クラス 5 志和 資朗) 医療心理学の立場から、脱感作療法等の行動療法の基礎となる研究を指導します。 (02クラス 8 古満 伊里) 犯罪心理学の立場から、精神生理学に関する基礎的な研究を指導します。 (03クラス 3 河本 肇) 学校臨床心理学の立場から、子どもの健やかな成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (04クラス 4 黒田 美保) 発達臨床心理学の立場から、障がいを持つ子どもの成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (05クラス 10 児玉 恵美) 精神分析学の立場から、精神病理の理解と心理査定に関する基礎的研究を指導します。 心理調査コースでは、社会心理学、教育心理学、応用心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (06クラス 6 中西 大輔) 社会心理学の立場から、集団と個人の相互作用に関する基礎的研究を指導します。 (07クラス 7 西野 泰代) 教育心理学の立場から、学校や教室という社会場面での子どもの行動に関する基礎的研究を指導します。 (08クラス 12 横田 晋大) 応用心理学の立場から、社会に応用しうる基礎的研究を指導します。 心理科学コースでは、食行動科学、認知心理学、発達心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (09クラス 1 今田 純雄) 食行動科学の観点から、人間の食行動を支える精神過程に関する基礎的研究を指導します。 (10クラス 9 増田 尚史) 認知心理学の観点から、人間の認知過程に関する基礎的研究を指導します。 (11クラス 11 鈴木 亜由美) 発達心理学の観点から、主に乳幼児の発達過程に関する基礎的研究を指導します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	演習Ⅲ	11の演習クラスごとに、各履修者の「卒業論文」の研究テーマに則した研究計画（研究目的・仮説・研究方法）を作成することを目標として、関連する資料・文献に加えて、自分の研究テーマに関する目的・仮説・方法、実施した実験・調査・観察・面接等の分析結果およびそれに対する考察について、レジュメもしくはPowerPointで作成したスライドに基づいて順次報告し、コメンテーターによる質疑・応答を経た後に全員で討議を行います。 心理臨床コースでは、医療心理学、犯罪心理学、学校臨床心理学、発達臨床心理学、精神分析学の領域に関する研究テーマを扱います。 (01クラス 5 志和 資朗) 医療心理学の立場から、脱感作療法等の行動療法の基礎となる研究を指導します。 (02クラス 8 古満 伊里) 犯罪心理学の立場から、精神生理学に関する基礎的な研究を指導します。 (03クラス 3 河本 肇) 学校臨床心理学の立場から、子どもの健やかな成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (04クラス 4 黒田 美保) 発達臨床心理学の立場から、障がいを持つ子どもの成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (05クラス 10 児玉 恵美) 精神分析学の立場から、精神病理の理解と心理査定に関する基礎的研究を指導します。 心理調査コースでは、社会心理学、教育心理学、応用心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (06クラス 6 中西 大輔) 社会心理学の立場から、集団と個人の相互作用に関する基礎的研究を指導します。 (07クラス 7 西野 泰代) 教育心理学の立場から、学校や教室という社会場面での子どもの行動に関する基礎的研究を指導します。 (08クラス 12 横田 晋大) 応用心理学の立場から、社会に応用しうる基礎的研究を指導します。 心理科学コースでは、食行動科学、認知心理学、発達心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (09クラス 1 今田 純雄) 食行動科学の観点から、人間の食行動を支える精神過程に関する基礎的研究を指導します。 (10クラス 9 増田 尚史) 認知心理学の観点から、人間の認知過程に関する基礎的研究を指導します。 (11クラス 11 鈴木 亜由美) 発達心理学の観点から、主に乳幼児の発達過程に関する基礎的研究を指導します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	演習Ⅳ	11の演習クラスごとに、各履修者の研究テーマに則した「卒業論文」の作成、及び「卒業論文」の最終試験兼発表会において適切なプレゼンテーションを行うことを目標として、実施した実験・調査・観察・面接等の概要（「卒業論文」の骨格）について、レジュメもしくはPowerPointで作成したスライドに基づいて順次報告し、コメンテーターによる質疑・応答を経た後に全員で討議を行います。 心理臨床コースでは、医療心理学、犯罪心理学、学校臨床心理学、発達臨床心理学、精神分析学の領域に関する研究テーマを扱います。 (01クラス 5 志和 資朗) 医療心理学の立場から、脱感作療法等の行動療法の基礎となる研究を指導します。 (02クラス 8 古満 伊里) 犯罪心理学の立場から、精神生理学に関する基礎的な研究を指導します。 (03クラス 3 河本 肇) 学校臨床心理学の立場から、子どもの健やかな成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (04クラス 4 黒田 美保) 発達臨床心理学の立場から、障がいを持つ子どもの成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (05クラス 10 児玉 恵美) 精神分析学の立場から、精神病理の理解と心理査定に関する基礎的研究を指導します。 心理調査コースでは、社会心理学、教育心理学、応用心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (06クラス 6 中西 大輔) 社会心理学の立場から、集団と個人の相互作用に関する基礎的研究を指導します。 (07クラス 7 西野 泰代) 教育心理学の立場から、学校や教室という社会場面での子どもの行動に関する基礎的研究を指導します。 (08クラス 12 横田 晋大) 応用心理学の立場から、社会に応用しうる基礎的研究を指導します。 心理科学コースでは、食行動科学、認知心理学、発達心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (09クラス 1 今田 純雄) 食行動科学の観点から、人間の食行動を支える精神過程に関する基礎的研究を指導します。 (10クラス 9 増田 尚史) 認知心理学の観点から、人間の認知過程に関する基礎的研究を指導します。 (11クラス 11 鈴木 亜由美) 発達心理学の観点から、主に乳幼児の発達過程に関する基礎的研究を指導します。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	卒業論文	研究倫理を遵守し、また『心理学研究 執筆と投稿の手引き』の形式に則した卒業論文を完成させることを目標として、演習クラスに準じたクラスの履修者ごとに個別に指導します。成績評価は、コースごとに実施される最終試験兼発表会を経て、コースの担当者の協議によって決定されます。 心理臨床コースでは、医療心理学、犯罪心理学、学校臨床心理学、発達臨床心理学、精神分析学の領域に関する研究テーマを扱います。 (01クラス 5 志和 資朗) 医療心理学の立場から、脱感作療法等の行動療法の基礎となる研究を指導します。 (02クラス 8 古満 伊里) 犯罪心理学の立場から、精神生理学に関する基礎的な研究を指導します。 (03クラス 3 河本 肇) 学校臨床心理学の立場から、子どもの健やかな成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (04クラス 4 黒田 美保) 発達臨床心理学の立場から、障がいを持つ子どもの成長を支援するための基礎的研究を指導します。 (05クラス 10 児玉 恵美) 精神分析学の立場から、精神病理の理解と心理査定に関する基礎的研究を指導します。 心理調査コースでは、社会心理学、教育心理学、応用心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (06クラス 6 中西 大輔) 社会心理学の立場から、集団と個人の相互作用に関する基礎的研究を指導します。 (07クラス 7 西野 泰代) 教育心理学の立場から、学校や教室という社会場面での子どもの行動に関する基礎的研究を指導します。 (08クラス 12 横田 晋大) 応用心理学の立場から、社会に応用しうる基礎的研究を指導します。 心理科学コースでは、食行動科学、認知心理学、発達心理学の領域に関する研究テーマを扱います。 (09クラス 1 今田 純雄) 食行動科学の観点から、人間の食行動を支える精神過程に関する基礎的研究を指導します。 (10クラス 9 増田 尚史) 認知心理学の観点から、人間の認知過程に関する基礎的研究を指導します。 (11クラス 11 鈴木 亜由美) 発達心理学の観点から、主に乳幼児の発達過程に関する基礎的研究を指導します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自 由 選 択 科 目	地誌Ⅰ	「世界地誌」はアネクメーネ（永続的居住困難地域）である南極大陸以外の、人間活動が大いに展開しているエクメーネの大陸別地誌について主に扱います。すなわち、(1)アフリカ、(2)アジア、(3)ヨーロッパ、(4)北ユーラシア、(5)北アメリカ、(6)南アメリカ、(7)オセアニアの順に、それぞれ、位置と自然（地形、気候等）、産業（農林水産業、鉱工業）、人口と集落（村落、都市）、（大陸内の）地域区分とその特性、日本との関係の5項目について基本的にみていきます。各大陸の主要観点は次の通りです。 (1)アフリカ…熱帯大陸、高原大陸としての特徴。貧困問題。 (2)アジア…数多くの大山系、モンスーンアジアと乾燥アジア。巨大人口の存在。 (3)ヨーロッパ…高緯度地域にあるが、稠密な人口密度と都市網。 (4)北ユーラシア…寒冷半乾燥地域が広大で人口希薄。豊富な地下資源。 (5)北アメリカ…高度に進展した農業、工業、都市化。 (6)南アメリカ…熱帯大陸。モノカルチャ（単一生産）問題。 (7)オセアニア…乾燥大陸。企業的穀作、牧畜と地下資源。	
	地誌Ⅱ	「日本地誌」は日本全体の特徴（自然環境と人文環境）について深くふれたのち、7つの地方ブロック毎、すなわち九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の順に、それぞれの地域的特色について扱っていきます。この場合、各地方別地誌の基本的項目は、位置と歴史的背景、自然的基礎、人口、村落と都市、第1次産業、第2次産業、交通・観光、（地方ブロック内部の）地域性と地域区分、の各項目です。 以下、それぞれの地方別地誌についての主要な視点・留意点について列挙しておきます。 (1)九州…（九州本島の）北高南低、西高東低型の人口・工業・都市の分布。亜熱帯気候の沖縄の特色。 (2)中国・四国…近畿と九州の回廊的性格。瀬戸内、山陰と南四国。 (3)近畿…西日本の中核的地域。大阪大都市圏。 (4)中部…日本アルプス。日本海側、内陸部、太平洋側。関東と近畿の中間にある位置的有利性。 (5)関東…日本の中心。東京大都市圏。 (6)東北…日本海側と太平洋側の違い。米の単作地帯。 (7)北海道…日本の高緯度地域。冷涼な気候と広大な人口密度希薄地域。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法律学概論	法律学といってもさまざまな法律があります。憲法、民法、刑法といった知名度の高い法律や法分野もあれば、行政法、会社法、労働法といった身近ではありますがなじみの薄い法律や法分野もあります。また、法律学と隣接領域（歴史学、社会学、思想史など）と結びついた分野や、一国の領域を超えた国際的な法現象を扱う分野もあります。こうしたさまざまな法律や法分野の姿をできるだけ簡明にその特徴を浮き彫りにできるように講義していきます。 (オムニバス方式／全15回) (64 矢野 達雄／3回) 法学基礎を内容とし、法学入門、裁判規範と法、法体系、法の継受、法の分類、法解釈学などを講じる。 (34 鈴木 正彦／4回) 民事法分野を内容とし、民法の基本、契約、当事者、法律行為、商法、会社法などを講じる。 (68 山崎 俊恵／3回) 刑事法分野を内容とし、刑法の基礎、犯罪と刑罰、刑事手続き、裁判員制度などを講じる。 (60 村上 博／5回) 行政法分野を内容とし、法治主義、行政作用、行政事件訴訟、行政組織、公務員、地方自治などを講じる。	オムニバス方式
	政治学概論	本講義は、「政治学」の要点について学ぶことを目的とします。政治学はよりよき政治とは何かを探究し、政治の根源的な問いについて検討する「政治哲学」と、政治現象の因果的説明に関心を持つ「政治科学」に大きく二分されます。「政治学概論」ではそれぞれに重要なトピックを取り上げ、政治学の輪郭を把握してもらうことを目指します。本講義は2つの柱を設けて進めていきます。 ①政治哲学の重要なトピックを知る（第2回―第6回） 「政治哲学」の領域において重要なトピックが何かを知り、それに関する知識を身につけてもらうことを目指します。 ②政治制度とアクターのあらましを知る（第7回―第14回） 「政治科学」の領域において重要な政治制度とアクターについて概要を理解することを目指します。	
	教育政策論	政治的意思としての教育政策は、行政施策として展開され具体化されます。この視点から、教育に関する事象を理解するための基礎となる知識を整理します。 近年の教育改革は広範多岐にわたり、しかも急激な変化をもたらすものがあり、公教育が大きく変貌しています。これら改革の狙いや性質を分析する視点を築く手がかりを得ることをもめざします。	
	国際法	国際法の基本構造を検討しながら現代の国際社会において国際法がどのように機能しているのか、最近の具体的事例にも言及しながら講義します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際政治学Ⅰ	本講義の国際政治学は、国際社会を理解しようとする知的営為の蓄積を修得し、それを土台に世界に自らの意見を発信する力を身につけることを課題としています。つまり国際政治学理論を基礎に、創造性と想像力を発揮して自分なりの意見を作り上げ、それを的確に世界の人々に伝える力が大事となります。そのための学びの一つとして、ここでは具体的な問いとそれに関連する理論に焦点をあて、国際政治学の専門的知識を修得して行きます。	
	国際政治学Ⅱ	国際社会の秩序とダイナミズムを考察します。国際社会の秩序は細谷雄一著『国際秩序』（中公新書）に基づいて、またそのダイナミズムは三上貴教編『映画で学ぶ国際関係Ⅱ』（法律文化社）に基づいて検討していきます。毎回、テキストの重要項目を理解し、キーワードを確認します。これらは知識として身につけます。加えて、テキストに関連した問いについて受講生自らが考えます。これにより創造力と国際政治をみる鋭い眼を涵養します。	
	現代社会学	社会学とは、「現代」を捉えようとする学問です。「現代」とは、過去と未来の間に生起する時間概念であり、歴史を振り返り、未来の方向性へと目を向ける視点から、「今」を考察してすることによって、はじめて認識が可能となります。現代社会学は、現代社会に生起する社会現象を捉えようとする新しい社会学理論・方法の総称です。本講義では、現代社会学の基礎的な理論と方法とを習得することを目指します。	
	現代経済入門Ⅰ	テキストブック（理論）と世の中の動き（現実）との結びつきを重視しながら、経済学の基礎を学びます。テキストを解説する講義形式で授業を進めます。	
	現代経済入門Ⅱ	テキストブック（理論）と世の中の動き（現実）との結びつきを重視しながら、経済学の基礎を学びます。テキストを解説する講義形式で授業を進めます。	
	生涯学習論Ⅰ	本講義では、次の2つの柱を設定しています。1つ目の支柱は、生涯学習の学習論と学習論の実践への応用可能性について模索することです。生涯学習研究において学習論は必須研究課題だと認識されつつも、政策や実践を後追いする形で紹介・研究されてきた感が否めません。本講義では、政策を裏付ける学習論のみならず、政策提言あるいは普遍理論の性格を持つ学習論についても論及したいです。2つ目に支柱は、学習論の観点から日本の生涯学習政策や実践を捉え直すことにおきます。政策ならびに実践の到達点を明らかにしたのち、学習論の観点から今後の日本の進むべき方向を模索します。なお、社会教育主事課程や学芸員課程等に必修の科目であるため、これらの資格を意識した授業内容も盛り込みます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯学習論Ⅱ	本授業は、生涯学習の実践的展開に目を向けます。主になる柱は次の2点です。受講生と共に考えていきます。 (1) 現在、生涯学習を展開・支援する機会にはどのようなものがあるか。 (2) これから、生涯学習はどこに向かおうとしているのか。	
	社会教育計画Ⅰ	本授業では、社会教育計画の基礎理論や構造を学んだ後、いくつかの自治体の社会教育計画ないしは生涯学習推進計画を取りあげて分析・考察を加えます。その後、特定の自治体の社会教育計画をベースとして、自分たちで独自の社会教育計画案をデザインします。本授業を通じて、社会教育計画の基本的な考え方と自治体計画としての意味を理解することを目指します。	
	社会教育計画Ⅱ	本授業では、社会教育計画についての理解を深めた後、社会教育計画に基づく年間事業計画や個別事業計画の策定の理念と手法を、実践的に学びます。	
	哲学概論Ⅰ	岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書、2003年）を精読することで、西洋哲学の大きな流れを学びます。 学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを読みこんでくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	
	哲学概論Ⅱ	私たちが日常生活においてしがっている「常識」は、思考や判断のための「出発点」です。しかし「哲学者」と呼ばれる人たちは、常識を出発点とみなすことに満足せず、常識自体を思考や判断の対象としました。これはある意味で「非常識」な営為ですし、常識的な言葉づかいでは遂行しにくい企てでもあります。哲学者の著作が理解しにくいのは、そのためです。この講義では、以上をふまえたうえで、哲学においてどういうことが考えられてきたかをできるだけ噛み砕いて紹介していきます。	
	倫理学概論Ⅰ	西洋倫理学の基本的事項について見ます。西洋の倫理学説は、大きく見て、「義務倫理学」の立場か「価値倫理学」の立場をとります。両者の相違についてまず見、それに当てはめながら代表的な倫理学説について検討します。	
	倫理学概論Ⅱ	私たちは日常生活を営む中で、様々な困難に直面します。そのとき私たちは生きていく上で考えずにはいられない「問い」と出会います。この授業では、日常生活の身近な問題を取り上げ、その「問い」について倫理学の代表的な考え方をもとに学生と一緒に考えます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格課程に関する科目	教職入門(中等)	本講義では、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する学習を通して、自分が本当に教師という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうかを考える機会を提供します。自分の描いてきた教師像、子ども像、学校という場を現実のそれらと比較して、これからの教育に関する研究の視点を再構築します。	
	教育心理学(中等)	中学・高校の教員免許状を取得しようとする学生に対する必修授業科目です。中等教育学校現場で有用な実践力の基礎を学びます。「教育心理学Ⅱ」では、講義とグループ学習・全体討論を組み合わせてすすめていきます。履修者は、グループ学習・全体討論の場で活発な意見交換をすることにより、講義で学んだ知識をより確かなものとし、さらに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力を養うことを目指します。 1. 教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら、中等教育学校現場での今日的課題について考えます。 2. 中等教育学校現場で求められる「実践力」とは何かについて心理学的見地から考えます。 3. 「生きる力」を育む教育とはどのようなものかについて心理学的見地から考えます。	
	教育原理(中等)	この科目は、教職課程の教職に関する科目(必修)であり、教育学科の基礎講義科目のひとつです。教育問題が話題に上らない日はありません。しかし、それらはともすればセンセーショナルに語られ、一過性のことがらとして忘れられ、また新たな教育問題がとりあげられているということが繰り返されています。 この授業では、①そうした一時的な関心から踏みこむこと、そして、②傍観者としてではなく当事者として関わるための意識をどうやって育むかについて、教育学の基礎的な知見と対照させながら講義を進めていきます。	
	教育制度論(中等)	現代の公教育を支える法的構造に基づいて教育制度を理解した上で今日の制度改革を検証します。また、学校での教育課程編成のあり方を、学習指導要領に示された国の基準や教育委員会の示す地方の基準を踏まえながら明らかにし、その今日的な課題を新学習指導要領の研究を通して把握します。	
	中等社会科教育法A	中学・高校時代の経験から、社会科、特に地理・歴史分野については、暗記するだけの教科とのイメージが強いでしょう。しかし、社会科とは、本当にそういう教科でしょうか。 そこでまず、そもそも社会科とは何か、なぜ学校で社会科が教えられるのか、という根本的な部分から社会科について考えてみたいと思います。そして次に、地理・歴史分野について、社会科の授業をつくりあげていくためのいろいろな考え方を学んで、各自なりの「社会科観」を育てるようにします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会科・地理歴史科 教育法A	これまで行われてきた社会科の枠組みにおいて高校地理歴史科も行われるべきだという基本認識に立って、高校地理教育、日本史教育、世界史教育の目的、カリキュラム、授業構成の講義を通して、地理歴史科教師に必要な教授能力を育成します。 そのために、教育原理や授業原理にもとづいて地理教育、歴史教育の目標、カリキュラムに関する類型化を施すとともに、その類型化にしたがって実際の地理授業や歴史授業を視聴したり指導案を分析したり作成したりします。	
	社会科・公民科教育 法A	本講義は中学校社会科教員免許状を取得しようとする学生に対する選択授業科目です。公民分野に必要な教授能力を育成するために、教材研究、授業分析及び授業構成に関する個々の研究・指導力を培います。 とりわけ、教授実践に重点化するために、特定単元の教材研究、授業分析、授業構成を各人が追求し、よりよい公民授業を創造することをめざします。 この目的のために、公民科を社会科的教科と捉え、公民科の目標、カリキュラム、教材研究、教科書研究、授業分析について講義し、公民授業についての見方を提示します。それとともに、公民授業を演習形式で各自作成します。	
	中等社会科教育法演 習A	授業づくりを学びます。実際に学校で授業を行う際に必要となる教材研究、学習指導案作成、発問・板書の方法、などの教育技術を身に付けます。そして、自分で作成した学習指導案をもとに、実際に交代で模擬授業を行い、よりよいものに修正していきます。	
	中等道德教育論	道德とはいったい何なのでしょう。そもそも、道德を教えるなどということは可能なのでしょうか。こうした問いへの答を、倫理学、心理学、社会学、教育学などの知見に沿いながら、道德教育についてのさまざまな考え方、教育現場において生起する諸問題、あるいは道德教育の歴史といった諸側面からアプローチし、考えていきます。	
	中等特別活動論	特別活動は、教育課程に規定された教育活動であり、授業時間割に位置づけて指導する必須の科目です。と同時に、学校教育の中で児童生徒の全人格的で健全な成長発達をすすめていく上で、意図的計画的な学校年間計画（学年年間計画・学級年間計画）をもって活動を組織運営していく体験的実践的教育活動です。 また、特別活動は、主要教科と呼ばれる学力よりも軽視されがちな傾向がありますが、今日的な児童生徒の課題実態や未来を創造する生きる力の育成を考える時、それらの解決・改善と同時に向上・充実を図る教育的な役割は大きいものと考えます。 こうしたことから、特別活動の特質たる目標・内容・方法などについて、理論と実践化の両面から理解が図られるようにしたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中等教育方法論	中・高の教員を目指す学生の必修授業科目です。教育方法の実践と思想に学びながら、「教えること」と「学ぶこと」についての知見を深めます。さらに、授業構成の理論、教育メディアの活用、学習集団づくり、学習形態の転換、評価活動の展開、指導案の作成等に関わる教師の実践的力量的基礎が習得できるよう、具体例に言及しながら、教育的タクトの観点から展開します。	
	中等生徒・進路指導論	「生徒指導」は、学習指導と並び立つ全生徒を対象にした教育活動で、学習指導要領に示されている「生徒指導の意義」をふまえて実施される学校教育において重要な教育機能の一つです。生徒の人格形成を促す上で大きな役割を担っている「生徒指導」の理論と実際について、基本的な知識理解が図れるようにします。 また、生徒・進路指導に関する今日的な課題に関心と将来の展望をもって、教育専門職として生徒指導に求められる資質や能力に資する意欲や態度を培うことができるようにしたいと思います。	
	中等教育相談	中・高の教員を目指す者に必要な教育相談全般についての知識と基礎的能力の育成を目指して講義を中心にしていきます。 大きな柱としては、 ①学校における教育相談の意義 ②教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と技法の習得 ③教育相談の遭遇する諸問題と連携 以上3つの柱を軸として、基礎的な知識とそれを踏まえた教育相談的な関わりのセンスを習得することを目指します。	
	中等教育実習事前事後指導	中等教育実習Ⅰ・Ⅱへの参加に際して、まずその実習の意義を前もって理解しておく必要があります。そのため、随時の事前指導を行います。なお、その一環として、3年次に協力校における観察実習指導を行います。（詳細については、中等社会科教育法Ⅰ・Ⅱの授業時に指示します。） また、実習後には、その体験によって得られたものを再確認することにより、免許状取得に向けて、教員として求められる諸能力の定着をはかることをめざして、事後指導を行います。 (オムニバス方式／全7回) (83 西森 章子／2回) ＜事前指導＞ ・協力校における観察実習指導 ・教育実習に際しての心構え (29 笹尾 省二／5回) ＜事前指導＞ ・教職員の職務 ・教材研究の方法 ・学習指導案の作成法 ＜事後指導＞ ・授業に関する体験の共有 ・教員の仕事に関する体験の共有	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中等教育実習Ⅰ	中学校教員を目指す者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。 現在の中学校、高等学校教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から実体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。 具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験します。	
	中等教育実習Ⅱ	中学校、高等学校教員を目指す者に対して、必要となる知識と技術を中心に実習を行います。 現在の中学校、高等学校教員には、まず教科の授業を担当する能力が求められるのはもちろんですが、それにとどまらず、生徒指導や学校の管理・運営など、多方面にわたる職務を担当する能力が必要とされます。教育実習は、教員免許状取得のための課程の最終段階として、学校の教育活動を教員の立場から実体験することにより、そういった能力の獲得をめざすものです。 具体的には、実習校において、生徒の学校生活、指導教諭による授業実践や生活指導その他の諸活動、さらには、学校管理・運営等について観察を行い、それらの実態・意味などについての理解を進めます。また、指導教諭のもと、教材準備、学級運営、生徒指導等の補助にあたり、実際に体験し、その後、これらの体験で得られた理解をもとに、実際の授業実践を行います。	
	教職実践演習 (中・高)	この科目の履修を通じて、将来教員として務めるために、自己にとって何が課題であるのかという自覚のうえに、必要とされる知識や技能を補うことを可能とする学習能力を獲得させることをめざします。そのため、少人数クラスによる演習形式で、具体的な事例研究にもとづくグループ討論やロールプレイング、実地見学、各教科内容の模擬授業の実施など、実践的な学習を行わせます。また、そのような集団的な活動とは別に、必要に応じて、履修カルテにもとづく個別指導を行います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部心理学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	差別問題論	《社会問題としての差別》は、いつか・どこかにあるものではありません。それは、私たちをとりまく具体的な日常の関係性・常識などの中に見ることができるのです。差別問題は社会的なことがらであるにもかかわらず、「傷つく」などといった、個人的な「心（心がけ）」の問題として語られることの方が多く、さらには、非日常的な、私たちから遠いものとして処理されています。ところが、こういったとらえ方自体に差別問題を考えていく際のポイントがあるのです。まずは、「差別とは何か？」から考えはじめることが求められます。 本講義では、部落差別、性差別、障害者差別、民族差別等々の構造を社会科学的に明らかにすることで、上に述べたことを検証していきます。 なお、講義の各時間終了後に感想・意見・質問をコミュニケーションカードに書いてもらい、それに対して次の時間に応えます。また受講生同士の紙上討論を展開していく、といったコミュニケーションシステムをとります。	
	人権教育論	本講義は、差別問題・人権問題が私たちの日常生活と密接に関連しているという事実に基づき、これらの問題に対して教育には何が可能で、何をなすべきかを具体的な状況設定を行いながら検討していきます。その時、「仏つくって魂入れず」といった単なるハウツーではなく、自分はいったい何を伝えたいのか、という問いから出発（もちろん、その問いは大庭自身も免れうるものではありません）することによって、グローバルスタンダードにも通用する差別問題学習＝人権教育をめざします。そのためには、部落差別問題をはじめ様々な差別問題に対する歴史的なまなざし、社会科学的なまなざしとともに、表現力も身につけていかねばなりません。その意味においても、講義の各時間に出席確認を兼ねた感想・意見・質問をコミュニケーション・カードに記載し、それらに対して次の時間に応えるというコミュニケーション・システムをとります。	
	資格課程関連授業科目	憲法 I 日本国憲法が採用する統治システムの歴史的・思想的背景を明らかにしていきます。まず、憲法の歴史的発展過程を概観し、権力分立制や人権保障の観点から近代立憲主義と現代立憲主義の相違について明らかにします。 次に、憲法を単なる政治的規範としてではなく、裁判規範として具体的事件に解釈・適用する上で不可欠な制度として、司法審査制（裁判所が法律等の合憲性を最終的に審査する制度）について、それが生まれたアメリカでの歴史的発展過程を概観し、その民主的正当性をめぐる問題を検討します。 その上で、日本国憲法における司法審査制の概要を説明し、裁判所が法律等の合憲性を審査する方法ならびに基準について、具体的な事例を取り上げます。さらに、最高裁判所が法律等を違憲とした重要な判例を順次紹介し、最近の注目すべき下級裁判所による違憲判決についても取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康科学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容		備考
	憲法Ⅱ	人権保障のために憲法をいかに解釈すべきかについて考えていきます。まず、憲法の歴史的発展過程を概観し、権力分立制や人権保障の観点から近代立憲主義と現代立憲主義の相違について明らかにします。 次に、憲法を単なる政治的規範としてではなく、裁判規範として具体的事件に解釈・適用する上で不可欠な制度として、司法審査制（裁判所が法律等の合憲性を最終的に審査する制度）について、それが生まれたアメリカでの歴史的発展過程を概観し、その民主的正当性をめぐる問題を検討します。 その上で、日本国憲法における司法審査制の概要を説明し、裁判所が法律等の合憲性を審査する方法ならびに基準について、具体的な事例を取り上げます。さらに、最高裁判所が法律等を違憲とした重要な判例を順次紹介し、最近の注目すべき下級裁判所による違憲判決についても取り上げます。		
	社会教育実習	社会教育主事として地域社会教育施設の運営や事業の策定を行うことができるように、それらにかかる基本的な考え方と技能を、実践から修得するために本授業があります。 実習を通じて、座学で学んだ生涯学習・社会教育の理論と地域社会教育の実践とを切り結ぶ視点を自分なりに見出すことを目的とします。		実験・実習 10.5時間 講義 12時間

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
修 道 ス タ ン ダ ー ド 科 目	全 学 共 通 科 目	修大基礎講座 1年次生が大学での学びや大学生活に円滑に移行するために、大学生としての態度や素養を身につけ、大学の学びに必要な学習スキルを習得することを目的とします。さらに、管理栄養士を目指す学生のための導入教育を行います。この授業科目は、健康栄養学科教員と部局によって担当され、学部・学科単位の講義形式で行われます。 (オムニバス方式／全15回) (3 酒元 誠治／3回) 管理栄養士の業務内容・活躍の場、食生活の変化と管理栄養士の役割、部局担当のコーディネート、総括 (1 岡本 洋子／3回) 実習室の利用の仕方と身だしなみ、調理の基礎知識、衛生管理、食事の役割 (11 山内 有信／3回) 実験における心構え、実験室の利用の仕方、実験の基礎知識、レポートの書き方、栄養の基礎知識 (部局：学習支援センター／1回) 基本のノートテイキング・スキル（ノートを取る目的、効率的なノートの取り方） (部局担当：学生センター／1回) ＜わたし＞と＜あなた＞を大切にする学生生活のために（学生生活とストレス、自他を尊重するコミュニケーション） (部局：図書館／1回) 図書館の活用法（大学図書館の活用） (部局：キャリアセンター／2回) 自己発見と自律へのアプローチ（自己発見レポートをツールとして自分の強みと弱みを理解し、これからの大学生活について考える） (部局：総合企画課・ひろしま未来協創センター／1回) 地域に立脚した修大の歩みと将来像（広島修道大学を知る）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初年次セミナー	本授業では、主専攻科目の専門基礎分野・専門分野への接続を図ることを目的とします。身近な食品を用いた食品学や栄養学に関する実験的演習を通じて、食と栄養の基礎知識とスキルを習得します。また、栄養情報処理やアセスメントにおいて不可欠となる統計処理の基礎についても学びます。 (オムニバス方式／全15回) (3 酒元 誠治・11 山内 有信／1回) オリエンテーションとして、今後の授業の進め方（クラスを2分割し、7回の授業でローテーションして実施する等）や諸注意の他、担当者の授業の概要と意義について説明を行います。 (3 酒元 誠治／7回) 統計処理の理論について講義を行うとともに、コンピュータを用いた栄養情報処理や統計解析の基礎演習を行います。 (11 山内 有信／7回) 身近な食品素材を用いて、食品の基礎知識を習得するとともに、食育活動を視野に入れた食品学や栄養学に関する実験的演習を行って基礎技能を身につけます。	オムニバス方式
	情報処理入門Ⅰ	文書作成や表計算ソフトウェアの操作については、現実的な例題、問題の精選により最適な課題設定を行い、授業時間外学習も活用して基本技能の定着をめざします。情報モラルや著作権、セキュリティなど情報社会の課題、情報通信技術のしくみなど情報科学の基本的事項について可能な限り広範な領域を取り扱い、これらの学習内容をソフトウェア技能の習得と関連付けて、科目全体の一体化をはかります。入学後の早い段階で短期間のうちに修得し、大学における学習基盤として活用できることをめざします。	
	情報処理入門Ⅱ (情報と表現)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。文書作成や画像編集を通じたコンテンツ制作を行い価値創出のプロセスを学びます。	
	情報処理入門Ⅱ (情報と分析)	「情報処理入門Ⅰ」で学習した内容を応用・発展させる科目として位置づけます。データ分析とモデル構築を行い、問題解決の枠組みを学習します。	
	大学生活とキャリア 形成	講義（キャリア理論、労働基準法等）の他、フィールドワーク、ペア・ワーク、チームビルディングアクティビティ等、複数のワークを通して自律的キャリア形成力を獲得し、大学生活をマネジメントできるようになります。また、学士課程教育の目標であるディプロマ・ポリシー（思考・行動・態度）、社会人基礎力及びジェネリックスキルを涵養していきます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域イノベーション論	地域課題を自ら発見し、着想し、創造性を発揮するイノベーション人材を育成、ひいては広島地域で、イノベーションを起こす素地づくりを目指します。 真摯に言葉を聴く力、対話する力、気づく力、かけあわせを進める力を醸成し、社会のロールモデルを生み出す協創的な精神を培います。そのために、課題発見やイノベーション、アイディアブラニングの演習を、初学者にも向く初歩的なプログラムで重ねながら、まだ見ぬものに立ち向かい、まだ見ぬ解決方法を編み出せる知恵の取得を対話によって導きます。	
	地域コミュニケーション論	地域コミュニケーション論は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。コミュニケーション力とデザイン力に着目して、地域イノベーションを実現できる立案力やバランス感覚を育みます。 観察と情報整理をもとに、地域の人との会話や現地訪問で感じたことを発言やデザインにつなげていき、地域の未来を構想します。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（都心のコミュニケーション）	ひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。 特に前期の「都心のコミュニケーション」においては、都心固有の地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について学習し、かつ、地域実習においては（広島市西区西広島駅周辺を予定）、具体的なデザインや企画実施を通して、課題発見・価値創造のためのデザイン力とコミュニケーション力を修得できます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（中山間地域のコミュニケーション）	新しく開講するひろしま未来協創プロジェクトは、広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するPBL型の授業です。特に前期の「中山間地域のコミュニケーション」においては、中山間地域固有の地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について演習し、かつ、地域実習においては（廿日市市を予定）、具体的なデザインや企画実施を通して、課題発見・価値創造のためのコミュニケーション力を修得できます。地域イノベーションコースの目指す「地域イノベーション人材」としての行動の基礎を身につける授業です。	
	ひろしま未来協創プロジェクト（都心のイノベーション）	PBL型授業のひろしま未来協創プロジェクトの前期における「都心のコミュニケーション」の成果を引き継ぐかたちで、この後期の「都心のイノベーション」においては、浮かび上がってきた地域課題・地域資源のコミュニケーションプランを一步推し進め、イノベーションと呼べるような具体的なアクションのデザイン力・実施力を地域にもたらすプロジェクト推進能力の修得を目論みます。地域実習（広島市西区を予定）が重要ですが、前期「都心のコミュニケーション」を履修済みであるかどうかは問いません。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ひろしま未来協創プロジェクト（中山間地域のイノベーション）	ひろしま未来協創プロジェクトの前期における「中山間地域のコミュニケーション」の成果をもとに、引き続きPBL型授業として、演習と地域実習を重ねながら、当該地域（廿日市市を予定）における、地域コミュニケーションの改革・変革を模索し、かつ、「中山間地域のイノベーション」としての地域活動の行動化を促進するコーディネート能力の修得を目論みます。前期「中山間地域のコミュニケーション」を履修済みであるかどうかは問いません。	
	ひろしま未来協創特講（ファシリテーション入門）	急速に注目されている「ファシリテーション」について、その概念を学び、初学者に役立つ入門スキルを習得します。それは、人と人をつなぎ、すべての発言を許容しながら、かけあわせ、集団の知的相互作用を促進する技術。技術であり、状態であり態度である「ファシリテーション」を、難しい知識抜きで、楽しいワークショップの中で、体験的に体得します。広島において未来を協創する基幹スキルと位置づけています。	
	ひろしま未来協創特講（ワークショップ・スキル入門）	地域課題を発見する、課題について関係者が話しあう、さまざまな場面で「対話ワークショップ」形式の導入が盛んです。「ひろしま未来特講」では、地域イノベーションのためのワークショップについて、初学者がはじめてそれにふれ、その楽しさを知るとともに、地域での開催を想定した主催者スキルの習得を目指します。	
	ひろしま未来協創特講（発見・デザイン・中山間）	ひろしま未来協創特講は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。 この講義では、特定地域を取り上げ、実際に固有の問題・魅力に対峙し、適切にデザインを提案することで、技術や思想を育みます。今期は「中山間地域(廿日市市 玖島・浅原)」をエリアを取り上げ、デザインワークをすすめます。	
	ひろしま未来協創特講（発見・デザイン・都心）	ひろしま未来協創特講は、持続可能なコミュニティの発展に寄与できる人材ならびに地域課題から新しい価値の創造ができる人材の育成を図る「地域イノベーション教育」のひとつです。 この講義では、特定地域を取り上げ、実際に固有の問題・利点に対峙し、適切にデザインを提案することで、技術や思想を育みます。 今期は「都心(西広島駅周辺・横川等)」のエリアを取り上げ、デザインワークをすすめます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	講義の柱は二つです。 一つは、広島市が世界の大学に設置をすすめる「広島・長崎講座（被爆都市広島、長崎の事実を後世にいか伝えていくか）」の中味、いま一つは、「今・ここ」の広島を学ぶことです。広島修道大学が広島市に位置する以上、「ここで、今」学ぶことの意味を学生に体感させることです。 広島修道大学に来る留学生が増えてきている今、また、広島修道大学から海外に出て行く学生が増えている今、世界の国々に、「今・ここ」の広島を伝える中味・その伝え方を模索します。 (オムニバス方式／全15回) (165 森島 吉美／10回) 「広島学」概要説明 「広島学－前半の平和問題の概要」 「平和問題とジャーナリズムのあり方」 「戦争と広島」－現地学習のための事前授業 現地学習Ⅰ（広島平和記念資料館） 現地学習Ⅱ（江田島海上自衛隊術科学学校見学） 現地学習Ⅳ（上田宗箇流茶道体験） 福島原発事故のその後 講義のまとめとレポート課題提起 (139 田城 明・165 森島 吉美／1回) 「広島・長崎講座とは？」 (128 斉藤 とも子・165 森島 吉美／1回) 原爆小頭症患者の出会いと生きることの意味 (13 腮尾 尚子・165 森島 吉美／3回) 宮島と町家通り、現地学習Ⅲ（宮島）	オムニバス方式
グ ロー バル 科目	留 学 生 教 育 科 目	日本語Ⅰ	語彙と表現 文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。仮名、漢字の成り立ちや表記、語構成、語彙の体系などの基礎について学びながら、実際の使用例に触れます。	
		日本語Ⅱ	語彙と表現 文字、語彙、表現を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めるための訓練を行います。仮名、漢字の成り立ちや表記、語構成、語彙の体系などの基礎をふまえ、日常生活に見られる使用例について分析や調査を行います。	
		日本語Ⅲ	文法 文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際の場面での使用へと発展させます。前期は、各レベルにおいて習得すべき文法項目の約半分を扱います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語Ⅳ	文法 文法を体系的に学ぶとともに、その運用能力を高めることを目的とします。タスク練習を通して、学習した文法項目を実際の場面での使用へと発展させます。後期は、各レベルにおいて習得すべき文法項目の残りの半分を扱います。	
	日本語Ⅴ	読解と作文 文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅵ	読解と作文 文字による情報受信・発信能力の向上を目的とします。読解および作文スキルの習得とともに、読解（多読と精読）によるインプット活動から作文などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためのプロジェクト（ポスター発表など）に取り組みます。	
	日本語Ⅶ	聴解と会話 音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話スキルの習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげることで実際のコミュニケーション場面での運用能力を高めます。	
	日本語Ⅷ	聴解と会話 音声による情報受信・発信能力の向上を目的とします。聴解および会話技能の習得とともに、聴解（多聴と精聴）によるインプット活動から会話などのアウトプット活動へとつなげます。さらに、習得した技能を総合的に運用する能力を高めるためのプロジェクト（スピーチ、プレゼンテーション）にも取り組みます。	
	アカデミック日本語	大学における専門的な学びに必要とされる「資料を読む、講義を聴く、レポート・論文を書く、ディスカッション・プレゼンテーションをする」などのスタディ・スキルの習得を目指すとともに、さまざまな課題に取り組むことで実践的運用能力を高めることをねらいとします。日本語能力試験N1レベル以上を対象とします。	
	ビジネス日本語	日本国内での就労において求められる上級レベルの日本語運用能力の習得とビジネスマナー、ビジネス文書作成、職場での会話表現などの技能を身につけることを目的とします。また、地元企業におけるインターンシップ体験を組み合わせ実践力を強化します。日本語能力試験N1レベル以上を対象とします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本研究	「日本」を知るための入門講座で、文化、政治経済、社会などのテーマに関する知識・経験を深めることを目的とします。講義に加えて、プロジェクト・ワークを取り入れることで、自ら情報収集・考察・発表する力を養成します。	
留学 支 援 教 育 科 目	留学スタートアップ	社会、経済、文化の急速なグローバル化の進展や多文化共生が進む現代の社会状況を踏まえつつ、留学・海外体験の目的や意義について考えます。また、留学体験の効果を高めるために必要な、言語修得、国際理解、異文化間コミュニケーションの基礎について学びます。海外渡航の基礎知識についても触れます。	
	留学英語入門	留学に関わる生活の場面で必要となる英語表現やコミュニケーションの技法について文化的背景をまじえながら学びます。社会生活（日常）、家庭生活（ホームステイの場合）、学校生活（授業、寮など）の場面を想定し、留学生生活を概観しながら実践的な英語運用能力の習得を目指します。	
	英語圏留学入門	欧米、オセアニアなどの英語圏の国・地域への留学プログラムを紹介しつつ、各国事情（社会、経済、文化など）や各大学事情について学ぶとともに、留学派遣先に関する調査・情報収集にもとづいてレポート（発表）します。	
	アジア圏留学入門	中国、韓国、ベトナムなどのアジア圏の国・地域への留学プログラムを紹介しつつ、各国事情（社会、経済、文化など）や各大学事情について学ぶとともに、留学派遣先に関する調査・情報収集にもとづいてレポート（発表）します。	
	外国語としての日本語	学内における留学生、留学派遣先における日本語学習者を対象として日本語学習のサポートをする場面を想定し、「外国語としての日本語」を客観的に観察・分析する視点を養うとともに、日本語学、日本語教育（日本語教授法）の基礎について学びます。	
	留学フォローアップ	学内外の留学プログラムに参加した学生を対象として、留学体験のふりかえりを新たな自己形成（アイデンティティの確立）や将来的なキャリア形成へとつなげるための議論や発表を行います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
		グローバル特講Ⅰ	グローバルコースの入門講座で、グローバルコース生としての3年間の目標設定や学びのステップについて考察するとともに、異文化相互理解の基礎について学びます。異文化理解のための好奇心・観察力・感受性を高めるとともに知識を深め、異文化の中の自分の立ち位置を確立することをねらいとします。	
		グローバル特講Ⅱ	グローバルコースの発展講座で、入門講座を踏まえつつ、学内外での国際交流活動を通じて異文化コミュニケーションの実践へと展開させます。	
		グローバル特講Ⅲ	グローバルコースの留学直前講座で、入門・発展講座で学んだことを基に、英語による発信技能を習得することを目的とします。自文化や多文化理解に関連する内容について、情報収集・考察・発表する力をプレゼンテーションやディスカッションなどの実践を通して養成します。	
		グローバル特講Ⅳ	グローバルコースの留学事後講座で、留学体験のふりかえりを新たな自己形成（アイデンティティの確立）や将来的なキャリア形成へとつなげるための議論や発表を行います。	
	国際共修科目	Multicultural Project	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型必修授業で、使用言語は英語とします。多文化理解を主な目的とする様々なテーマ設定のもと、講義と活動を組み合わせた展開とします。多国籍・多文化の学生が集う中で、「国際共通語としての英語」を意識するとともに、異文化間コミュニケーションについて実践的に学ぶ場となることをねらいとします。	
		多文化交流プロジェクト	日本人学生と留学生が共に取り組むプロジェクト型必修授業で、使用言語は日本語とします。地域（広島市）との交流・連携や多文化共生を意識してテーマを設定します。学外における活動を組み入れ、その企画、運営を協働で行うことで、履修者間の相互交流を深めるとともに、地域貢献の意識を高めることをねらいとします。	
共通教育科目	教養科目	哲学	近代哲学の展開について学びます。授業では、主要な哲学者の業績を取り上げていきます。例えば、デカルトの「方法序説」と「省察」、ロックの「人間知性論」、カントの「三批判書」などです。学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを読みこんでくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	倫理学	西洋の倫理思想史を概観することを目指します。ただ、すべてを見渡すことは不可能なので、対象を絞って検討します。「講義計画」に示した順序で見て行きます。	
	美学	「芸術」「自然」「天才」など、近代美学の基本概念に着目しながら、西洋近代美学がいかなる問題意識に根ざしていたのか、西洋近代美学の根本問題が何であるのかを、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』に即しつつ探ります。	
	芸術学	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義ではギリシア・ローマ神話に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であるのかなどについて理解を深めていきます。	
	日本文学	日本文学史上、一部の特権階級だけのものだった文学が初めて一般大衆のものになったのは、江戸時代でした。江戸時代に読者層がこのような劇的変化をとげたのは、この時期に印刷技術が向上し、文学作品が出版（大量生産）されて市場に出たからです。この授業では、中学・高校で学んできた文学史とは違った視点から、文学史を取り上げます。	
	西洋文学	ラテンアメリカ（スペイン語圏に限定する）の歴史・社会・文化という背景を学びつつ、この地域の主要な作家たちを紹介します。短編小説や詩、あるいは長編小説の一節などを授業中に読み、その場でミニレポートを書くというアクティビティをできるだけ多く取り入れます。 ラテンアメリカといっても、視覚的情報がないとイメージがわからない受講者も多いと思われるので、アルゼンチン出身の革命家チェ・ゲバラの若き日の南米縦断旅行を描いた映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』と1973年のチリのクーデターを背景にした映画『マチュカ〜僕らと革命〜』を授業中に鑑賞します（これらについてもミニレポートを提出してもらいます）。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語学	授業では、よく知られている国語の常識（五十音図、ローマ字、小さな「つ」）を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。比較的やさしい日本語の規則性として、以下のテーマを取りあげます。 (1) 日本語の音声（音節、拍、特殊拍） (2) 日本語の韻律（リズム、アクセント、イントネーション） (3) 日本語音声学（母音、半母音、音声記号） 毎週の授業は講義と実習を組み合わせ、次の形式で実施します。 1. 先週の復習 2. 今週の講義 3. ノートテイキング(実習) 4. まとめテスト	
	心理学	何が不思議といって宇宙がその内部に意識を持った存在（人間）を有していることほど摩訶不思議なことはないでしょう。そこで、本講義では生物科学の一領域である心理学から人間の心（意識を含む）の問題にアプローチしてみることにします。講義の結果、受講生に少しでも人間の“心理学的な（＝生物学的な）見方”が理解されれば、と願っています。講義では「心理学の基礎領域（前半部分）」を主に取り上げます。	
	文化論	グローバル化の進展に伴い、世界のありとあらゆる事象が複雑に絡みあうようになった現代社会において、国家間の境界線の揺らぎや文化アイデンティティの変容が起こっています。 こうした社会情勢を背景に文化（商品、ライフスタイル等）の均質化・混淆化・ローカル化が発生しています。本講義では、マクロ・メゾ・ミクロの観点から各分野の文化変容の考察を行います。 第一部「文化のグローバル化」では、マクロレベルな観点から文化の変容にアプローチします。 第二部「ローカル文化の変容」では、グローバル化が進展しナショナルな境界が薄れる中において、よりいっそう注目されるようになったローカルの文化に焦点を当て、その変容を考察します。事例として広島府の神楽を取り上げます。	
	文化人類学	文化人類学は（1）「住み込み型の調査（フィールドワーク）」と、（2）それにもとづいて描かれた「民族誌（エスノグラフィー）」によって支えられています。よって本講義では優れた民族誌の紹介と、講師自らの調査経験を交えながら、文化人類学の概念、方法、視角を習得することをめざします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本史	日本史を古代から近世まで講義します。その時代を特徴づけるテーマを選び、掘り下げることによって、歴史の流れを把握する感覚を養います。 学問は本来面白いものです。なかでも歴史は、熾烈な権力闘争があり、また、ときには血も涙もある人間の汗と涙の物語もあります。とりわけ、自分や家族の住んでいる地域や国のたどってきた過程を尋ねるのは、楽しいことです。「面白くなければ学問ではない」というコンセプトのもとに、歴史を学んでいきます。自分がその場にいたらという臨場感をもって、ふり返って欲しいものです。そうすれば歴史上の人物の思いや行動を実感をもって受け止めることができます。そして、そこから今後われわれはどう生きるべきかという問題を考えるヒントを得ることができます。	
	東洋史	この科目では、いまに残る中国の文物や歴史上の人物にスポットをあて、それらを通して中国史を概観してみます。 各時代の文物や人物の生き様には、その時代の特色が濃厚に反映されています。したがって、本科目では、ただ文物や人物だけに注目するのではなく、なぜそのモノが生み出されたのか、なぜその人がそう考え行動したのか、といったことにも関心を払い、それぞれの背景に広がる歴史的世界にも目配りをします。 本科目では、文物などの歴史的遺産を出来るだけ視覚的にも理解してもらうために、画像や写真、映像資料も使いながら授業を進めたいと考えています。	
	西洋史	史学史とは歴史学の歴史であり「どのように歴史が書かれてきたか」を問う学問です。本講義では、西洋世界で歴史がどのように認識され、叙述されたか、詳しく見ていきます。「そもそも歴史とは何か」という問いから入り、古代世界の歴史認識、中世から近代にかけてのヨーロッパにおける歴史叙述を見ていきます。最後に歴史学の最新動向についても触れてみたいと思います。	
	地理学	地理学は、研究上の方法からまず系統地理学と地誌学に大きく分かります。本授業は、系統地理学のうち、（人間の諸活動が反映した）地表空間を対象とする人文地理学について理解します。地理学の存在理由は、人口の疎密の違いにみるように、地表面上は決して均等な空間ではなく、諸事象の分布が地域的差異に満ちているという点にあります。系統地理学は、これらの諸事象の地域的差異および法則性について扱うものでありますが、この地表空間の差異はすなわち、まず自然環境を基盤とする人間活動の諸性質によって、さまざまな特徴ある地域形成から構成されています。本授業は、テーマとしてさらに「人文地域の諸形成（諸形態）」と題し、こうした人文地域（人々の活動範囲）の諸特徴について、理解していこうとします。その際、主要な各人文現象の立地・分布に関する規則性・法則性に着目した認識法を基本として、各種地図や日本・世界の事例を利用しながら、授業を進めていくことにします。	
	社会学	社会学とは、人間の営みに対して、徹底的に、恥じらうこともなく、倦むこともなく、強烈な関心を抱くことから始まる学問です。探検家や冒険家の記述が「見知らぬ世界を体験すること」による興奮を提供するのに対して、社会学は「見慣れた日常世界の意味を変容させること」によって知的興奮を提供します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法学	現代社会の法の機能を考察するために、ここではジェンダーという切り口で法現象を検討していきます。たとえば、身近な課題としては、ミスコンテストは違法行為なのか、夫婦別姓制度を導入すべきなのか、といったことです。そうした学習を通して、「法とは何か」という命題を考える一助にしていきたいと思います。	
	政治学	政治学における基礎的な概念を、具体的な事例や問題に即して講義します。 この講義は、経済学や社会学、法学などの社会科学隣接分野、あるいは政治学の各分野をこれから履修していく上での基礎的科目として位置づけてもらいたいと思います。	
	経済学	ミクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、需要と供給、家計・企業の行動、市場のしくみなどの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含む）。 講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定であるので、日々の出来事（特に経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。	
	統計学	本講義の内容は、理論上の厳密性より応用面でのわかりやすさを求めて展開されたものです。統計データの処理から、統計解析、統計推計、仮説検定までという認識論のプロセスによって、統計学の基本概念、データの作成と整理の統計的扱い方、不確実の現象を把握するための確率分布のパターン、標本と母集団の関係、分析現象の姿を帰納的に推定しようという方法論の解説が本講義の構成となっています。統計学の基本的な内容と枠組みを理解したうえで、これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが、本講義のねらいです。	
	情報社会論	この講義は、「情報社会」の未来論ではありません。現実の「情報社会」を解明しようとしています。そういう意味では、情報社会を主体的に生きていくための「マニュアル」になるはずですが。情報社会において、どういう問題が発生し、それらの問題をどのように解決するかを、自ら考え、模索してもらえたらと思います。	
	物理学	物理学は自然現象を理解するための基礎として重要な学問です。本講義では物理学の分野の中で、力学や熱力学、電磁気学、量子力学、相対性理論の各分野についての基本的な考え方を学びます。力学の分野では速度、加速度の定義やニュートンの運動の法則について学びます。熱力学の分野では、熱と内部エネルギー、理想気体について学びます。電磁気学では電流の性質や電気と磁気の関係について学びます。また、講義の後半では量子力学や相対性理論の概要について学び、最後に物質を構成する素粒子について学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	化学	この授業では化学者達が創ってきた物質の世界を概説します。私達の身の回りには人工あるいは天然の化学物質が満ちあふれています。化学とは、原子・分子あるいは化学反応を土台として物質の世界を理解し、新しい物質を創りその働きを見出す学問です。「化学物質＝わからないもの・危ないもの」、「化学＝暗記科目」、「化学式＝難しい」という発想から抜けだし、周囲にあふれる化学情報を理解するための基礎を身につけることを目標とします。	
	生物学	外界の変化を察知し、的確に行動することは、動物の生存に不可欠です。このため、動物には外界の変化を捉えるための感覚系とこれを中枢に伝え処理する神経系（脳と脊髄）、そして行動を引き起こすための筋肉系（運動）が備わっています。下等な動物では、生まれつき生存に必要な行動プログラムが中枢神経系に備わっており、感覚情報に基づきこのプログラムの中から最適を選択し、筋肉系を動作させて行動に移します。動物が高等になると、生きる過程で獲得した多くの情報（主に経験と学習）は神経系に記憶として蓄えられ、行動プログラムに影響します。 本講義では動物行動の背景にある生物学的事項について、 ㊦ 細胞の種類と働き ㊦ 動物が営む生命現象（呼吸、血液循環、消化など） ㊦ 動物が生存するためにとる行動 ㊦ 行動の背景に潜むしくみ ㊦ 中枢神経系の役割 を中心に、最新の研究成果を交えて授業を行います。	
	環境科学	環境や環境問題は現代のキーワードです。多様な環境問題のうち、この講義では熱帯林消失と生物多様性減少について現状とその原因を紹介し、さらに問題解決のために、どのような取組が行われているのかを取り上げます。毎時間配布するプリントをもとに、講義を進めて行きます。	
	数学	古代ギリシャ時代にユークリッドが解いた不定方程式からはじめて、18世紀までの初等整数論について述べます。その手法として、代表的な定理を数個挙げて数学の発展について考えていきます。解き方は分かっている、膨大な計算量のある具体的な問題は解くことは困難を伴いますが、この講義では数学の予備知識が多くない文科系学生にも理解できる問題を選択して、その解法を説明していきます。	
	教養講義 (現代の哲学)	哲学という分野には、2000年以上前にプラトンが提出した問いをいまだに論じ続けている、という面があります。これは、2000年程度では人間の基本的なあり方は変わらないという事実を反映しています。 その一方で、今を生きる私たちは現代社会の様々な問題に直面しています。この講義ではそれらの問題を取り上げ、哲学の観点から考察を加えていきます。講義で紹介する様々な見解を鵜呑みにするのではなく、それらを自分の頭で考え直していただきたいと考えております。	
	教養講義 (西洋の美術)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義では聖書およびそれに関連する物語に基づいた美術作品を取り上げ、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (西洋の音楽)	チェコ共和国の首都プラハは、18世紀にヨーロッパのコンセルヴァトワール（音楽院）と呼ばれ、ある時期、その主流に比肩する音楽の天才達が集いました。イギリスのルネサンス期にはチューダー王朝の下にシェイクスピアの演劇は栄え、海外からの文化人達が渡英した頃のバロックは名実ともに揺るぎ無い音楽が定着しました。チェコの宗教改革者フスを称える賛美歌は現代にもおよび、イギリス国教の賛美歌はチェコ同様、近代の作曲家に受け継がれています。それらの作品集を鑑賞し、歌い、比較もしていきます。 イタリアと同様に芸術文化人達を生んだチェコ、音楽の消費国として世界に貢献したイギリス、ともに歴史背景と文化史を読み取りながら、中世から現代までの音楽の変遷と進化の度合いを名曲鑑賞や実演を通して理解していきます。	
	教養講義 (江戸文学)	江戸時代中期から後期にかけて発達した大衆文学の作品例をあげ、その内容を講読します。	
	教養講義 (ドイツ文学)	「父権制の歴史（女性差別の歴史）」を中心テーマに、ヨーロッパの文学（ギリシャ神話から現代にいたるまで）を見ていきます。具体的文学作品にあたるというよりも、「文学をする営み」の意味、その深層を探っていこうと思っています。具体的に扱う教材は、ギリシャ神話『エレクトラ』、オペラ『サロメ』、ドイツ映画『マリア・ブラウンの結婚』、ドイツ小説『朗読者』（ベルンハルト・シュリンク）、在日韓国人作家李良枝（イ・ヤンジ）他	
	教養講義 (西洋文化論)	西洋文化論で扱ったヨーロッパの人権獲得の歴史と日本のそれとの比較を行います。ここでもやはり、映画、ドキュメンタリー、文学作品、音楽、絵画その他ありとあらゆる教材を使用します。	
	教養講義 (アジアの文化と社会)	本講義では、視聴覚教材を活用しながら近現代の韓国・朝鮮の社会変動について考察します。とくに第二次世界大戦後から現在までの歴史・社会・文化の変動を日本との関係も交えながら考察していきます。 具体的には、韓国および朝鮮半島における約1世紀間の出来事（植民地化、開放と分断国家の成立、朝鮮戦争、軍事独裁政権の成立と経済開発、日韓国交正常化、民主化運動、南北首脳会談など）を中心に振り返りながら、現在、朝鮮半島が抱える問題やいまの韓国・北朝鮮と日本との関係について考えていきます。	
	教養講義 (日本近代史)	明治維新以降の日本の歩みを学びます。別途、政治史中心の日本史を開講していますので、経済の部面を中心に学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (日本近現代史)	日本史を、明治以降現代までの近現代史を中心に講義します。 現代の日本は様々な問題を抱えています。その問題は、歴史のどの時点で出現し、現在の姿に至ったのか、そしてそれは現在に至るまでどのような影響を与えているか、など歴史の流れを重視しつつ検討していきます。 歴史を明らかにするには、歴史史料によらねばならないのは勿論です。しかし、歴史を追体験するには、歴史史料の他、マンガ、ドキュメント、小説・日記、など多様な素材が有効です。これらを手がかりに、当時の実態に迫りながら、そのとき人々はどうか考えどう行動したかなど、多角的に検討していきます。	
	教養講義 (東洋近世史)	「日本」と「中国」の関係を語る際にしばしば用いられるのが「一衣帯水」という言葉です。この言葉は、一筋の帯のように狭い海によって隔てられているが両者の間は近接している、というほどの意味です。ここでの「海」は、両者の間を区切るものとしてイメージされているとも受け取れますが、実際に日中の関係の歴史を考えてみると、この海を往来した人やモノ、あるいはこの海を抛り所にして活躍した人々の動向を無視することは出来ません。つまり両者の間に広がる海自体が、その周辺に位置する諸地域を巻き込む歴史の舞台であったのです。 本科目では、「日本」と「中国」の関係の歴史について、その間にある海の様相にも着目しつつ取り上げてみたいと思います。なお、時間軸としては、主に9世紀以降19世紀初頭までを対象とします。この時期は、科目名にもある「近世」という時代を考える際にも重要な時期です。	
	教養講義 (西欧近代史)	ヨーロッパ社会の発展を歴史的に考察することを通じて、現代社会の成り立ちを考えていきます。高校時代に「世界史」を履修していない学生にとっても、興味のわく講義にしたいと思います。	
	教養講義 (西洋中近世史)	中近世ヨーロッパの歴史について詳しく見ていきます。本講義では高校世界史に出てくるような事柄にも触れますが、中近世ヨーロッパの人たちが、人間や世界のあり方についてどのような考え方を持っていたのか、ということについても詳しく見ていきます。叙任権闘争後に起きた国家観の変化については特に詳しく論じます。	
	教養講義 (生活の中の地理学)	前半は、比較的身近なトピックの中から、地理学的な現象を取りあげます。後半は、近年の地理学の新しい潮流の中から、行動地理学、交通、ジェンダーの地理学、人口移動、地理情報システム(GIS)を取り上げ講義します。「地理学」(川瀬担当)では物足りなかった人にもこたえる、やや専門的ですが身近な内容です。	
	教養講義(社会学のものの見方と考え方)	社会学は(1)さまざまな方法による社会調査と、(2)それを説明する社会理論によって支えられています。よって本講義では優れた社会学のモノグラフを通じて、社会学の概念、理論、方法、視角などを習得します。具体的に講義で取りあげるのは、暴走族、建築業、性風俗業、ホームレスの人びとなどです。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (現代経済学)	マクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、GDP、国民所得の決定、投資、財政・金融政策、IS-LM分析、雇用の決定、国際マクロ経済学などの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていきます（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含みます）。 講義の際には、ニュース・トピックスなどの実例も紹介していく予定であるので、日々の出来事（特に経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにすることです。	
	教養講義 (応用統計学)	統計学の研究対象とするものは、自然現象であっても、社会現象であっても、どの分野にも適用できる一般的方法論とみなします。本講義は統計的考え方とその応用方法に重点をおいて統計推計の基本内容を説明します。高度情報化社会の進展とともに、統計情報の作成や統計推測は、不可欠な社会認識の手段となっています。本講義の内容は不確実の現象を把握するための連続的確率分布のパターン、統計推計及び仮説検定などの方法論の解説は本講義の構成となっています。これを社会現象と自然現象の認識の基本道具として、意志決定を行う場合に役立てることが、本講義のねらいです。	
	教養講義 (情報環境論)	「情報とは何か」をテーマに講義を行います。情報の技術的な問題が多くあります。これは、自分のマシンを自分で守るにはどうすればいいのかということのヒントを提供しています。また、「情報社会」、「情報環境」を規律する規範を『情報社会の法律』を通して学びます。	
	教養講義 (ヒトの生命科学)	ヒトの身体は、60兆個もの細胞によって構成されています。個々の細胞は細胞外から栄養素や水などを得、生命活動に必要なエネルギーを産生し、またこのエネルギーを利用して生命維持に必要な物質を作り出しています。細胞に栄養素などを届けるため、ヒトには器官系（消化器系、呼吸器系や循環器系など）が備わっています。例えば、食物は口から入り、胃や腸を通過する間に消化されて栄養素や水となり吸収され、血管を通じて身体各部の細胞に運ばれます。エネルギー産生には酸素が不可欠であり、鼻から取り込まれて肺で血液中に入り、身体各部の細胞に運ばれます。また、生命活動によって生じた不要物・老廃物などは肝臓で分解され、血管を通じて腎臓にまで運ばれ、最終的に身体外に排出されます。このような生物の営みは、生命が続く限り止まらないです。 本講義では『ヒトの生命維持のしくみ』に焦点を合わせ、 ⑦ エネルギー産生に必要なガス交換（呼吸） ⑧ 物質と熱の運搬（循環） ⑨ 水や物質の身体内への取り込み（消化と吸収） ⑩ 不要物や老廃物の身体外への排出（排泄） について最近の研究成果を交えて授業を行います。	
	教養講義 (応用数学)	この講義では、集合と写像の概念の応用として、あみだくじの作成・一筆書き問題・四色問題について論じます。また初等整数論の応用としてについて2つの例を紹介します。1つは三山崩しゲームにおける必勝法の解析です。もう1つは公開鍵暗号システムにおいて、その暗号が有効に働くことを証明することです。また数学の別な応用として、線形計画法の概略についても述べます。これらのテーマには、現代数学の考え方を含みます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養講義 (現代心理学の展開)	心理学の基礎領域（動機づけ、意識、自己）に続いて、人格、知能、生涯発達、精神障害、心理療法、集団などの応用の領域について取り上げます。 心理学とはヒト、人、人間の行動の理解を試みる生物学である、ということが理解されることを期待しています。	
	教養講義 (社会と政治)	・政治学で使われる基本的な用語の解説をしながら、政治学の基礎的な考え方を習得します。 ・理論の解説を授業の柱にしますので、日本政治や国際政治の「時事解説だけ」を期待される学生には向いていないかもしれません。 ・政治に興味をもってもらえるように講義を準備します。	
	総合教養講義a (近現代の哲学)	柘植尚則『イギリスのモラリストたち』（研究社、2009年）を精読することで、イギリスの近現代哲学における人間観・道徳観を学びます。 学生は単に講義を「聴く」だけではありません。事前にテキストを精読してくることが要求されます。授業は、学生がテキストを読み込んでいることを前提として展開されます。	
	総合教養講義a (終末期医療と倫理)	終末期医療に関する諸問題を検討します。また、それに基づいて人間が生きることの意味を考えます。	
	総合教養講義a (西洋美術の図像学)	西洋美術の多くは様々な既存の物語を題材にしており、いわば本の挿絵のような役割を果たしてきました。本講義では主として旧約聖書を題材にした美術作品、特にシスティーナ礼拝堂内の天井画を取り上げます。受講者は、図像表現上の慣習的な約束事を学びながら、そこで表現されている場面がどのような物語の流れの中にあり、登場人物が誰であり、いかなる図像的意味を持つのかなどについて理解を深めていきます。	
	総合教養講義a (浮世絵)	浮世絵は、海外でも有名な日本の伝統文化の代表格といえますが、その実、浮世絵がどのようにして製作されるかといった基本的なことが意外に日本人の間で理解されていません。特に、広島には浮世絵の常設展示を行っているミュージアムもなく、浮世絵を実際に目にする機会が少ないためか、認識が低いように思われます。この授業では、知っているようで知らない浮世絵の製作工程・技法について取り上げます。	
	総合教養講義a (江戸時代の化粧・結髪)	日本人の伝統的美意識は、衣食住の様々な局面に表されてきましたが、化粧・結髪の形式も、その一局面です。 化粧・結髪は、男女とも時代により階層により色々な形式がみられますが、この授業では、主に浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・遊女を取り上げます。	
	総合教養講義a (神仏と芸能)	世界的にみても、芸能というものは多く信仰に根ざしています。この講義では、わが国の例として、いわゆる「三大伝統芸能」（能・狂言・歌舞伎）以外の、より直接的な招福除災の性格の強い伝統芸能の各種を紹介します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (現代日本語の特質)	授業では、学校文法として知られている国語の常識を手がかりとしながら、それらは本当に正しい知識なのか、言語学の観点から見直していきます。日本語の規則性を扱う日本語学の中で、比較的むずかしいものを取り上げます。 扱うテーマは、以下の通りです。 (1) 日本語の統語 (活用、正格活用) (2) 日本語形態論 (語幹、形態素、異形態) (3) 日本語の音声 (子音、調音、IPA) (4) 日本語音韻論 (音素、異音、相補分布)	
	総合教養講義a (英語と日本語)	この授業では、日本語と英語を以下のような観点から比較します。 ・世界の諸言語の中での位置づけ ・歴史 ・音声 ・方言 ・語彙 ・文構造 ・未来の姿	
	総合教養講義a (ことばと社会)	ネイチャーライティング(自然・環境に関する文学、芸術・メディア)を通じて、「ことばと社会」について考察します。 特に、日本と英米の文学作品や芸術・メディアの比較を行います。また、「場所の感覚」という視点から様々な文化現象について分析します。	
	総合教養講義a (ピアノ講座)	毎回の授業は、講義と実演とで構成します。 講義では、ピアノ作品を演奏する上で必要となる楽典事項について説明を行い、総合的な音楽的知識の習得を目的とします。 実演では、各々個人のレベルに応じた作品を取り上げ、ピアノ演奏技法の習得を目指し、音楽表現に必要な感覚や感性を育むことを目的とします。	
	総合教養講義a (声楽と合唱)	実技では、主に合唱曲を用いて、自らの演奏のために必要な発声や歌唱法および表現に関する基礎的な技法を習得することを目的とします。 また上記の事柄をより深く理解するために、講義による基本的な音楽理論も学びます。	
	総合教養講義a (教育文化論)	日清戦争が勃発した明治27(1894)年11月、英文の『日本及び日本人』が民友社から刊行されました。戦争のさなかに幾度か版をかさね、日露戦争終結したのち、『代表的日本人』と改題されます。東アジア世界に育った日本は、明治維新後、急激な脱亜の道につきすすみ、帝国主義国の地位を確立します。『代表的日本人』は、キリスト教に帰依した内村鑑三が「キリスト教徒に優るとも劣らぬ立派な日本人」がいたことを欧米のキリスト教徒にむかって示すために著述したものです。内村は、5人の「代表的日本人」をとりあげ、かれらの生涯を紹介しながら日本的な道徳や倫理の美しさについて語ります。 『代表的日本人』は、『茶の本』、『武士道』とともに、日本人が英語で日本の文化・思想を西欧社会に紹介した代表的な著作です。本講義では、『代表的日本人』を講読しながら、それぞれの人物が生きた時代について分析し、自己形成のあり方、価値観などについて検討します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (歴史と社会)	西洋史では16～18世紀を近世と呼びますが、近世はヨーロッパが周辺世界とかつてないほど深い関わりを持つに至った時代です。近世以降に関して、ヨーロッパからはたらきかけを抜きに南北アメリカ、アジア、アフリカの変容を理解することはできませんが、反対に、周辺世界との関わりを考慮せずにヨーロッパの変容を理解することもできません。本講義では、近世ヨーロッパと周辺世界の関係のなかでも、特にハプスブルク家とオスマン帝国の關係に焦点を絞り、その關係からどのような変化がヨーロッパにもたらされたか、考えていきます。バルカン社会の変容、メディアを用いた世論操作、議会における情報の扱われ方、といったトピックについては特に詳しく見ていきます。	
	総合教養講義a (現代日本社会の諸相)	(英文) This course aims to give you a deeper understanding of some aspects of modern Japanese society. One of the themes of the course is minorities, which, in turn, is related to another important theme, human rights and discrimination. I have prepared selected vocabulary lists for each topic and, if you wish, I can give you a mini test every week of a few of those words, which you think may be of use to you. We will also be looking at some key Japanese concepts. In addition I will bring along some popular Japanese music to play to you before the class starts each week. (和訳) 現代日本社会の様々な諸相の理解を深めることを目的とします。ひとつは人権擁護や差別といった重要なテーマに関連するマイノリティについて取り上げます。トピックごとに単語のリストをまとめ、その中から役に立つ語彙があれば、毎回小テストを行います。また、日本人の基本的な考えについても触れていきます。毎回授業に入る前に、日本のポピュラー音楽を題材に取り上げます。	
	総合教養講義a (日本の社会および経済の文化的基礎)	(英文) This course provides an introduction to Japanese society and culture. Weekly topics will examine the impact of spiritual and belief-related factors on social, economic, and political changes in Japan. The topics will include Japanese spirituality in comparative context, social, political and economic ideas and Japanese culture in international context. Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized economic and social changes and compare them with globally acceptable cultural norms and behaviours. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese unique cultural heritage which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable. The lecture series will cover two main areas: (1) conceptual and phenomenological foundations of modern Japanese societal, cultural and economic order, and (2) the empirical applications and cases.	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(和訳) 日本の社会・文化についての概論を紹介し ます。毎週トピックで、日本人の精神的・信仰的な内面が 日本の社会、経済、政治の変遷にどのように影響を及ぼ しているかを考えます。トピックでは、相対的な見方 での日本の精神性や、国際的背景から見た社会、政治、経 済の考え方や日本の文化に関する事柄を含んでいます。 講義や事例に関する議論を通じて、文化的基礎に裏打ち された経済的また社会的変遷の評価すべき点を注目し、 これらの変遷を世界一般の文化的規範や行動様式と照ら し合わせていきます。また、他の国々でも受入れ可能な 日本の伝統文化の長所と、国際的に受け入れがたい短所 についても議論します。 講義は、次の2つの分野からなります。(1) 近代日本の 社会秩序、文化秩序、経済秩序の概念的かつ現象的な成 立基盤 (2) 応用実践・ケーススタディ	
	総合教養講義a(ベー シック・ファイナン ス)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を 当て、市場で取引されることの意義や諸現象並びに市場 の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a(コー ポレートファイナン ス入門)	企業の資金調達という意味でのファイナンスに焦点を 当て、証券が市場で取引されることの意義や諸現象並び に市場の仕組みを学びます。 テキストを解説する講義形式で授業を進めます。 新聞記事等の解説も行います。	
	総合教養講義a (働く人のための経 営学)	現代の日本は、働く人の約85%が企業やその他の組織 に雇用される、いわゆるサラリーマン社会といわれてい ます。そこで本講義では、まず日本の経営組織で働く人 たちの側に立って、従来までの日本的経営の特質、モノ づくり、人事・労務管理、日本企業を取り巻く経営環境 の変化とその現状など「働く側の経営学」について取り 上げ、次に経営学の基礎的諸事項、基本的視座や見方・ 考え方など「企業経営の基礎知識」を取り上げながら、 近い将来、社会に出て「働く人のための経営学」につい て講義していきます。	
	総合教養講義a (現代社会と企業)	今日私たちは、様々な組織や社会集団に所属していま す。学校を卒業すると多くの人は企業や官庁といった組 織で働き、様々な仕事に従事します。本講義では、組織 という社会的装置、そこでの仕事や雇用、さらには組織 を取り巻く経済社会の動向について基礎的な知識や洞察 を深めます。 *扱うトピックスは、授業の進捗状況などにより変更す る場合があります。	
	総合教養講義a (現代社会とマーケ ティング)	現代のビジネスにおいて「マーケティング」を知り、 それを「管理（マネジメント）」していくことは必須だ と言われます。本講義ではマーケティングとは何かを学 ぶとともに、企業のビジネスにおいて戦略・組織面でど のような位置づけにあり、こういった役割を担っている のかを学修します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (家族と法)	プロポーズをすれば後で気が変わっても必ず結婚しなければならないのでしょうか。結婚すると夫婦それぞれが稼いだお金は誰のものになるのでしょうか。親子の縁を切ることは法律上できるのでしょうか。女性が結婚すれば親の財産を相続する権利を失うのでしょうか。この講義では、結婚や離婚、相続などの家族の問題についての基本的な法律のルールを学びます。日常的な問題を法律に結び付けて考えられるように、授業では具体的な事例を挙げて講義を進めます。また、授業の内容を整理し、理解度を確認するために、授業の後半では課題に取り組む時間を設けます。	
	総合教養講義a (事例で学ぶ民法)	本講義の目的は、各種資格試験・国家試験等で出題される民法択一式問題をもとにした事例問題の演習および解答・解説を通じて、民法の基礎的な論点(争点)についての理解を深めることです。本講義では、各学部で開講されている民法科目履修の前提となる知識を整理するとともに、やや発展的内容の学習にもとりくみ、また各種試験の択一式問題に対応できる知識・実践的能力を養うことを意図しています。本講義の検討対象は、民法の各分野（主要には財産法）の基本的な諸論点です。	
	総合教養講義a (現代社会と企業法)	現代社会において企業が法的にどのように位置づけられ、何を期待されているか、そしてどのような問題を内在しているのかについて、現在論じられている最新の法情報にも触れながら解説を行います。内容としては、企業法の中心である「会社法」の仕組、不正競争防止法、中小企業の事業承継問題、合併などの組織再編、また会社法との比較において一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（一般法人法）と消費生活協同組合法を解説し、さらに企業のCSR活動、NPO法とNPOの活動および社会的企業論を概観します。小テスト（複数回）と期末試験を実施します。	
	総合教養講義a (国際社会と法)	国際社会は、冷厳な国際政治力学で展開される側面も強いですが、国際法をはじめとする国際関係法の機能も重要です。本講義では、できるだけ時事的話題を中心にして講述して、国際法が身近な存在であることを認識してもらうことを目的にしています。	
	総合教養講義a (情報と社会)	「情報社会論」「情報環境論」において取り上げられた個別問題について、各自の立場から探究して、発表します。発表は自分のGmailサイト上で行うものとします。	
	総合教養講義a (生命の化学)	この科目では生命とは何かを考える基礎となる、生命化学と生活に関わる化学を講義し、自然科学への関心を育て基礎知識を習得します。我々の身体を構成する物質がどのようなものであり、複雑な生命体の仕組みを知ること、生活・産業・環境・医療・食糧・安全にまつわる様々な社会問題を考える基礎として重要です。生命はいわば分子を素材とする機械とも言えますが、機械にはない“何か”を持っています。その“何か”は科学者もはっきりと答えることはできません。尊い生命をはぐくんできた地球環境の大切さを考える土台をつくるために、生命の仕組みの奥深さと不思議さを学習します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (病気の生物学)	第二次世界大戦終了後、医療技術の発達、栄養の向上、そして衛生環境の改善によって日本では感染症が激減しました。ところが、高度経済成長期に入ると、生活の場には新たな化学物質が溢れ、これらは公害を生み、その後ガンやアレルギー疾患の発生へと繋がっていきました。また、社会構造が変化（高齢化社会）する中で、脳血管疾患や心疾患が表在化し、これらの発生には生活習慣が関係していることが明らかになってきました。近年、家庭環境や労働環境の変化が過度のストレスとなり、これが原因となって生じる精神疾患が増加の一途を辿っています。このような現代社会を健康に暮らすには、自分の健康に関心を持ち且つ管理することは当然であり、このために「身体機能の正常と異常」を知ることは不可欠です。 本講義では、 ㊦ 病気とは（死因と現代生活） ㊧ 生体防御のしくみ（自然免疫と獲得免疫） ㊨ アレルギーとアナフィラキシー（生体の防御過剰） ㊩ 見えない恐怖（ウイルス、細菌、カビの攻撃） ㊪ 心疾患と脳血管障害（高血圧、動脈硬化と糖尿病） ㊫ ガンとの戦い（正常細胞のガン化） ㊬ タバコ被害 などのテーマについて解説し、われわれが健康に生きるための術を授けます。	
	総合教養講義a (大気環境問題と生態系)	わが国では1980年代の後半から地球環境問題が注目されはじめました。その後20年以上たった現在でも、深刻な影響をおよぼす、未解決の問題としての位置づけはかわっていません。この講義では、地球環境問題のうち、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の問題と最近注目されている微小粒子状物質(PM2.5)問題を取り上げます。地球誕生以来生物の進化が大気の形成にどのようにかわり、現代の人間活動が大気環境をどのように変え、上記の四つの問題が生態系にどのような影響を与えているかについて講義します。さらにこれらの地球環境問題の解決のためにどのような試みがなされているかについて紹介します。毎時間配布するプリントをもとに講義を進めます。	
	総合教養講義a (生物多様性保全の環境問題)	現在、地球上の様々な環境で生物種や品種の多様性が失われ、また個体数が減少しています。このような現象はこれまで生物学者や自然愛好家だけが注目していましたが、近年環境問題の一つとして位置づけられ、その深刻さに対する理解も少しずつ進んできています。この講義では地球上に多様な生物が生息することの価値、様々な生態系における生物多様性消失の現状とその問題点、生物多様性保全への取り組みます。講義は、毎時間配布するプリントをもとに進めて行きます。	
	総合教養講義a (宇宙と環境科学)	この科目では、生命誕生のサイエンスを宇宙環境の視点から概説し、自然科学への関心を育て基礎知識を習得します。現在、地球上で起こっている様々な問題は、宇宙規模で見れば小さなことかも知れませんが、我々にとっては大きな問題です。これを解決するためには宇宙・地球・生命の歴史を知ることが必要です。生命出現は、宇宙史の最大の出来事です。広大な宇宙において生命が存在するこの地球は最も尊いものでしょう。この科目では、地球の一員としての我々がどこから来たのか、生命と地球環境の尊さと自然の奥深さを講義・討論します。生命は、約40億年前の原始地球上で無生物から出現したと考えられていますが、この歴史を、地球外生命探査やバイオテクノロジーなどによる最新の成果を取り入れ講義します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義a (自然環境と災害)	近い将来、西日本の太平洋沿岸を震源とする南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。2011年3月の大震災では、地震や津波の知識が十分に理解されていなかったことが、人的被害を増大させた一因だと考えられています。自然環境や災害に関して正しい科学的知識は時には命を守ったり、被害を軽減することに役立ちます。また、地球温暖化やオゾン層の破壊など、自然環境に関しても同じことが言えます。高校で地学を履修しなかった学生にも理解できるように、地震災害を中心に自然災害と自然環境に関わる諸問題を取り上げます。	
	総合教養講義a (市民と行政法)	「行政法」というと、公務員志望の学生が受講する科目というイメージを持たれているかもしれませんが、「行政書士試験」でも行政法は出題されます。公務員試験や資格試験で行政法が必要なのはわかるけど、「民間に就職するのに、なぜ、行政法？」という疑問を持たれる方がいらっしゃると思います。このような疑問を持つのもよくわかりますが、民間に就職してからも、行政法は大いに役立ちます。規制緩和がなされてはいるものの、企業が何かしようとすると、まだまだ許認可の壁があって、これを突破するだけの、行政法の知識と、それを活用する能力が必要だといわれています。法学部以外の学生にとっても、行政法という科目は、社会に出て必ず必要となる科目ともいえます。	
	総合教養講義b (芸術文化学)	本講義ではドイツを中心としたドイツ語圏の映画芸術について学びます。特に近年の中心テーマ「移民」「ナチス」「東西統一」を扱った21世紀のドイツ映画を取り上げ、それぞれの作品が時代の社会状況といかに照応しているかに関して理解を深めます。	
	総合教養講義b (江戸時代の服飾)	日本の伝統的美意識は、衣食住のさまざまな局面に表されてきましたが、外出着の文様・形式も、その代表的な局面の一つです。外出着の文様・形式は、男女とも時代・階層によって色々なものがみられますが、本講義では、主として浮世絵を資料として用いることにより、江戸時代の町人女性・芸者・遊女の服飾を取り上げます。	
	総合教養講義b (和紙)	和紙は現在、書や絵画に用いられるだけでなく、その独特な風合いを生かしてインテリア・服飾品の材料としても注目されていますが、和紙の広範な活用は今に始まったことではありません。この授業では、古来、日本人が和紙を情報記録媒体としてそのまま利用するだけでなく、様々な加工をほどこして衣料・調度品の材料としてきたことについて取り上げます。	
	総合教養講義b (マスコミ論)	インターネット時代の到来で新聞など伝統的メディアだけでなく、テレビなど既存の映像メディアも生き残りのための変容を激しく迫られています。その中でマスコミ全般が世論の厳しい批判にさらされています。現代社会におけるマスコミの機能と役割、問題点と課題、および将来的な可能性について具体的な事例を取り上げながら検証し、報道の在り方とマスコミが進むべき道を考えます。考察の対象は主としてわが国のマスコミとしますが、比較論の対象として世界のマスコミの事例も取り上げます。	
	総合教養講義b (社会保障論)	社会保障の対象領域、基本構造、原理などを学び、その後各領域の現行制度について講義します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養講義b (労働問題と法)	労働法のポイントとなる項目について、裁判例や実務上の問題点を素材として現実の労働問題と労働法とのかかわりを説明します。近年、労働法の分野では法改正が続いています。それらの動向もできる限り、授業内容に反映させます。授業は、各回の項目について、裁判例や実務上の問題点を取り上げて説明します。	
	総合教養講義b (国際理解)	テキスト『国際社会を学ぶ』を素材に、国際社会を分析するための多様なアプローチの仕方を理解します。アイデンティティ、地球文化、人類益がキーワードとなります。各章には具体的な問いが設定されているので、その問いに基づいてテキストを読み解きます。	
	総合教養講義b (生命情報論)	5億3千年程前、生物に眼が現れ、外界の光環境の変化を感知することが可能となりました。その後、眼には光感度の調節、波長弁別、そして動きの感知などの高度な視覚機能が加わり現在に至っています。眼の獲得によって、接触、臭い（あるいは匂い）そして物音などに頼っていた生活に『見る』という感覚が加わり、周囲を探索する能力が格段に向上したため、生物の行動範囲は相当広がったに違いありません。 ヒトでは、生活に必要な情報の約80%を視覚から得ているといわれています。昨今のマルチメディア技術の発達とこれを媒体とした情報伝達の現状に鑑みると、他の感覚器に比べ視覚への依存度が高いことは肯けます。本講義では、眼球内に入った光がどのような生体内プロセスを経て『見る』という感覚を生むのかを、 ㊦ 光の性質 ㊦ 眼の構造と機能 ㊦ 眼から脳への視覚情報伝達 ㊦ 脳での視覚情報処理 の順序で、最新の研究成果を交えて授業を行います。	
	総合教養コース (世界の言語と文化)	元来、人間と言語、そして言語と文化は切っても切れない関係にあり、そのつながりを理解することは、人間と異文化理解に大いに役立つものと考えられます。講義は、東から西の方（アジア言語圏からヨーロッパ言語圏）の順に進みます。 (オムニバス方式／全15回) (48 藤井 隆／1回) ・ガイダンス ・中国 (45 朴 大王／2回) ・韓国 (122 金 栄鎬／1回) ・北朝鮮 (21 郭 春貴／1回) ・シンガポール (33 高田 峰夫／2回) ・タイ ・バングラデシュ／ベンガル (65 吉川 史子／1回) ・イギリス	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(90 山尾 涼／1回) ・ドイツ (73 杉浦 順子／1回) ・フランス (157 Ferran Santiago／1回) ・スペイン (35 高橋 利安／1回) ・イタリア (59 矢田部 順二／1回) ・チェコ (130 佐藤 道雄／2回) ・アラビア ・イスラエル	
	総合教養コース(情報化社会と人間)	タイピング練習、Windowsの操作の修得、ワープロソフトWord, 製本エディタTexの修得、HTMLの修得、ホームページの作成を行います。 (オムニバス方式／全15回) 3クラス運営。 (88 都築 寛・70 佐藤 達雄／8回) ・オリエンテーション ・Officeソフトの活用(1) ・Officeソフトの活用(2) ・情報環境に応じた表現 ・情報化社会と人間 ・ワードプロセッサ“Word”と”TeX” ・ワードプロセッサTeXの概要 ・TeXによる表の作成 ・Word とTeXによる数式の表現 ・本の作成について (24 北原 宗律／7回) ・インターネットの仕組み ・インターネットHPの作成 ・インターネットHPの開設 ・インターネットHPの出版 ・インターネット宝探し	オムニバス方式
外国語科目 英語科目	英語リスニングⅠ	英語リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リスニングⅢ	リスニングの弱点を克服して、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦するためのクラスです。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅤ	より高いリスニング力を身につけ、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しめるよう訓練するクラスです。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅡ	「英語リスニングⅠ」に続いて、リスニングに最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、リスニングの訓練に取り組むためのクラスです。耳で英語を聴きながら、常に意味と文法を意識して聴くよう練習します。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅣ	「英語リスニングⅢ」に続いて、より長い対話や会話、洋楽のヒット曲など様々なジャンルのリスニングに挑戦します。聴き取りにくい子音や弱音節、音の連結などを聴き取る練習に取り組みます。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リスニングⅥ	「英語リスニングⅤ」に続いて、海外留学先で講義を理解したり、英米のテレビやラジオ番組を楽しめるようリスニングの訓練をします。英語学習者向けに録音した教材ばかりでなく、自然なスピードで話される英語を録音した教材を用いてリスニング力のレベルアップを図ります。教材中の表現を利用したコミュニケーション演習も行います。	
	英語リーディングⅠ	英語の基礎的な読解力を身につけるためのクラスです。やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校までに学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語リーディングⅢ	弱点を克服して様々なテキストを読み進める力を養うためのクラスです。少しやさしめの英語で書かれた読み物からはじめて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップしていきます。苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅤ	読解に必要な語彙力をさらに高め、読むスピードアップを図るためのクラスです。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	英語リーディングⅡ	「英語リーディングⅠ」に続いて、比較的やさしい英語で書かれた読み物からはじめ、徐々にレベルアップしていきます。高校で学んだ単語、熟語、文法を復習しながら、教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅣ	「英語リーディングⅢ」に続いて、読み応えのある読み物に挑戦できるようレベルアップして行きます。リーディング活動を通して、苦手な構文なども克服できるよう練習し、スキミングの訓練などで読むスピードも上げていきます。教材中に出て来た表現をアウトプット活動につなげることも視野に入れて学びます。	
	英語リーディングⅥ	「英語リーディングⅤ」に続いて、さらに読解に必要な語彙力を高め、読むスピードをアップ図ります。大学生にとって十分に読み応えのある読み物に挑戦していきます。読解を通じて、英米の文化、社会などについても知識を深めます。教材中に出て来た表現をアウトプットする活動にも取り組みます。	
	実用英語実習Ⅰ	日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の習得を目指します。語彙・文法・語法の確認を併用しつつ、場面設定にそったアクティビティーやグループワークを活用して実践的運用能力の養成を行います。英語学習に対する動機づけ、英語の使用に対する積極性や自信を醸成することをねらいとします。	
	実用英語実習Ⅱ	「実用英語実習Ⅰ」に続き、日常生活、学生生活、海外旅行など英語を実践的に使用する場面を設定し、それぞれの場面で必要となる「読む・書く・聞く・話す」技能の習得を目指します。より発展的な場面設定を行いつつ、習得した語彙や文法の範囲内で発信・自己表現するための実践的活動を行うことで、英語を使う楽しさを感じとることをねらいとします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語ライティング研究Ⅰ	トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やししながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究Ⅱ	「英語ライティング研究Ⅰ」に続いて、トピック指向で書かれた英語らしいテキスト構造について学びます。また、自動詞と他動詞の区別など基本的な文法を復習し、自然なコロケーションについての知識を増やししながら、自分自身や家族、故郷、趣味、大学生活など身近なトピックを英語で表現できるよう練習します。	
	英語ライティング研究Ⅲ	自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。手紙、メール、履歴書、短いエッセイなど日常生活で必要とされる内容の文章を英語で書くことができる能力を養成します。また適切な書式に従って書くことについても学びます。	
	英語ライティング研究Ⅳ	「英語ライティング研究Ⅲ」に続いて、自分の考えを論理的な構成で相手にわかりやすく英語で表現し、身近な話題について正しい英文でパラグラフを書く力を身につけます。ビジネスレポートや本・映画の書評などある程度まとまった内容を持つ文章などを英語で書くことができる能力を養成します。	
	英語読解研究Ⅰ	精読、多読、もしくは、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフ構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながらやさしい読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅱ	「英語読解研究Ⅰ」に続き、より難易度の高い英文の精読か、やさしい英文の多読、または、その両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、やさしい読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語読解研究Ⅲ	難易度のやや高い英文の精読、初中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を学び、Graded Readers を使いながら、初中級レベルの読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語読解研究Ⅳ	「英語読解研究Ⅲ」に続き、より難易度の高い英文の精読、中級レベルの英文の多読、もしくはその両方の組み合わせで構成されます。精読では、全訳して理解するのではなく、パラグラフの構成やトピックセンテンスに注目しつつポイントをつかみ、速く精確に読むことを目指します。多読は、なぜ多読が英語運用能力を伸ばすのかという理論的知見を再確認し、Graded Readers を使いながら、中級レベルの読物を多量に読むことで、英語を英語のまま理解する読解力を養成します。多読中心の授業では、1学期間に10万語以上読むことを目標にします。	
	英語聴解研究Ⅰ	英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	
	英語聴解研究Ⅱ	「英語聴解研究Ⅰ」に続いて、英語の音声学的、音韻論的特徴について理解を深めながら、英語を聴き取る力を伸ばします。英語の音韻体系やリズム、ストレス、音の同化、連結などに関して理解を深めます。学んだことを生かして英語を聴き取る練習をするだけでなく、教材中の表現を利用したアウトプット活動も行います。	
	英語聴解研究Ⅲ	(英文) The aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English. (和訳) より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者がします。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れることを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語聴解研究Ⅳ	(英文) Building upon the skills and concepts in English Listening Studies Ⅲ, the aim of this course is to enable students to develop their listening skills to more advanced level. The teacher will give various suggestions on how to achieve this. In order to prepare for both tests and using English in future, both in the workplace and for leisure, it is advisable that students become accustomed to listening to not only North American accents, but also for example, Australian and British accents as well as accents of non-native speakers of English. (和訳) 「英語聴解研究Ⅲ」で学んだスキルと概念を踏まえて、より高いレベルの英語の聴解力を養うために必要なスキルを学ぶことを目的とする科目です。聴解力を養うための様々な助言を授業担当者がします。試験対策、職場もしくはレジャーで英語を使う時に備えて、北アメリカのアクセントで話される英語だけでなく、オーストラリアやイギリスのアクセントで話される英語、ネイティブスピーカーではない話者が話す英語のアクセントにも慣れるようにします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	さまざまなコミュニケーションの場面に基づくコミュニケーションの基本的な理論と実践について学びます。文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションの様式を理解しつつ、多様なアクティビティーを通じて実践的な訓練を行います。	
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	「英語コミュニケーション研究Ⅰ」に続いて、文字や音声を媒体とするさまざまなコミュニケーションについて、より複雑な場面を想定して、情報の受信から発信にいたるプロセスを意識した言語活動の実践的な訓練を行います。	
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わりあいを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	「英語コミュニケーション研究Ⅲ」に続いて、人間の音声的なことばによるコミュニケーションは、声の調子、ジェスチャー、表情、姿勢、相手との間合いなどで発信されるメッセージを交えて複合的に聞き手に伝えられることを学びます。音声的なコミュニケーションと非音声的なコミュニケーションの関わりあいを示す具体例を分析し、分析を通して学んだことを実際の英語コミュニケーションに生かす実践的な練習をします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	(英文) The aim of this course is to develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. Through lectures and various activities, students will learn how to listen to and understand the ideas and viewpoints of others, and to express their own ideas and viewpoints as clearly as possible. They will review fundamental communication techniques such as using appropriate eye contact, body language, and vocal tone and through lectures and activities they will also learn and practice more advanced techniques such as active listening, reflecting, clarification, and timing. (和訳) 英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。講義に加えて、様々な教室活動を行い、話者の考えや視点を聴きとり理解する方法や、できるだけはっきりと自分の考えや視点を表現する方法について学びます。適切なアイコンタクトや、身ぶり、声の調子などについて概観すると同時に、アクティブ・リスニングや、相手のことばを繰り返して質問し、相手の言ったことを明確にする方法、タイミングのはかり方といったより高度な技術についても学び、練習します。	
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	(英文) Building on the skills and concepts in English Communication Studies V, the aim of this course is to further develop students' ability to effectively communicate with other people through spoken and written word using English. They will learn more advanced techniques such as empathy, building rapport, dealing with aggression and criticism, and communicating in difficult situations. (和訳) 「英語コミュニケーション研究Ⅴ」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語で話されたり書かれたりしたことばを通して効果的にコミュニケーションする能力を養うことを目的とする科目です。共感、信頼関係の構築、攻撃や批判の処理、困難な状況の中でのコミュニケーションといったより高度なコミュニケーション技術について学びます。	
	英語語法研究Ⅰ	高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めて行きます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語語法研究Ⅱ	「英語語法研究Ⅰ」とは異なるトピックで高等学校までに学んだ英文法、語法を復習すると同時に、各文法事項が実際の英文でどのように使われているのか、学んだ項目をどのように英作文に役立てることができるのか、などについて考察を深めます。表現の違いによって生じるニュアンスの違いについては、コーパス言語学的な研究に基づいて編纂された辞書や文法書の説明なども参照して理解を深めて行きます。	
	英語語法研究Ⅲ	英語の語法・文法のより細かな事項を習得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 テキストをまとまりのあるものにするための文法的手段もしくは語彙的結束装置(grammatical/lexical cohesive device) について、具体的にテキストを分析しながら学んでいきます。文法・語法に関する専門用語を英語で学び、英語で書かれた文法書も臆せず利用できるような訓練します。	
	英語語法研究Ⅳ	「英語語法研究Ⅲ」に続き、英語の語法・文法のより細かな事項を習得し、その知識を応用する力を養成する科目です。 類義語の語源の違いに基づくニュアンスの違いや、話者の心的態度（法：mood）を表すいくつかの手段などについて学び、現代の英文法・語法をより総合的かつ俯瞰的に考えられるようにすることを目標とします。そのため、現代の英文法・語法に至るまでの英語の歴史的な変化についても学びます。	
	資格英語研究Ⅰ	TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得を目指します。特に、企業などで利用される機会の多い TOEIC テストの出題形式の解説を行い、試験の形式に慣れるとともに、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、必要な英語力を身につけます。語彙力や文法などの総合的な英語能力を身につけます。	
	資格英語研究Ⅱ	「資格英語研究Ⅰ」に続いて、TOEIC テスト、英検などの英語の検定試験におけるスコアアップあるいは資格取得を目指します。特に、TOEIC テスト形式のリスニングやリーディングの練習問題に取り組み、解説を行います。TOEIC テスト形式の問題に取り組みながら、基本的語彙を身につけたり、英語を聞いたり読んだりして検定試験でより高い得点を取ることを目指します。	
	資格英語研究Ⅲ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	
	資格英語研究Ⅳ	「資格英語研究Ⅲ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、より難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、より発展的な英語能力を養成することを目的とします。出題頻度の高い問題演習や出題の狙いを理解することを通じて、資格試験対策のほか、より実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	資格英語研究Ⅴ	TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	
	資格英語研究Ⅵ	「資格英語研究Ⅴ」に続き、TOEIC テストや英検などの英語資格試験を視野に入れて、上位レベルの難易度の高い聴解、読解、会話表現などを出題形式の問題で取り上げ、さらに発展的な英語能力を養成することを目的とします。上位レベルの問題演習やその応用を通じて、資格試験対策のほか、さらに実践的な英語コミュニケーション能力を修得することを目指します。	
	英語プレゼンテーション研究Ⅰ	(英文) The aim of this course is to develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. Through lectures and various activities, students will learn how to analyze model presentations, brainstorm for ideas, organize and develop content, and write short presentations of their own. They will also learn and practice fundamental presentation techniques such as making effective note cards, using eye contact to connect with their audience, making gestures to describe objects, and using correct posture and hand position. (和訳) 本科目は英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力を養うことを目的とします。講義に加えて、様々な教室活動を行い、手本となるプレゼンテーションを分析したり、アイデアを出し合ったり、伝えたい内容をプレゼンテーションとして組み立てて発展させたり、短いプレゼンテーション案を書いたりします。また、プレゼンテーションに効果的なインデックスカードの作成、アイコンタクト、ジェスチャー、正しい姿勢や手の置き方といった基本的なプレゼンテーション技術についても学び、実際に練習します。	
	英語プレゼンテーション研究Ⅱ	(英文) Building upon the skills and concepts in English Presentation Studies I, the aim of this course is to further develop students' ability to analyze, prepare, and deliver presentations for an audience in English. They will learn slightly more advanced presentation techniques such as projecting their voice, speaking clearly and avoiding fillers ("um", "ah", etc.), using stress to emphasize intensifiers ("very", "really", etc.), making gestures for actions, checking for understanding when giving instructions, using sentence stress, and pausing between phrases. (和訳) 「英語プレゼンテーション研究Ⅰ」で学んだスキルと概念を踏まえて、英語におけるプレゼンテーションを分析し、準備し、実際に行う能力をさらに養うことを目的とします。明瞭な声を出し、はっきり話す、つなぎ言葉を避ける、強調語を強く発音する、身ぶりで動作を示す、指示を与える場合は理解しているかチェックする、文強勢を用いる、まとまりのある句と他の句の間に休止を入れる、といった少し高度なプレゼンテーション技術を学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に文法を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。	
	ドイツ語Ⅱ	前期ドイツ語Ⅰの続きです。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅱへと難度が高くなり、Ⅰ、Ⅱ合わせて、ドイツ語文法がマスターできます。ドイツ語Ⅱでは、辞書を引きながら自分でドイツ語の文章を読み、書くことができるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語を初めて学ぼうとする人に、基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、Ⅲ、Ⅳ合わせて、簡単な日常会話が話せ、簡単なドイツ語の読み物を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲの続きです。基本的に読本を中心に授業を進めていきます。「発音」、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の初歩的練習を積み重ね、実際にその言葉が話されている国々（ドイツ、オーストリア、スイス等）をDVD等で紹介しながら、異文化理解を体験していきます。ドイツ語Ⅲからドイツ語Ⅳへと難度が高くなり、ここでは、具体的な場面での日常会話が話せ、ドイツ語の簡単な読み物（物語等）を辞書を使いながら読めるようになることを目標にしています。	
	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲについて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰとフランス語Ⅲは、ともに履修することで、フランス語を初めて学ぶ人が、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法を修得し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検5級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅰ～Ⅳは、一年を通して同じ教科書で学びます。フランス語Ⅰ、Ⅲについて、フランス語Ⅱとフランス語Ⅳは、ともに履修することで、文法の基礎とそれを運用する能力を体系的に学べるように構成されています。簡単な日常会話から基本的な文法の学習をさらに展開し、自らも簡単な表現を理解し、発音できる力を養います。具体的には仏検4級を取得できるレベルを目指します。また、できるだけ視聴覚教材を用い、フランスの生活や文化への関心を高めることもこの授業の狙いです。	
	スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰ～Ⅳ(スペイン語初級)では、初修者を対象として、スペイン語の基礎を学習します。1年間を通しての学習で、「読む」「書く」「聞く」「話す」という4種類のスペイン語運用能力の向上をはかると同時に、スペイン語の学習を通して、スペイン語圏世界の文化の豊かさと多様性にも触れてゆきます。 スペイン語Ⅰ～Ⅳは共通の教科書を用いますが、Ⅰ・Ⅱでは文法説明が中心になります。Ⅲ・Ⅳでは、Ⅰ・Ⅱとの密接な連携を保ちつつ、表現学習や、文法知識を応用する形での各種練習に重点を置きます。 前期のスペイン語Ⅰでは、文字と発音、名詞の性・数、形容詞、冠詞、重要な動詞の現在形などを学びます。	
	スペイン語Ⅱ	前期に引き続き、スペイン語Ⅳと連携しつつ、スペイン語の基礎文法を学びます。重要な動詞の現在形の学習を継続するとともに、再帰動詞、目的語代名詞、比較表現、不定語と否定語などの事項を学び、最後に現在進行形と現在完了形に触れます。	
	スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅰの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅰで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力の向上を目指します。前期は挨拶からはじめて、日常生活の表現にチャレンジします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スペイン語Ⅳ	前期に引き続き、スペイン語Ⅱの文法授業との密接な連携を保ちながら授業を進めます。会話練習、作文練習、ヒアリング練習、読解練習などを通して、スペイン語Ⅱで学んだ文法事項を定着させるとともに、語彙力を強化し、スペイン語のコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。後期は前期よりも複雑で高度な内容をスペイン語で表現することにチャレンジします。	
	中国語Ⅰ	本講義は「中国語Ⅲ」と連動して行います。最初の4週で中国語の発音を習得するとともに、発音記号であるピンインを学びます。その後、基本的な文法事項と会話表現を系統的に学びます。すなわち「是」を使う判断文に始まり、形容詞述語文、名詞述語文、動詞述語文の基本形を学びつつ、それらを使った実用的な文を組み立てる練習をします。また、日常会話に欠かせない、年齢、時刻、金額などの数詞を使った文の作り方も学びます。	
	中国語Ⅱ	本講義は、「中国語Ⅰ」の続きの講義であり、「中国語Ⅳ」と連動して行われます。「中国語Ⅰ」で学んだ文法事項をふまえて、助動詞を用いる文（願望や可能の表現）、アスペクト（経験、過去、持続、進行、将然）の表し方、副詞、前置詞を用いる文など、やや複雑な語法を学びます。「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」をあわせると、中国語検定試験4級合格レベルの文法事項を修得することができます。	
	中国語Ⅲ	本講義は「中国語Ⅰ」と連動して行います。最初の4週は発音練習に充てます。その後は「中国語Ⅰ」で学ぶ文法事項を用いた会話表現の実践練習を行います。中国語による自己紹介の練習や他人の自己紹介を聞き取る練習をはじめとして、中国語のオーラルコミュニケーション（聴くことと話すこと）の力を養います。授業では履修者同士の練習が主たる内容となります。	
	中国語Ⅳ	本講義は「中国語Ⅲ」の続きの授業であり、「中国語Ⅱ」と連動して行われます。「中国語Ⅱ」で学ばさまざまな文法事項を用いて、実用的な会話表現の実践練習を行います。履修者同士の練習を主とし、自己の願望の表現や、過去、現在の叙述、接続詞を用いる複文など、中国で生活するうえで基本となる会話表現をマスターします。会話では話す力とともに聴く力が重要なので、中国語のリスニング能力の向上も重視します。	
	韓国・朝鮮語Ⅰ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの前期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	前期に引き続き、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの後期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国・朝鮮語Ⅲ	韓国・朝鮮語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの前期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	
	韓国・朝鮮語Ⅳ	前期に引き続き、一貫した授業計画に基づいて韓国・朝鮮語に関する基礎知識と運用力を養成します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指します。なお、総合的な能力を養成することを目指すので、各クラスの後期ペアの授業は内容的に区別せず連続して行います。	
	言語と文化Ⅰ (ドイツ)	初級～中級レベルの教材を使用し、復習を兼ねて一年次で習得したドイツ語の基礎知識を発展させることが当講義の目的です。易しいドイツ語で書かれたテキストを読解しながら、ドイツ語力を伸ばすと同時にドイツの社会、文化、歴史への理解を深めていきます。	
	言語と文化Ⅱ (ドイツ)	後期は、ドイツが近代国家になった頃から現在に至って、様々な時代的・社会的背景を物語る「ドイツ語」に挑戦します。 例えば、19世紀を代表する言語学者のGrimm兄弟の童話や20世紀の戦争の恐怖を表現するBrechtの作品に触れたいと思います。なお、ドイツ初の漫画、そして現代の社会問題をピックアップする、生きている話し言葉で書かれている漫画などを用意しております。 それぞれのテキスト、分かりやすい、短いものにします。そして、授業で一緒に読んで、解説し、ドイツの社会、文化、歴史などについて考えて行きたいと思います。	
	言語と文化Ⅲ (ドイツ)	ここでは、少なくともドイツ語Ⅰ、Ⅱあるいは、ドイツ語Ⅲ、Ⅳを受講した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。	
	言語と文化Ⅳ (ドイツ)	ここでは、少なくともドイツ語Ⅰ、Ⅱあるいは、ドイツ語Ⅲ、Ⅳを受講した学生を対象に、さらにドイツ語の上達はもちろん、ドイツ文化に接する機会を提供しようとするクラスです。ドイツ映画、オペラ、演劇などを見る機会を提供します。教科書を使用しますが、それは、「言語と文化Ⅲ(ドイツ)」で使用しているものです。したがって、「言語と文化Ⅲ(ドイツ)」を受講していることが望ましいです。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅰ (フランス)	「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で習得した基礎をしつかりと固め、さらに未習の文法事項の学習へと発展させます。それと同時に、フランスの最新の文化事情と、フランスから見た日本を考えつつ、実践的なフランス語によるコミュニケーション能力を高めます。日仏の歴史・文化・経済・政治を比較しつつ、今われわれが生きつつある世界の変容について考えます。	
	言語と文化Ⅱ (フランス)	「言語と文化Ⅰ(フランス)」(前期)に引き続き、フランス語の未習事項を学び、実践的コミュニケーション力を向上させます。同時に、フランスの最新の文化事情を知り、過去の歴史との関連の中で、理解を深めます。	
	言語と文化Ⅲ (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー(フランス語圏)に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということ不可分です。	
	言語と文化Ⅳ (フランス)	(仏文) Ce cours est destiné aux étudiants qui ont déjà étudié le français pendant au moins un an. Ecrits dans un français facile, les textes permettent de découvrir l'histoire, la géographie, la vie politique, l'économie, la société et la culture de la France et de la Francophonie d'aujourd'hui. (和訳) 「À la page」シリーズは、1年間の初級フランス語の学習を終えた学生たちを対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化、またフランコフォニー(フランス語圏)に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストからなっています。外国語が「できる」ということはその言語が使用されている国・地域について豊かな知識を持っているということ不可分です。	
	言語と文化Ⅰ (スペイン)	「言語と文化Ⅰ・Ⅱ(スペイン)」では、「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」の単位取得者を対象に、日本人大学生がラテンアメリカ諸国を旅行するという設定の教科書を用いて、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかるとともに、ラテンアメリカの社会や文化についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅱ (スペイン)	前期開講の「言語と文化Ⅰ（スペイン）」の継続です。前期に引き続き、ラテンアメリカの国々について学びつつ、読解力を中心にスペイン語力のさらなる向上をはかります。	
	言語と文化Ⅲ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習。 a. 2) スペイン語の直説法の過去形。Imperfecto線過去、indefinido点過去、perfecto現在完了、pluscuamperfecto大過去。 a. 3) 会話の練習。 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペインの多様性：言語、歴史、地理、食文化等を日本と比較。 b. 2) サッカーと闘牛 “Fútbol y Toros”。	
	言語と文化Ⅳ (スペイン)	A.-スペイン語の基礎を学び続けます。多国で話されている言語になじみ、理解力を高めながら、引き続きスペイン語の会話、読解、作文の学習を行います。 B.-スペインの文化と接しながら、視野を広げて国際理解や価値観の違いに気付く機会をもちます。 a. 1) スペイン語基礎の復習 a. 2) Futuro（未来形）、Condicional（過去未来）Imperativo（命令形）、Subjuntivo（接続法） a. 3) 会話の練習 次の二つのテーマをもとにスペインの文化の理解を深めます。 b. 1) スペイン人の平日のスケジュール、余暇の使い方、夏休み等を日本と比較。 b. 2) 都市計画と人間関係。Gaudí（ガウディ）。	
	言語と文化Ⅰ (中国)	中国語Ⅰ～Ⅳを修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。 講義は中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅱ (中国)	「言語と文化Ⅰ（中国）」を修得した学生を対象とした、中国語と中国文化についての理解を深めるための授業です。 講義は中国の身近な話題についての会話を学ぶとともに、資料映像などを用いて現代中国及び日中文化の相違についても紹介します。	
	言語と文化Ⅲ (中国)	この科目は中国語Ⅰ～Ⅳをすでに履修している人を対象として、中国語の文章を読解しながら、①中国語のレベルアップを図り、②中国の伝統的な文化について学ぶとともに、③グローバル化のなかでの中国社会・文化の変化の様子を紹介します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化Ⅳ (中国)	この科目は「言語と文化Ⅲ（中国）」に引き続き、中級レベルの中国語文章の読解を通じて、中国語の力（特に読解力とリスニング力）をひき上げ、それとともに中国の社会・文化への理解を深める科目です。「言語と文化Ⅲ（中国）」につづく科目とはいっても、「言語と文化Ⅲ（中国）」の内容理解を直接に前提とする授業構成ではありませんので、「言語と文化Ⅲ（中国）」を履修していない学生の履修も可能です。	
	言語と文化Ⅰ (韓国・朝鮮)	韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳを履修し、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅱ (韓国・朝鮮)	前期に引き続き、韓国語の文字と発音及び基礎的な文法事項を習得している受講者を対象に、中級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。	
	言語と文化Ⅲ (韓国・朝鮮)	本講義では、歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することを目指します。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学び、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさがっていききたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。（本講義ではとくに近代から1980年代までを扱います。）	
	言語と文化Ⅳ (韓国・朝鮮)	本講義では、歴史的な観点から現代の朝鮮半島の文化を理解することを目指します。20世紀初めに日本の植民地支配を受けた朝鮮半島は、第二次大戦後に南北に分断されたまま「ポスト冷戦」の今日にまで至っています。私たちの生活とも深く関係のあるこの地域の歴史を学びながら、そこに生きる人々の生き方や思考様式を理解する糸口をさがっていききたいと考えています。現在の政治社会状況との関係性を意識しながら授業を進めます。各時代を映し出したドキュメンタリーや映画、文学作品等も取り上げ、議論を通して理解を深めていきます。本講義ではとくに1980年代以降の韓国社会、南北関係、歴史認識をめぐる問題など、テーマごとに学びます。	
	上級外国語Ⅰ (中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言葉の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。 また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	上級外国語Ⅱ (中国語)	1. 語学知識：中国語の基礎文法や、簡単な会話など一通り終えた学生はこの授業で、更に最も現実に生きている言葉を学ぶことができます。授業中、各課の語句、構文などに関する理解を深め、なるべく中国語という言語の表現の特徴を学生が把握することに主眼を置いて、その表現形式を学生がマスターするようにします。それに伴い、学生が一段上の中国語を勉強しながら中国語能力の向上を図れるようにします。 2. 文化知識：授業中に中国社会・文化に関する最新事情の紹介などを通じて、学生が飽きない楽しい内容を学び、現代中国社会への理解を深めます。 また、目下の中国の若者たちがよく使用する言葉も紹介し、説明したりして、これからの一層のコミュニケーションによる交流を深めます。	
	上級外国語Ⅰ (韓国・朝鮮語)	3年間韓国・朝鮮語関連科目を履修した受講者を対象に、最上級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	
	上級外国語Ⅱ (韓国・朝鮮語)	前期に引き続き、3年間韓国・朝鮮語関連科目を履修した受講者を対象に、最上級レベルの韓国語力を目指します。さらにビデオ・DVDなどを通じて韓国文化についても学びます。最上級の韓国語講座であるため、授業はできるだけ韓国語で行う予定です。	
	保健 体育 科目	健康に関する情報が氾濫しているとも言える今日において、それらの情報の正否は何を基準に判断すれば良いのでしょうか？また自分が今、健康的な生活を営んでいるのかどうか、何を基準に判断すれば良いのでしょうか？これらについての理解をしていないと、自分の健康を維持・増進することはできません。 この科目では、健康を維持・増進するための運動を中心とした基礎的な知識を集積し、それを実行するためには何が必要かを学習します。また、健康に関する最新の話題や身近な問題を提供する予定です。	
		スポーツや運動にかかわる諸問題を考える場合、運動をとらえる切り口はいろいろあります。この科目では、スポーツ運動だけでなく日常的な運動も含めた、身体運動における私たちの身体の構造と機能の理解から始め、この側面から人間の運動というものにアプローチしていきます。	
		今日、運動不足やストレスの問題はますます増加の傾向にあり、これらは健康阻害の一因となっています。この科目では、「運動・スポーツ」を通じて、どのように「健康」な状態を生み出していけるのかについて考察します。まずは、健康づくりに関する基礎的な知識を学習した上で、運動時の生理的指標の変化を確認します。そして、明らかにしたい運動や健康に関連した実験テーマを自分で決め、正しい手続きで数値データを取り、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明することを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動科学演習	この科目では、人間の運動や運動の学習を材料にして「学問・研究」を行います。 また、広島県の高校生バスケットボール国体候補選手や小学生スーパージュニア選手のタイミングコントロール能力の測定・解析も予定しています。 正しい手続きで数値データを取り、あらわれた差が偶然のものではないことを明らかにして、そのプロセスと得られた結果をグラフや表を交えながらきちんと文章で説明することを目指します。	
	健康スポーツ実習 (エアロビクス)	エアロビックエクササイズを用いて、自己の身体を最適にコントロールすることを学びます。生活や健康に役立つ体力とは何かということを積極的に考え、健康体力づくりの基礎となる有酸素運動の理論をもとに、身近で誰もが楽しめるエアロビックダンスを実施します。音楽のビートに合わせて楽しく軽快に全身を動かします。	
	健康スポーツ実習 (ゴルフ)	生涯スポーツとして取り組むことのできる種目「ゴルフ」をとりあげます。 ゴルフの基本的技術のグループ練習やゲームを通して、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方法を身につけることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (サッカー)	サッカーは、激しいボディコンタクトが許されており、女性や体の弱い人が参加することは難しいという印象を受けがちなスポーツです。しかし、フットサルに見られるように、①オフサイドをなくす ②ボディコンタクト、対人へのスライディングを禁止する ③交代を無制限にする など、ルール設定を変化させることで、①選手一人のボールタッチ回数が増える ②怪我をしにくい ③室内でも行える などの利点が生じます。このように競技ルールの変化によって、様々な競技レベル・性別・場所などでスポーツの実践が可能になることを体験し、これらのスポーツ活動を自らの心身の健康づくりに役立てられる能力の育成を目指します。また、サッカーはチームスポーツであるため、コミュニケーションスキルの習得も目的としています。	
	健康スポーツ実習 (ソフトバレーボール)	ソフトバレーボールは、6人制のバレーボールとは異なり、軟らかいボールを使用し、ネットの高さも低く、4人制で男女ミックス、大人と子供のミックスなど独特の競技方法がとられている特長があり、生涯にわたって行うことができるスポーツです。この授業では、ソフトバレーボールの基本的技術やゲーム戦術、ルールを学び、ソフトバレーボールの競技の楽しさを実感することを目的としています。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (ソフトボール)	野球・ソフトボールなどの攻守交替型の球技は、サッカー・バレーボールなどと比較すると、特に、攻撃時においてプレイに直接的にかかわることが少なくなる局面があらわれます。チームプレイが必要な集団競技とはいえ、自分の打順が回ってきそうにないイニングには、とすれば自チームのプレイから注意がそれてしまうことがあります。 この授業では、社会的健康を成熟したチームとして機能することと捉えます。この場合、自他の能力を本質的に理解することが必要とされますが、ここでは、まず他人のプレイに注意を向け、見ることで、そして、すごいな、うまいな、というレベルにとどまることなく、これを分析することに主眼をおきます。	
	健康スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、人間関係の健康のために適切な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。将来に渡って、自己のライフステージや心身の状態に応じて、それぞれに適したスポーツを生活に取り入れ、豊かで健康的なライフスタイルを形成する能力を養うことを目的とします。	
	健康スポーツ実習 (テニス)	テニスは老若男女を問わず自分の体力や性格に合わせて生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。そして、自分の体力や性格に合ったプレイを選択し遂行できるための素地を養い、健康の維持・増進のための生涯スポーツへとつなげることを目標とします。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (ニュースポーツ)	ニュースポーツの授業では、一般的に多くのスポーツ愛好者に普及しているオリンピック種目などとは異なる、比較的近年になって作られたスポーツを行います。ニュースポーツは、おそらくほとんどの受講者が実施した経験のない種目であり、一からルールを覚えて実施することになります。新しいスポーツに全員で取り組む中で、スポーツの有益性を学んで行くことが授業の主要目的であり、健康な心身を作るという面で運動がどのような役割を担っていけるかを考えていきます。ニュースポーツ種目のルールを把握し、自分たちでゲームを実施できるようになることを目標とします。	
	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールというスポーツ種目が、果たしてからだの健康の維持増進を図る上でのスポーツとして適切であるか否かについて検討します。また、そうすることで、最適な運動とは何かを探り、環境や身体の変化に適したスポーツ種目の選択をするための方略を学びます。 同時にバスケットボールの基本的な技術や戦術を身につけ、ルールを覚えてゲームを他の人と一緒に楽しめるようになることも目的とします。	
	健康スポーツ実習 (バドミントン)	健康の維持増進を目的として、バドミントンを生涯継続してできるための基本的技術や戦術を学びます。また、バドミントンのルールや審判法を学び、チームのメンバーと協力し自主的に試合を運営します。さらに脈拍や歩数計を用いて自分の健康状態や活動レベルを確認します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ実習 (ボディーワーク)	ボディーワークを用いて、からだの健康（または、こころの健康、人間関係の健康）のために最適な運動行動とは何かについて学習します。授業では、適度な運動を通して気分がすっきりしたり心地よく感じる動きを体感しながら、しなやかな体づくり（滑らかに柔らかに動ける身体）、きれいな姿勢づくりを目指します。ヨガやクラシックバレエの基礎的な動きを基に、音楽に合わせたゆるやかな動きやリズムカルな動きなど、自分の身体と向きあう課題を行います。誰もが楽しめるボディーワーク、仲間と楽しめるボディーワークを実施します。	
	健康スポーツ実習 (Shudo AP)	プロジェクト・アドベンチャーの手法による体験学習を用いて、人間関係の健康のために最適な言動・行動とは何かを探り、人間関係を主とした環境の変化に適応するための方略を学びます。「Shudo AP」とは、広島修道大学(Shudo) アドベンチャー (Adventure) プログラム (Program) の略です。	
	健康スポーツ実習 (アダプテッド・スポーツ)	アダプテッド・スポーツとは、障害のある人はもちろん、幼児から高齢者、体力の低い人であっても、ルールや用具を対象者の特徴に適合(adapt)することによって展開するスポーツ活動のことです。本授業では、様々なアダプテッド・スポーツのルールを学習し、体験していきます。また、特別支援教育に対応できるよう、障害の疑似体験者をインクルーシブしてスポーツを行います。このようなことから、アダプテッド・スポーツを理解し、どのように展開していくと、みんなが楽しむことができるのかということの理解を深めていきます。	
	健康スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、からだの健康、こころの健康、人間関係の健康のために最適な運動行動とは何かを探り、環境や身体特性の変化に適応するための方略を学びます。	
	運動スポーツ実習 (アкваティックスポーツ)	スキンドайビングやスクーバダイビングで自由に活動するためには、器材の取り扱いに慣れるだけでなく、水中という特殊な環境が身体に及ぼす影響やダイバーが自然に与える影響についての理解が必須となります。そこでは安全に対する高い意識と自然に対する謙虚な姿勢が強く求められます。 この授業では、フィン・マスク・スノーケル・ウェットスーツをはじめとしたダイビング器材を用いて、スキンドайビングとスクーバダイビングの基本的な技術を身につけるとともに、野外（海）で安全に楽しむために必要な知識・技術・態度を最適にコントロールすることを学ぶことで、生涯にわたってスキンドайビングとスクーバダイビングを楽しむ態度やマナーを養成します。	
	運動スポーツ実習 (エアロビクス)	エアロビックスエクササイズを用いて、自己の身体を最適にコントロールすることを学びます。生活や健康に役立つ体力とは何かということを積極的に考え、健康体力づくりの基礎となる有酸素運動の理論をもとに、身近で誰もが楽しめるエアロビックスダンスを実施します。音楽のビートに合わせて楽しく軽快に全身を動かします。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (ゴルフ)	ゴルフを通じてマナー、自主性や指導性、社会性などを身につけることを学びます。 ゴルフは生涯スポーツとしてとらえられ、ジュニアから高齢者、男女問わず愛好者が目立っています。また、原則的に人間対人間の勝負というより、人間がコースという自然と闘うゲームであるゴルフにおいて自らのプレーを自らのレフリーとなって律するという基本精神について実践を通して学びます。	
	運動スポーツ実習 (サッカー)	サッカーを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	
	運動スポーツ実習 (ソフトボール)	ソフトボールの実験を通して、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーからなるゲームを最適にコントロールすることを学びます。ソフトボールを楽しむための基本的な技術を習得して、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、チームゲームを通して協調性などの社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (卓球)	卓球を用いて、自分の身体、ラケット、ボールを最適にコントロールすることを学びます。 卓球は誰にでも気軽にできるスポーツであり、生涯スポーツとして楽しんでいる人も多いです。また、競技スポーツとしての卓球はボールスピードが速く、それに対応するための俊敏な動きや持久力も必要となっています。球の楽しみ方には色々あります。やさしいラリーが続くことを楽しむこともできますし、俊敏な動きとダイナミックなスマッシュで運動不足を解消することもできます。この授業では卓球を教材として取り上げ、基本的な技術とルールを学び、各自の技能に応じた戦術を考え、試合で効果的に用いることができるようにしたいです。また、練習や試合方法を工夫し、それを積極的に実行することで卓球の楽しさを体験します。	
	運動スポーツ実習 (ダンス)	ダンスを用いて、自己の身体や表現性を最適にコントロールすることを学びます。ダンスは、リズムを動きで表現したりリズムカルな動きを楽しむ「リズム型」や具体的な対象を模倣することを楽しむ「模倣型」、形式をもつリズムカルな動きが特徴の「フォークダンス型」や考えや感情、対象を動きによって表現する「創作ダンス型」などがあります。ここでは、そのようなダンスの基本要素（舞踊身体育成法、リズム取り、動きのスケッチ、即興、構成法など）を学習すると共に、ヒップホップやジャズダンスなどの現代的なダンスの動きを習得し、仲間と楽しくダンスの創作や発表ができるようになることを目的とします。	
	運動スポーツ実習 (テニス)	テニスは老若男女を問わず生涯に渡って楽しめるスポーツです。この授業は初心者を対象としたもので、テニスの基礎から試合のルールやマナーまで学びます。また、人と協力して練習や試合ができるようになることを目標とします。 また、雨天時にはテニスコートが使用できないため、体育館などで卓球、体力トレーニングなどを行ないます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	バスケットボールを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。 チームプレイは、個々のプレイヤーの動作（走る、跳ぶ、止まる、向きをかえる、投げる、捕る、ころがすなど）の相互作用によって成立しています。このときのプレイヤーの関係には、①ボール保持者と非ボール保持者、②非ボール保持者と非ボール保持者という2つがあります。このことはチームプレイには最低3人が必要であることを示しています。現在のバスケットボールのチームプレイは、カットインプレイとスクリーンプレイの少なくとも一方を含んで構成されています。プレイヤーは、カットインをするか、スクリーンをするか、何もしないかによって相互作用を行うのです。授業では、チームとして、カットインやスクリーンを用いてディフェンスラインを破った状態でシュートをすることの学習を行います。	
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	バドミントンを通して、身体を最適にコントロールすることを学びます。サーブやスマッシュ、ドロップ、ドライブといったバドミントンの個人技術を身につけ、ゲームとしてバドミントンをより楽しめることを目的とします。また、どのようにすればゲームに勝てるかの戦略を考え、シングルスやダブルスゲームを行っていきます。バドミントンでは、「目では見えているけど身体が動かない」、「当てたつもりなのに空振りをした」、「練習しているうちにいつの間にか頭で考える前に身体が動くようになった」などを経験することがあります。本授業では、こういったスポーツで経験する身体と脳の不思議や健康への貢献についても学んでいきます。	
	運動スポーツ実習 (バレーボール)	バレーボールを用いて、練習方法と指導方法の関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。バレーボールのルールや審判法を学びます。バレーボールのサーブ、レシーブ、パス、スパイク、ブロックなどの基本的技術を習得し、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、身体運動を通して社会的スキルを身につけます。	
	運動スポーツ実習 (フットサル)	フットサルを用いて、自分の身体やボールを巧みにコントロールし、プレイヤーとプレイヤーの関係からなるシステムを最適にコントロールすることを学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	野外運動実習Ⅰ (キャンプ)	「はじめチョロチョロ、なかパッパ、...グツグツいったら火をひいて、...赤子泣くともフタとるな。」これは、炊飯器のマイクロコンピュータの中に隠されてしまった先人たちの「日常」です。この授業は、山の中で生活することによって、このようなブラックボックスと化した日常を手作業で行います。しかし、これは決して歴史への逆行や単純に「不便さ」を求めるものではありません。それは、「便利さ」をもたらす科学技術へのより深い理解を目指した学習なのです。 また、私たちはふだん雑菌の中で生活していることをほとんど気に留めていませんが、山の中では、ちょっと気を許すと、食料は傷み寝床は虫だらけ、ということになってしまいます。ゴミを片付けたり、清潔に整理整頓しておくことは、けっして環境のためだけではありません。環境問題はきっと私たち人間にはね返ってくるということを切実に思い起こさせてくれる科目です。 大自然は逆らおうとする者には激しく牙を剥き、友達でいようとする者には優しく応えてくれます。山での生活は、人間がまさに大自然の一部であることを感じさせてくれるでしょう。大自然の懷に抱かれて、PC・スマホゲームやカラオケボックス・テレビ・漫画以外の楽しいことを「同じ釜の飯を喰う」仲間とともにたくさん見つけることを目的とします。	
	野外運動実習Ⅰ (スキー)	この科目では、冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では習得できない身体のコントロール方法です。初めてスキー板を履く人、スキーを始めたばかりの人について、重心線が常に2本のスキー板の間にある安定したポジションで、スピードコントロールをしながら安全に、山の頂上から麓まで滑って降りられるようになることを目標とします。 一方、野外運動実習Ⅱ（スキー発展）においてパラレルポジションでのターンを習得した人については、ブルーポジションで左右のエッジをすばやく切り替えることによる、より短いタイミングでのターンの習得を目標とします。いずれも、しっかりと「谷足にのる」感覚を身につけます。 また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。	
	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	この科目は、野外運動実習Ⅰ（キャンプ）で行う、テントの設営と撤営、鉈を用いた薪割り、かまどにおける火起こしと炊事、などのいわば理論的側面を主に扱います。「理論」といっても机の上で行うものではありません。理論化することとは、体系的に言語化することです。 ほかの人に伝えようとしても、内容が十分に理論化されていない場合は、聞いている人が「ん?!」という顔をします。 この授業では、テントを張る順番がなぜ決まっているのか、ご飯が炊けるとはどういうことなのか、火や鉈がこの上もなく危険なものとなるのはどういうときか、などを体系的に言語化し、「整理」して、キャンプⅠの受講者にわかりやすく「伝達」することの学習を行います。 また、Ⅰにはない、ロープワーク、クラフト、ナイフや鉈の手入れ、見えない相手との通信方法などの学習も予定しています。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	野外運動実習Ⅱ (スキー発展)	この科目では、冬のスポーツであるスキーをとりあげ、雪の上という日常生活の運動場面と異なる環境における最適な身体の使い方について学習します。これは、各スポーツ実習の授業では習得できない身体のコントロールです。 スキー発展では、クロスオーバーのあるターンができるようになることを基本とし、そのターンを基にした大回りのパラレルターン・小回りのパラレルターンの習得を目標とします。また、新雪や不整地など様々な状況に合わせた滑り方の学習も行います。さらに、板をずらさないカービングターンについても学習します。 また、広島近辺のスキー場ではスノーボーダーの数が増え、事故も増えています。そこで、スキーを行うときの安全対策（スキー場でのマナー・コースの選定など）についての知識を実践的に獲得することも目的とします。		
主 専 攻 科 目	健康科学統計法	本講義は、「統計学」ではなく「統計法」の概説です。すなわち、心理学・栄養学の分野で活用される統計的データ解析法の習熟を目指しています。前半では、記述統計学（度数分布、代表値、散布度、正規分布と標準得点など）の学習を行います。後半は、前半の内容を基礎として、種々の統計的検定法（相関係数、t検定、 χ^2 乗検定など）の基本原則について概説します。		
	健康心理学	健康心理学は、人生の質（quality of life）を高めることを目的にした新しい心理学ないし行動科学であり、基礎研究と実践という2つの領域があります。健康に関連するさまざまなテーマ（食行動、肥満、身体運動、ストレス、コーピング、パーソナリティなど）について行動科学的見地から学習し、基礎研究に基づいた実践活動のあり方を理解することを目的とします。また、授業を通して自らの健康観を見直すこともねらいとします。	隔年	
	食行動科学	食行動は、生物行動であると同時に学習行動であり、また社会・文化行動でもあります。心理学の中では、動物心理学、知覚（特に味覚・嗅覚）心理学、学習心理学、感情・動機づけ心理学、発達心理学、社会心理学、文化心理学、健康心理学、ポジティブ心理学、臨床心理学といった諸領域において研究されており、本授業ではこれらについて講述していきます。	隔年	
	カウンセリング心理学	健康とは身体的・精神的及び社会的に良好な状態（well-being）のことをいいます。カウンセリングとは、こうした健康を阻害する諸問題について、来談者が自分自身の状況や考えを整理し、納得のいく結論や判断に到達するよう支援することです。本講義では、言語的あるいは非言語コミュニケーションを用いたカウンセリング理論や技法について概説します。教育、福祉、医療、産業、司法矯正などの各領域での実践例を交えながら具体的にカウンセリングの理論と実際について詳述します。		

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	栄養と健康	食習慣の良否は大きく心身の健康を左右します。したがって、健康の維持・増進のための正しい食習慣のあり方について学ぶことによって、これから人々の健康に関わる専門知識を学ぶという意識の導入を図ります。また、大学生となり一人暮らしを始めることで、食習慣の乱れに伴って健康を害する者の出現が危惧されます。そこで、心身を健康に保ち、健全な大学生活を送るための自己管理のあり方についての教育も目的とします。	
	基礎化学	物質の基礎的・化学的性質に関する知識を習得することを目標とします。特に、化学物質の分子構造やイオン状態、化学反応など無機化学・有機化学の基礎の学習を通じて、身近な事例について化学的に見る目を養うと共に、科学的ニュース番組を理解できるようにします。そうすることで、心理学科学生に対しては理化学的教養を身につけさせ、健康栄養学科の学生に対しては資格に直結した基礎専門科目を修得する場とします。	
	食育入門	管理栄養士・栄養士といった食の専門資格を取得する健康栄養学科の学生はもちろんのこと、心の健康と食習慣の関連性も指摘されていることから、心理学科の学生も、その資格を活かした職務を遂行する上で、必要に応じて食生活について言及する必要性が生じる可能性もあります。そこで、食育の意義、法的根拠（「食育基本法」）、食育活動の方法論と事例等について学修します。	
	地域食文化論	人の食行動は、生理的・心理的要因とともに、食文化や食環境（経済的・地理的環境を含む）が深く関与しています。栄養教育や心理カウンセリングを行うときに、対象者が居住している地域の食文化を理解しておくことは重要です。広島県および日本の食文化について、その食材、料理の変遷、技能・様式・食器等の変遷、年中行事と食、儀礼と食、各地域の伝統食・郷土食と背景について学び、食が生活に果たしてきた役割を考えます。さらに世界各地の食文化にも触れ、多彩な食様式やその背後にある考え方を理解します。	
	スポーツ文化論	スポーツを文化として捉え、社会におけるスポーツの意味の変遷を考察し、現代社会におけるスポーツのあり方を考えます。更にスポーツ文化について歴史的・社会的事実から論証し、理解を深めます。 本講義は、パワーポイントを使用し、進めていきます。	隔年
	コミュニケーション論A	日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日の問題について検討します。「コミュニケーション論 A」では対面的コミュニケーションを中心に学び、さらに I T という言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのかについて考えます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーション 論B	日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日の問題について検討します。「コミュニケーション論B」ではメディアを介したコミュニケーションのあり方について学び、さらにITという言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのかについて考えます。	
	スポーツ社会学	スポーツを取り巻くさまざまな社会的事象について考察し、スポーツと社会の関わりを理解します。更に社会とスポーツの関わりについて社会的事実から論証し、理解を深めます。 本講義は、パワーポイントを使用し、進めていきます。	隔年
	健康科学部特別講義 (生命と倫理)	E.フロムの『悪について』を手懸りに「生命軽視の風潮」の背後にある病理現象について考察します。また生命の解明が進み、生命の操作が可能となった今日、生命をめぐる様々な問題が生じてきました。生命倫理の諸問題について具体的に考察するとともに、そもそも「生命とは何か」という根本問題にまで考察を進めます。そして最後にシュヴァイツァーの語る「生命への畏敬の倫理」の重要性について再認識します。	
	インターンシップ	食品関連企業にインターンを派遣します。食品の開発・製造・販売や衛生管理など食品産業の実態を体験します。 (オムニバス方式／全15回) (11 山内 有信／6回) 実習前授業（事前指導） (52 古満 伊里・6 多山 賢二・11 山内 有信／6回) 実習先の概要に関する説明、実習 (52 古満 伊里・6 多山 賢二・11 山内 有信／2回) 実習後の授業（事後指導） (52 古満 伊里・6 多山 賢二・11 山内 有信／1回) 報告会でのプレゼンテーション	オムニバス方式
	イノベーション・プロジェクトⅠ（地域課題研究2019）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業で、4月からの上半期に大学休日、夏季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化の発見のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅠの進行状況は、教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まとめは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	イノベーション・プロジェクトⅡ（地域課題研究2019）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業です。（特に冬期特有の課題（豪雪・買い物難民）等に関して取り組んでいく）9月からの下半期に大学休日、冬季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅡの進行は教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まとめは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	
	イノベーション・プロジェクトⅠ（地域課題研究2020）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業で、4月からの上半期に大学休日、夏季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化の発見のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅠの進行状況は、教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まとめは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	
	イノベーション・プロジェクトⅡ（地域課題研究2020）	広島県内の地域課題や地域資源に着目し展開するサービスラーニングを主体とした授業です。（特に冬期特有の課題（豪雪・買い物難民）等に関して取り組んでいく）9月からの下半期に大学休日、冬季休暇等を利用して実施します。 連携自治体の地域課題・地域資源を中心に、課題解決・資源の価値化のための企画・工程・実践方法を学生自ら企画立案し、地域の人々とともに実践していきます。イノベーション・プロジェクトⅡの進行は教員が随時学生および地域の方々の活動報告を受けて確認をおこない、指導を行います。 まとめは、地域における当該サービスラーニングの検証および効果について報告会を開催します。	
社 会 門 ・ 基 礎 環 境 分 と 野 健 康	健康管理概論	人の健康を左右する要因を考え、人の生活を生態系の中に位置づけて理解するとともに、社会・環境が健康にどのような影響を及ぼすのか、あるいは健康を維持・増進するための社会や環境のあり方など、社会や環境と健康の関係性について理解を深めます。健康の概念、人間と環境の相互作用、環境汚染と健康、環境衛生（空気、廃棄物処理）について学修します。さらに、人口静態統計、人口動態統計、生命表、疾病統計等の保健統計についても学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾人専 病体門 の基 成構礎 り造分 立と野 ち機能 及び	公衆衛生学	人々の健康状態とその規定要因を測定・評価し、健康の保持・増進や疾病予防の考え方とその取組について理解することを目標とします。公衆衛生の概念、疫学の概念・指標・方法（横断、縦断研究など）、根拠に基づいた保健対策について理解するとともに、健康状態・疾病の測定と評価方法を学びます。また、睡眠、休養、ストレスなどの生活習慣の現状と対策や、「健康日本21（第二次）」をはじめとする法規や行政施策について学修します。さらに、主要疾患（がんを含む慢性疾患、循環器系疾患、代謝性疾患、感染症、精神疾患、消化器疾患など）の疫学と予防対策についても学びます。	
	社会福祉概論	管理栄養士として、保健・医療・福祉サービスにどのように取り組むかという視点から保健・医療・福祉・介護のシステムの構造や施策に対して理解を深めます。社会福祉の概念を学び、個人が自立した生活を営むことを支援する必要性を理解します。そのために必要となる社会保障の制度や役割、具体的には、介護保険制度、医療保険制度、生活保護制度などを学びます。そして、保健・医療・福祉の専門職の役割を理解することで、多職種連携によるチームアプローチを学びます。	
	地域包括ケア論	高齢化社会を迎えた今日、在宅高齢者を介護状態に陥らせないための介護予防施策は重要ですが、在宅介護者の中には医療的配慮が必要な者が多く存在していることも事実であり、在宅における保健・医療・看護・介護を一連のものとして捉える必要があります。そこで、介護予防の考え方に加えて、地域包括ケアの基本概念、在宅における療養や介護を行う上での仕組みと法的枠組み、在宅で生活する療養者を包括的にケアするシステムと援助方法、多職種間の連携などについて学びます。	
	生化学Ⅰ	栄養素の代謝を中心とした生命現象を理解するために、生体反応の場である細胞の構造と細胞内小器官の働き、生体内反応の主役である主要な栄養素ならびに生体成分の化学的性質に基づく構造と働きについて理解を図ります。そして代謝反応を司る酵素の性質と働き、各種栄養素の消化・吸収や代謝について化学的な視点から学修します。具体的には、①細胞の構造、②三大栄養素の基礎（構造等）と分類、③核酸、④酵素（分類と性質、反応速度論、酵素活性の調節）、⑤三大栄養素の代謝について学修します。	
	生化学Ⅱ	「生化学Ⅰ」に続いて、栄養素代謝の各論として、生体エネルギー学（高エネルギーリン酸化合物、生体酸化、呼吸鎖と酸化的リン酸化）、中間代謝の概要（三大栄養素の相互関係）、遺伝情報や核酸の代謝について学修します。また、環境変化や生理的状況変化への対応として生体の恒常性を保つシステム、即ち、生体の防御システム（免疫）についても学修します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生化学実験	生化学の講義で学んだ内容を定着させるために、管理栄養士業務の対象がヒトであることも考慮して、生化学に関連した実験を行います。具体的には、生体内代謝・化学反応には酵素の働きが不可欠であることを考慮し、酵素の化学（酵素活性の性質、反応速度論）を中心に実験を行い、生体内での代謝調節のための化学反応を理解するとともに、生化学実験の基本操作についても学びます。	
	解剖生理学Ⅰ	正常な人体の構造と機能について、細胞小器官、組織、器官・臓器を系統的・包括的に学修します。「解剖生理学Ⅰ」では、人体の仕組みの全体像を捉えた後、人体を構成するさまざまな臓器に共通する要素（細胞、細胞小器官、生体膜、上皮、細胞の増殖と分化など）について学びます。さらに、各器官の特徴を肉眼的、細胞組織学的に形態と機能の観点から、①消化器系（口腔・舌・歯・胃など）②循環器系（心臓・血管・リンパ系など）、③腎・尿路系（腎臓、腎杯、腎盤など）、④内分泌系に分けて学修します。	
	解剖生理学Ⅱ	正常な人体の仕組みとその働きについて、器官・臓器を体系的・包括的に理解します。さらに、食事・運動などの生活活動の機構や環境変化にともなう生理反応のメカニズムについても学びます。「解剖生理学Ⅱ」では、「解剖生理学Ⅰ」に引き続き、各器官の特徴を肉眼的、細胞組織学的に形態と機能の観点から、①神経系（中枢神経系・末梢神経系など）、②呼吸系（鼻、咽頭、喉頭、気管・気管支など）、③筋・骨格系、④生殖器系について理解します。また、恒常性調節機能、運動時生理反応、加齢・疾患にともなう人体の変化について学びます。	
	解剖生理学実験	解剖生理学の講義で学修した内容を基盤として、実際に、肉眼および組織標本の観察などを行い、人体の構造と機能に対する理解を深めます。具体的には、人体模型の観察、骨格模型の観察、顕微鏡の原理と取り扱い方法、組織標本の観察、身体計測、循環器検査等を行います。さらに、運動時の心拍数と血圧測定、運動負荷試験における最大酸素摂取量測定等を行って、運動に対する人体の生理学的応答を把握します。	
	臨床医学Ⅰ	傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養マネジメントを行うためには、疾病の成り立ちについて理解しておくことが必須です。疾患の症候や臨床検査等の疾患診断の概要を学び、疾患治療の基本的な考え方について理解を深めます。具体的には、病理概論（感染症、腫瘍、代謝・内分泌性疾患等）、栄養障害（たんぱく質・エネルギー栄養障害、ミネラル欠乏症・過剰症等）と代謝疾患（メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風等）について、成因、病態評価、診断、治療の方法を学修します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		臨床医学Ⅱ	傷病者の状態に応じた適切な栄養管理を行うためには、疾病の成り立ちについて理解しておくことが不可欠です。「臨床医学Ⅰ」に続き、疾患の成因、病態評価や診断、治療法について、①消化器系（胃十二指腸潰瘍・炎症性腸疾患・肝炎・肝硬変・胆石症・膵炎など）②循環器系（血栓・動脈硬化・高血圧・狭心症・心筋梗塞・心不全など）、③腎・尿路系（糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病性腎症など）、④内分泌系（甲状腺機能亢進症・低下症など）に分けて学修します。	
		臨床医学Ⅲ	疾患の成因、病態評価や診断、治療法について、①神経系（脳出血症など）、②呼吸器系（気管支喘息・肺炎など）、③筋・骨格系（骨粗鬆症など）、④生殖器系（乳癌・前立腺癌など）、⑤血液・造血器・リンパ系（出血性疾患など）に分けて学修します。また、免疫・アレルギー疾患（膠原病・毒性物質など）および感染症（病原微生物など）についても学び、生体防御の機構の理解も図ります。さらに、医薬品と栄養・食事の相互作用を学修します。 [オムニバス方式：全15回] (5 嶋本 文雄：10/15回) 神経系、呼吸器系、筋・骨格系、生殖器系、血液・造血器・リンパ系疾患の成因、病態評価、診断、治療法を学修します。また、免疫・アレルギー疾患および感染症についても、成因、病態評価等を学び、その生体防御の機構を理解します。 (166 柳瀬 雄輝：5/15回) 医薬品の薬理、医薬品と栄養・食事の相互作用について学修します。	オムニバス方式
	食専 べ門 物基 と礎 健分 康野	食品学Ⅰ	食品の各種成分について理解を深め、その成分が健康に与える影響や疾病予防に対する役割について学びます。具体的には、①食品の成分（食品成分表の理解）、②食品の機能（たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、色素成分、呈味成分、香気成分、テクスチャー）、③食品の表示と規格基準（期限表示、成分表示、品質表示基準、特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品、栄養成分表示など）について理解します。	
		食品学Ⅱ (含食品加工学)	食品の分類および成分を理解し、人体や健康への影響に関する基礎的知識を習得します。食品の嗜好・栄養特性や物性等について理解し、さらに、栄養性や安全性、嗜好性を高める食品加工の方法を学びます。具体的には、①食品分類と食品成分（植物性食品、動物性食品、油脂・調味料・香辛料・嗜好飲料、微生物利用食品など）、②食品の嗜好性・物性と官能評価、③食品の生産・加工・保存・流通と栄養（食品加工の方法、食品加工に伴う食品・栄養成分の変化、食品成分間反応、食品保存の方法、包装における品質変化など）について学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎分析実験	食べ物と健康の関連を理解するためには、食品に含まれる様々な成分の性質や含有量等の知識が必要です。これらの知識をより深め、定着させるためには実験による体験・実証が有効です。そこで、基礎分析実験では、中和滴定、比色定量、酸度測定、pHと緩衝溶液など、食品成分分析に関連した基礎的な分析実験を通じて、成分分析の基本原理を学ぶとともに、安全な実験操作、分析機器の測定原理と取り扱い方法、試薬の調製方法、化学反応や濃度計算の基礎、実験データの解析方法などの基礎知識と技能習得に重点を置きます。また、これらの分析原理や手法は、食品学系はもちろんのこと、栄養アセスメントにおける客観的評価指標としての生化学的検査にも応用されていることへの理解導入も図ります。	
	食品学実験Ⅰ	食品成分の抽出、定性・定量分析を通じて、食品成分分析の原理や手順に対する理解を深めるとともに、「食品学Ⅰ」で学んだ食品成分の化学的特徴や性質に関する知識の定着を図ります。具体的には、糖質の定量・定性（還元糖、ショ糖、でんぶんの加水分解等）、たんぱく質・アミノ酸の定量・定性、脂質の特数と変数、ビタミンの定量、ミネラルの定量などに関する実験を行います。	
	食品学実験Ⅱ	食品成分の抽出・定性・定量分析や食品の物性測定を行って、食品毎の栄養特性や物性に対する理解を深めることを目標とします。実験過程を通じて、分析手技のさらなる向上と、科学的視点から実験データを考察する力の修得を図ります。具体的には、実際の食品から目的とする成分の抽出を行ったうえでの含量比較、酵素的・非酵素的反応による褐変、食品色素の分析、食品の条件別物性変化の比較、官能評価などの実験を行います。	
	食品加工学実習	食品加工、保存特性、容器包装、加工食品の表示と規格基準等についての講義で学んだ事項に基づいて、加工食品を調製し、それらに対する理解を深めます。具体的には、リンゴジャム・マーマレードの製造、小麦グルテンおよび代替多糖類の利用製品の試作、マヨネーズの製造、豆腐の製造、ヨーグルトの製造、ピクルスの製造、かまぼこの製造に加えて、官能評価も行い、食品加工や保存、包装にともなう食品中の栄養成分や特徴的成分の変化を学び、その作用機構についても理解します。	
	食品衛生学	食品の各種成分について理解し、人体や健康への影響に関する基礎的知識を習得します。食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について理解を深めます。具体的には、①食品衛生と法規（食品衛生法など）、②食品の変質（油脂酸敗、鮮度・腐敗・酸敗の判定法）、③食中毒（微生物性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒）、④食品を介しておこるヒトの感染症（含む寄生虫症）、⑤食品中および食品の生産・製造段階を含む環境中の汚染物質、⑥食品添加物（メリットとデメリット、安全性評価）⑦食品衛生管理（HACCPの概念）などについて学びます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	食品衛生学実験	食品の変質、食中毒、食品添加物などについて食品衛生学で学んだ事項を理解した上で、理化学実験および食品微生物学実験を通じて、食品の安全性と衛生管理に対する理解を深めます。理化学実験では、水質試験検査や食品中の食品添加物（発色剤、保存料など）の検出を行います。微生物学実験では、滅菌法などの基本操作から微生物培養の基礎実験操作を習得し、さらに、食品材料からの試料調製、各種細菌培養、大腸菌群の推定試験、グラム染色などの実験を行います。	
	調理学	人体への健康・栄養面に配慮し、さらに安全性、嗜好性を高める調理の役割を理解することを目指します。具体的には、①人間と食べ物の関わりに関する基礎知識（食文化と食生活、食生活と健康等）、②嗜好性の評価（官能評価）、③調理の基本（非加熱・加熱調理操作、調理器具の使用法、動物性食品・植物性食品・成分抽出素材の調理特性など）、④調理操作と栄養（調理操作による食品組織・食品物性と成分の変化、調理による栄養学的・機能的利点）について学びます。	
	調理学実習Ⅰ	「調理学実習Ⅰ」では、基礎調理技能と調理法、食材の選び方、計画的・能率的かつ安全な作業の進め方、調理器具の正しい取り扱い、調理工程の衛生管理の方法を学修します。和風・洋風・中国風の様式別に基礎調理を学び、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理の方法を理解して修得します。調理の要点を科学的に理解しながら、再現性よく調理する技能を身につけます。	
	調理学実習Ⅱ	「調理学実習Ⅱ」では、「調理学実習Ⅰ」において修得した基礎調理技能に基づき、応用的資質を高めることを目指します。旬の食材や地域の産物を取り入れて、様式別に各種応用調理を実習します。その実践を通じて、日本料理・西洋料理・中国料理の食事様式と献立構成、食事様式に適した食器・食具、食事作法について理解を深めます。	
	調理学実習Ⅲ	「調理学実習Ⅲ」では、「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」で修得した調理技能と応用力を基に、総合力や創造性を養い、専門分野の実習に展開できる力（多様な食事設計を立案する力とその調理技能）を身につけることを目指します。日常食や行事食等の献立を作成し、その実習を通して、総合力を高めます。乳幼児や高齢者向けの献立も取り入れ、多様な調理法の理解と専門分野の学修への円滑な移行を視野に入れた実習を行います。さらに郷土料理の特徴を学び、実習を行って、人間と食べ物の関わりについて地域の食文化や生活の側面からも理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 礎 門 栄 養 学	基礎栄養学	生命の維持、発育といった生体における基本現象のみならず、健康の維持・増進においても食物摂取が重要な関わりを持っています。基礎栄養学は、専門基礎分野と管理栄養士としての実務的な専門分野とをつなぐ基礎となる科目です。そこで、栄養の概念、エネルギーや栄養素の体内代謝と生理的意義、健康との関わりについて、生理学や生化学といった専門基礎分野に重点を置きつつ、ライフステージ別栄養学（応用栄養学）や臨床栄養学といった専門分野への接続を意識して解説することで、人間栄養学としての知識を学修します。	
	栄養生理学実験	管理栄養士における栄養学は、栄養と健康に力点を置いた人間栄養学でなくてはなりません。そこで、本実験では「基礎栄養学」で学んだ知識の定着はもとより、個々の授業内容が独立したものではないことを理解させるために、解剖生理学や生化学ならびに臨床医学とも関連させながら栄養素の代謝（血糖値の変化等）、栄養状態の判定（たんぱく質の栄養状態の判定、動物性脂肪摂取と魚油摂取の比較等）、エネルギー代謝等の実験を行い、健康の維持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解します。	
応 用 門 栄 養 学	応用栄養学Ⅰ	応用栄養学分野の概論として、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理のための基本指針となる食事摂取基準の基本的な考え方や各指標の概念のほかに、食事摂取基準を活用するための理論と方法に沿って、個人または集団への栄養ケア・マネジメントを実施するための基礎情報となる「身体計測」、「臨床検査」、「臨床診査」、「食事調査」など栄養アセスメントの基本について学びます。これらによって、とくに一次予防（疾病予防、介護予防）に繋がる栄養ケアやマネジメントを行うための基礎知識を修得するとともに、栄養の専門職としての自覚を持たせることを目的とします。	
	応用栄養学Ⅱ	応用栄養学、とくにライフステージ別栄養学は、「生理学」「生化学」「食品学」などの専門基礎分野に加え、専門分野に属する「基礎栄養学」などの知識を土台としたうえで、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分理解し、あらゆるライフステージにある人々の健康維持・増進を図るための栄養管理の在り方を学び、「栄養教育」「公衆栄養活動」「臨床栄養」へ繋ぐための基礎となる科目です。そこで、とくに「応用栄養学Ⅱ」では、妊娠・授乳期および乳児期から成長期までの生理的特徴や栄養学的特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準の詳細と栄養管理等における注意点について学びます。	
	応用栄養学Ⅲ	「応用栄養学Ⅱ」に続き、あらゆるライフステージにある人々の健康維持・増進を図るための栄養管理の基本として、成人期、更年期、高齢期の生理的特徴や栄養学的特徴と注意点、栄養アセスメントなどを学びます。とくに、近年の高齢化社会を踏まえ、成人期および高齢期においての生活習慣病予防や介護予防も視野に入れた栄養と健康の関係や、食事摂取基準について、「臨床栄養学」と関連付けながら学びます。また、スポーツ栄養学のほか、災害時の栄養配慮の概略等についても触れます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	応用栄養学実習	応用栄養の講義科目で学んだ知識を基礎に、ライフステージ別(妊娠期・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、高齢期)の身体特性、生活環境(生活活動状況を含む)や栄養上の特性、代表的な生化学的検査項目等栄養アセスメントに必要な評価法をモデルケースも交えながら実習で学び、栄養マネジメントやリスク管理など、栄養ケアプランの作成、栄養教育・指導のための実践的な知識と技術を修得します。また、食事摂取基準の活用理論を踏まえたうえで、個人や集団を対象とした給与栄養目標量の設定、食品構成の検討、食材選択、調理形態などについての理解も深めます。	
栄 専 養 門 教 分 育 野 論	栄養教育論Ⅰ	健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことを目標とし、栄養教育の意義と目的に応じた行動科学やカウンセリングの理論と技法について学修します。栄養教育の概念として、栄養教育の目的、栄養教育の対象(個人・組織)を学びます。さらに、理論的基礎として、行動科学の理論(ソーシャルサポートなど)、栄養カウンセリング、行動変容技法(セルフモニタリング、自己効力感など)、食環境に係る組織・集団への栄養教育を学びます。	
	栄養教育論Ⅱ	人々の健康や生活の質の向上に繋がるよう、対象者のアセスメントに基づいた栄養教育プログラムの計画・実施・評価・改善について学び、総合的な栄養教育マネジメントの能力を養います。具体的には、アセスメントの種類と方法、栄養教育の目標設定、栄養教育計画立案(教材の選択と作成など)、モニタリング、実施記録、栄養教育の評価について学びます。また、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育の展開(妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期、高齢期、傷病者・障がい者)について学びます。	
	栄養カウンセリング 演習	栄養教育は個人へのアプローチが重要であり、対象者の栄養摂取状態を正しく評価する力に加え、その人の生活そのものを共感的、包括的に把握し、好ましい食習慣へ行動変容させるためにはカウンセリングの知識と技法が不可欠です。そこで、「栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ栄養教育における行動変容へ導くための行動科学やカウンセリングの理論に関する知識の習得と定着を目的として、個人への栄養教育の実際の進め方と注意点や留意点の基本について演習形式で学修します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	栄養教育論実習	「栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」や「栄養カウンセリング演習」によって習得した、行動科学とカウンセリングの知識と技能に基づき、個人や集団の対象者について、実践を通じて、身体的・精神的・社会的状況等のライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方や方法を学修します。学校・地域社会・企業・医療機関・福祉施設等の対象集団のアセスメントの方法、目標設定、計画（教育対象者の決定、場所の設定、実施者の決定、教材の選択、教育実施形態の選択）等について、具体的に学び、模擬指導の実施とその評価を行います。	
臨 専 床 門 栄 分 養 野 学	臨床栄養学Ⅰ	臨床栄養学の概論として、傷病者や要介護者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成と実施、評価に関する総合的なマネジメントなどについて理解します。具体的には、傷病者・要介護者の栄養状態の評価・判定、栄養ケアの計画と実施、栄養補給法、傷病者への栄養教育のあり方、臨床状態と栄養状態のモニタリング、栄養ケアの修正、栄養ケア記録の意義、問題志向型システムの活用方法について学びます。	
	臨床栄養学Ⅱ	臨床栄養学の栄養治療編として、各疾患・病態別に栄養状態や心身機能の特徴を理解した上で、身体状況に応じた栄養管理の方法を学修します。具体的には、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患、内分泌疾患、神経疾患、摂食障害、呼吸器疾患、血液系疾患、筋・骨格疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症、癌等の栄養管理について学修します。各種疾患別に、栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバックなどの一連の栄養ケア・マネジメントについて理解を深めます。	
	臨床栄養学Ⅲ	「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ」を発展させ、各ライフステージにおいて特徴的な栄養管理について学修します。具体的には、乳幼児・小児の疾患（アレルギー疾患・小児肥満・糖尿病・腎疾患）、妊産婦・授乳婦の疾患（妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群）、老年症候群（誤嚥・転倒・虚弱）の栄養管理の方法について学びます。また、栄養サポートチーム（NST）の意義、チーム医療における管理栄養士の役割や多職種との連携のあり方、クリニカルパスと栄養ケア、介護・福祉における栄養管理の意義、医療・介護保険における栄養に関する算定方法、在宅ケアなどについて理解を深めます。	
	臨床栄養学演習	医療機関や介護施設における栄養管理について具体的な多くの症例から学び、体験的に学修します。具体的には、実際の症例（糖尿病、脂質異常症、狭心症・心筋梗塞、慢性腎臓病、血液透析・腹膜透析、ロコモティブシンドローム、老年症候群等）をもとに、問診、臨床診察、身体計測、臨床検査、食事調査等のデータを検討して栄養アセスメントを行います。これらの演習を通じて、栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成、実施、モニタリングと再評価、栄養ケアの修正、栄養ケアの記録など栄養管理に必要な知識の定着と流れの理解を図ります。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床栄養学実習Ⅰ	疾患・ライフステージ別に、栄養状態や心身機能の特徴に応じて臨床的に配慮した適切な栄養管理を実施するために、栄養アセスメントと栄養ケアプランに基づいた疾病・ライフステージ別の食事療法と栄養補給法、さらに献立作成の技能を実践的に学修し、医療チームの一員として疾病の治療や栄養・食事支援ができるようにすることを目標とします。具体的には、一般食、嚥下食、エネルギー・脂質・たんぱく質・食塩コントロール食、低残渣食、濃厚流動食、経腸栄養、静脈栄養等について学び、献立を展開する技能も修得します。	
	臨床栄養学実習Ⅱ	傷病者や要介護者の病態や栄養状態に基づく適切な栄養管理の基礎知識と技能を活用して栄養ケア・マネジメントの実際を学修します。具体的には、実際の症例を取りあげ、疾患の栄養状態と心身機能の特徴の把握、栄養アセスメント、栄養ケアの目標設定とプラン作成（食事摂取基準と栄養補給法の選択等）、栄養ケアの実施、モニタリングと再評価などの一連の栄養管理の方法について実践を通じて学びます。特に各種計測による栄養アセスメントの方法やベッドサイドの栄養指導についても、その技能を修得します。	
	公衆栄養学Ⅰ	公衆栄養学とは、集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいて、健康の保持・増進と疾病予防を図るための活動に必要な理論と方法を研究する学問です。「公衆栄養学Ⅰ」では、公衆栄養学の総論として、公衆栄養の概念と活動、健康・栄養問題の現状と課題（社会環境と健康・栄養問題、健康状態の変化、食事の変化など）、諸外国の健康・栄養問題の現状、そしてこれらを踏まえた日本および諸外国での健康・栄養政策などを学修します。また、栄養情報の収集・分析・管理の基礎として、公衆栄養活動で行われる栄養疫学調査や食事摂取量の測定および評価方法などについて学びます。	
	公衆栄養学Ⅱ	公衆栄養学の各論として、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対して適切な栄養関連サービスを提供することを目的とした公衆栄養マネジメント（公衆栄養アセスメントの考え方や方法、公衆栄養プログラムの作成・実施・評価など）と公衆栄養プログラムの展開（地域特性への対応、食環境づくり、地域集団特性別など）について、人的支援や社会的資源の活用も含めて学修します。さらに、栄養上のハイリスク集団の特定、アセスメントを行う上で必須となる栄養情報の解析・評価のための統計分析手法など基本的なデータ処理方法、データ収集と整理に関する基礎知識を学修します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公衆栄養学実習	集団や地域における人々の健康状態、食事・栄養素摂取状況、食行動と食環境などを分析・診断し、食生活改善と食環境整備・健康増進のための地域健康・栄養プログラムの実施・評価などに関する実習を行います。さらに、栄養疫学の概要や各種食事調査法の種類と特徴を理解して、対象や目的に応じた調査法を選択・適用する能力を養い、国民健康・栄養調査の実際・データ解析、食事・栄養素摂取量データ処理・統計解析など栄養情報処理も含めた実習を通じて、公衆栄養学の講義科目で学んだ知識の定着と基礎技術を訓練することを目的とします。	
給専 食門 経分 営野 管理 論	給食経営管理論Ⅰ	集団給食の種類、管理方法、運営方法、調理方法等給食の管理・運営の基礎の他、関連法規など給食経営管理に関わる内容を総論的に学修します。具体的には、「特定給食施設の定義、目的、法的根拠」、「大量調理における食材の変化や機器・器具類の種類や目的」、「対象者の栄養状態のアセスメント」、「献立管理、材料管理、労務管理、生産管理、HACCPを含めた衛生管理や施設・設備管理等各給食運営に関わる管理の目的、方法、評価方法」等について学修します。	
	給食経営管理論Ⅱ	給食経営管理論の各論として、集団給食経営管理における基本的なマーケティングや経理の方法、組織管理としてのマネジメントの考え方や方法を学修します。具体的には、マーケティング手法を利用した給食利用者の満足度向上のための食事やサービス（栄養・食事管理、品質管理を含む）、経営・経理の基礎（人事管理、原価管理を含む）、給食に関する各種帳簿の作成・記録・整理方法などについて学びます。さらに、給食施設における危機管理として、事故発生時の対応や災害時の給食サービスの計画立案などについても学修します。	
	給食経営管理実習Ⅰ (学内)	学内において集団給食における100食規模以上の大量調理ならびに給食の管理・運営全般の実習を実施し、「給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識の定着と集団給食における大量調理の管理・運営および技術の基本を修得します。具体的には、実際の給食経営管理のマネジメントサイクルを学生自身が進める実習を通じて、給食サービス提供に関する方法・技術の修得、給食提供のマネジメント能力の養成を行うとともに、喫食者の健康の維持増進に繋がる食事を提供するための考え方を身につけます。	
	給食経営管理実習Ⅱ (地域配食)	高齢化社会がさらに進むと予測されている今日、要介護であっても施設入所ができず、在宅介護となるケースも増加しています。そこで、「給食経営管理実習Ⅰ（学内）」を発展させた、地域で同意を得た高齢者を対象とし、配食サービスを実践する実習を取り入れ、食事計画の立案、利用者の募集・食数管理、実施（衛生管理を含む）、評価等給食経営マネジメントについて学びます。これによって、給食の栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力のさらなる向上を目指します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 演 習 野	総合栄養演習Ⅰ	「総合栄養演習Ⅰ」では、臨地実習に臨むにあたり、これまで学んだ知識と技能を確認し、実践活動の場での課題発見と問題解決を通して、それぞれの臨地実習の目標を達成できるよう、学内で事前学修を行います。また、臨地実習終了後は、学内で事後指導を行い、臨地実習の課題等を総括した上で、管理栄養士の役割と職務内容を理解し、専門的知識と技術のさらなる統合を図ります。 (共同・オムニバス方式／全15回) (共同 2 栢下 淳子・3 酒元 誠治・8 藤井 文子・10 村上 淳／3回) 第1回に臨地実習に向けてのガイダンスを行い、第14・15回に事後指導（実習記録のまとめと報告会の実施）を行います。 (共同・オムニバス方式／12回) (8 藤井 文子／4回・10 村上 淳／内2回) 給食経営管理論の臨地実習に係る事前事後指導を兼ねた演習を行います。 (2 栢下 淳子／4回) 臨床栄養学の臨地実習に係る事前事後指導を兼ねた演習を行います。 (3 酒元 誠治／4回・10 村上 淳／内2回) 公衆栄養学の臨地実習に係る事前事後指導を兼ねた演習を行います。	共同・オムニバス方式
	総合栄養演習Ⅱ	「総合栄養演習Ⅱ」では、臨床における症例や地域における栄養問題（公衆栄養活動）の検討、栄養管理・指導演習等を通して、これまでに学修した専門分野の教育内容で得た知識と技術の横断・統合を図り、栄養評価・判定、栄養食事計画の作成、食事指導等を行い、幅広い視点から対象者の状況に合わせた効果的な栄養ケア・マネジメントの実施ができる系統的・総合的な能力を養います。 (共同・オムニバス方式／全15回) (共同 2 栢下 淳子・3 酒元 誠治・8 藤井 文子・10 村上 淳／3回) 第1回に授業の進め方と臨地実習に向けてのガイダンスを行い、第15回に総まとめとして「総合栄養演習Ⅱ」におけるプレゼンテーションおよび臨地実習の総評を行います。 (共同・オムニバス方式／12回) (2 栢下 淳子・8 藤井 文子／6回) いくつかの症例を設定し、グループ別に担当する症例における栄養評価・判定、栄養食事計画の作成、食事指導等の実施などを検討し、発表・討論を行う演習を行い、栄養ケア・マネジメントのための系統的・総合的な能力を養います。 (3 酒元 誠治・10 村上 淳／6回) 地域の栄養改善や健康寿命延伸のための公衆栄養活動を想定したテーマを設定し、グループ別に、個人または集団に対する栄養管理・栄養指導法について、対象者または対象集団に合わせた評価から指導（食事提案を含む）までの流れを検討し、発表・討論を行う演習を行い、栄養ケア・マネジメントのための系統的・総合的な能力を養います。	共同・オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 実 習 野	臨地実習Ⅰ (給食の運営)	給食経営管理の理論と実習を学修した上で、高齢者福祉施設、児童福祉施設、事業所等の給食施設において臨地実習を行い、「給食経営管理」の実際を学び、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得することを目標とします。栄養・給食部門業務の全体像を把握し、食事の提供場面や喫食者の食事場面の観察を行い、喫食者のニーズと多様性を理解します。実際に、食事管理のマネジメントがどのように行われているのかを体験します。	
	臨地実習Ⅱ (給食経営管理論)	「臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）」では、「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」を学修した上で、給食施設において実習を行います。実際に、給食経営マネジメント、とくに衛生・安全管理、食材管理、施設・設備管理、人材管理、給食を提供するプロセス全体の経営管理がどのように行われているのか理解します。栄養管理と経営管理のマネジメントについて、多職種との連携についても学びます。実践活動の場での気づきや問題解決を通して、栄養管理に必要な専門知識および技術の統合を図ります。	
	臨地実習Ⅲ (臨床栄養学)	病院や介護老人保健施設等で一人ひとりの臨床的栄養アセスメントに基づく適切な栄養ケア・マネジメントのあり方と方法等について、実地での実習を通じて学びます。具体的には、①栄養アセスメントに基づいた臨床的栄養ケアプランの作成、実施、モニタリング、評価といったマネジメントサイクルについて実地に学び、栄養ケアプランの基本的手順を身につけます。②効果的な栄養マネジメントをする上での多職種協働・連携の重要性、とくにチーム医療における管理栄養士の役割を実地に学び、専門分野を横断した取組みを理解します。	共同
	臨地実習Ⅳ (臨床栄養学)	「臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）」を発展させ、傷病者の病態や栄養状態の特徴を正確に把握し、適切に栄養ケア・マネジメントを実施するための知識と技術の定着を図ります。具体的には、①POSに基づいた栄養ケアプランの作成と活用能力、およびSOAPに基づいた栄養カルテを記載できる能力を身につけます。②栄養サポートチーム活動における技術や医療現場におけるカンファレンスに参加できる能力などの定着を図り、傷病者に対する栄養マネジメントの実践力をさらに深めます。③診療科やベッドサイドへの訪問、外来、入院、退院特別の傷病者を対象とした栄養教育の実際について学び、総合的な栄養マネジメント力を身につけます。	共同

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨地実習Ⅴ (公衆栄養学)	地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養います。まず、保健所・保健センターの役割や業務を理解し、健康・栄養問題を取り巻くさまざまな情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定することにより、総合的なマネジメントに必要な事項の実践を学修します。さらに、人々の健康の維持・増進と疾病の予防を図るための活動、保健行政の役割と実際について学修します。	共同
専 門 発 展 分 野	食品機能性成分の 理解	高齢社会を迎えた今日、健康に老いることへの願望の高まりを背景として、人々の健康生活をサポートすることを目的とした特定保健用食品や健康食品（サプリメント）を含む栄養機能食品が多く市販されています。そのため、栄養教育活動の現場においてもこれらの効果に対する質問が多く寄せられます。そこで、機能性成分の効果や生理作用などの基礎知識を修得させることで、栄養教育活動に利用できる科学的知識と応用力を培うことを目的とします。	
	食品微生物学	地球環境には多くの生きものが生息し、相互の関係を保ちながら、自身の進化と地球環境の進化をもたらして今日に至っています。とりわけ微生物と呼ばれる一群の生きものの働きは多方面にわたっています。そこで、食中毒の原因となる有害微生物だけでなく、プロバイオテックスも視野に入れた形で、食品の加工・製造に関わる有用微生物についても学び、微生物に起因する被害を予防しながら、その有用性を最大限に活かす方法を学修します。	
	食産業の理解	広島には全国あるいは海外にも展開して本社や中心工場を置く食品関連企業があり、本学の卒業生も多く活躍しています。管理栄養士・栄養士の業務は、給食経営管理や直接的な栄養教育活動、公衆栄養活動だけでなく、食品企業において、食品の開発・改良・研究や品質検査、普及等に関するものもあります。そこで、食産業に従事する方々をオムニバスで講師として招き、各々の業界での戦略や展望、地域との関わり等について学ぶ場とします。	
	地域食産業演習	広島には全国あるいは海外にも展開して本社や中心工場を置く食品関連企業があり、本学の卒業生も多く活躍しています。管理栄養士・栄養士の知識・技術を活かして、食に関わる企業において食品開発や普及等の業務に携わる希望を持つ学生もいます。そこで、いくつかの食品関連企業や団体・協会、農園、試験所・研究所等を訪問・見学し、広島における食産業・食品流通及び食文化についての理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミ ナール	卒業基礎ゼミ	卒業基礎ゼミは、これまでの教育課程で修得した知識と技能を総合して実験や調査を行い、専門領域に対する深い理解を求めるとともに、研究の進め方や研究方法論の基礎を学ぶことを目標とします。具体的には、学生が関心をもっている指導教員の専門研究領域を選び、指導教員とともに、その領域に関する文献レビューを行って最新の研究成果などを学びます。自らの研究テーマを決定し、研究計画の立案、予備実験、予備調査等を実施し、卒業ゼミの準備を行います。	
		卒業ゼミ	卒業ゼミは、指導教員の専門研究領域に関する実験や活動を通じて得た知識やスキル、先行研究の成果をもとに、研究計画を遂行します。研究データ等を整理・総括し、論文を作成します。健康と栄養に関する、それぞれのテーマについて理解を深めるとともに、本授業の一連の思考や作業を通して、自ら見出した問題に何らかの成果を導く能力を養うことを目標とします。卒業ゼミ発表会を設定し、研究成果のプレゼンテーションや討論を行って総括します。	
		卒業年次セミナー	卒業年次セミナーでは、4年間の課程で学修した知識と技能を基盤にもつ専門職人材として、現在の自分に何が不足しているのか、何を得意分野として発展させなくてはならないのかについて、省察します。また、それぞれの指導教員の専門領域に関連した重要事項について整理し、系統的に理解して卒業後、社会人として実践場面で生かすことを目指します。	
自由 選 択 科 目			他学部他学科の授業科目につき省略	
資格 課程 に関する 科目	教職 に関する 科目	教職入門(中等)	本講義では、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する学習を通して、自分が本当に教師という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうかを考える機会を提供します。自分の描いてきた教師像、子ども像、学校という場を現実のそれらと比較して、これからの教育に関する研究の視点を再構築します。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育心理学(中等)	中学・高校の教員免許状を取得しようとする学生に対する必修授業科目です。中等教育学校現場で有用な実践力の基礎を学びます。「教育心理学Ⅱ」では、講義とグループ学習・全体討論を組み合わせてすすめていきます。履修者は、グループ学習・全体討論の場で活発な意見交換をすることにより、講義で学んだ知識をより確かなものとし、さらに、教育の現場で求められるコミュニケーション能力を養うことを目指します。 1. 教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら、中等教育学校現場での今日的課題について考えます。 2. 中等教育学校現場で求められる「実践力」とは何かについて心理学的見地から考えます。 3. 「生きる力」を育む教育とはどのようなものかについて心理学的見地から考えます。	
	教育原理(中等)	この科目は、教職課程の教職に関する科目(必修)であり、教育学科の基礎講義科目のひとつです。 教育問題が話題に上らない日はありません。しかし、それらはともすればセンセーショナルに語られ、一過性のことがらとして忘れさられ、また新たな教育問題がとりあげられているということが繰り返されています。 この授業では、①そうした一時的な関心から踏みこむこと、そして、②傍観者としてではなく当事者として関わるための意識をどうやって育むかについて、教育学の基礎的な知見と対照させながら講義を進めていきます。	
	教育制度論(中等)	現代の公教育を支える法的構造に基づいて教育制度を理解した上で今日の制度改革を検証します。また、学校での教育課程編成のあり方を、学習指導要領に示された国の基準や教育委員会の示す地方の基準を踏まえながら明らかにし、その今日的な課題を新学習指導要領の研究を通して把握します。	
	中等道徳教育論	道徳とはいったい何なのでしょう。そもそも、道徳を教えるなどということは可能なのでしょう。こうした問いへの答えを、倫理学、心理学、社会学、教育学などの知見に沿いながら、道徳教育についてのさまざまな考え方、教育現場において生起する諸問題、あるいは道徳教育の歴史といった諸側面からアプローチし、考えていきます。	
	中等特別活動論	特別活動は、教育課程に規定された教育活動であり、授業時間割に位置づけて指導する必須の科目です。と同時に、学校教育の中で児童生徒の全人格的で健全な成長発達をすすめていく上で、意図的計画的な学校年間計画（学年年間計画・学級年間計画）をもって活動を組織運営していく体験的実践的教育活動です。 また、特別活動は、主要教科と呼ばれる学力よりも軽視されがちな傾向がありますが、今日的な児童生徒の課題実態や未来を創造する生きる力の育成を考える時、それらの解決・改善と同時に向上・充実を図る教育的な役割は大きいものと考えます。 こうしたことから、特別活動の特質たる目標・内容・方法などについて、理論と実践化の両面から理解が図られるようにしたいと思います。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中等教育方法論	中・高の教員を目指す学生の必修授業科目です。教育方法の実践と思想に学びながら、「教えること」と「学ぶこと」についての知見を深めます。さらに、授業構成の理論、教育メディアの活用、学習集団づくり、学習形態の転換、評価活動の展開、指導案の作成等に関わる教師の実践的力量的基礎が習得できるよう、具体例に言及しながら、教育的タクトの観点から展開します。	
	中等生徒指導論 (栄養)	「生徒指導」は、学習指導と並び立つ全生徒を対象にした教育活動で、学習指導要領に示されている「生徒指導の意義」をふまえて実施される学校教育において重要な教育機能の一つです。生徒の人格形成を促す上で大きな役割を担っている「生徒指導」の理論と実際について、基本的な知識理解が図れるようにします。 また、生徒指導に関する今日的な課題に関心と将来の展望をもって、教育専門職として生徒指導に求められる資質や能力に資する意欲や態度を培うことができるようにしたいと思います。	
	中等教育相談	中・高の教員を目指す者に必要な教育相談全般についての知識と基礎的能力の育成を目指して講義を中心にしていきます。 大きな柱としては、 ①学校における教育相談の意義 ②教育相談の基礎となるカウンセリングの理論と技法の習得 ③教育相談の遭遇する諸問題と連携 以上3つの柱を軸として、基礎的な知識とそれを踏まえた教育相談的な関わりのセンスを習得することを目指します。	
	学校栄養教育実習 事前事後指導	事前指導では、教育実習の意義や目的を理解し、食に関する指導を実際に行う際、求められる知識・技能を身につけて意欲を高め、教育実習に備えます。事後指導では教育実習の成果を総括します。具体的には、次の学習を通じて栄養教諭としての適性や資質向上を考察します。①児童生徒とのよりよい人間関係の構築姿勢を醸成します ②実習校の指示に基づいた学習指導案を作成します ③教材・ワークシート・細案を作成します ④模擬授業を行って検討します ⑤実習後の報告書を作成します ⑥教育実習反省会を実施します。	共同
	学校栄養教育実習	小学校・中学校等の教育現場で1週間の教育実習を行い、栄養教諭としての実践的・応用的能力を育成します。また、栄養教諭は、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして職務を遂行することを理解します。具体的には、次の実践を通じて栄養教諭としての適性と資質向上を省察します。①学校教育・学校経営・校務分掌組織等を理解します ②食に関する指導を行います（授業観察・児童生徒の実態把握・授業補助・授業研究・資料作成・教材研究と作成）	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教職実践演習 (栄養)	これまでの学修と教育実習等で得た実践力とのさらなる統合を図り、教師としての資質を構築し、実践的指導力を確認します。具体的には、次の学修を通して、教育現場において、対人関係を含む広領域の問題を解決することができる視点を養います。①教職の意義、児童生徒の理解と学級経営、教師の資質と倫理観等を再確認します ②履修カルテを作成し、これまでの学修の振り返りを行い、実践力向上のための課題に取り組みます ③自己課題をふまえて作成した学習指導案に基づき授業研究を行い、より教育効果を高める指導法を検討します。 (オムニバス方式／全15回) (20 岡本 徹／4回) 学校教育や教職の意義、児童生徒の理解と学級経営のあり方、求められる教師像、教師の資質と倫理観を確認します。 (12 佐野 尚美／3回) 教育実習の振り返りを行って、児童生徒の実態とその栄養的特徴や学校における食の指導について理解を深めます。 (10 村上 淳／4回) 履修カルテを作成し、これまでの学修の総括を行い、実践力向上のための課題に取り組みます。 (1 岡本 洋子／4回) 教育実習の学習指導案に基づき、授業研究と教材研究を行って、より効果的な指導法を考察します。	オムニバス方式
資格課程 関連授業科目	学校栄養教育論Ⅰ	子どもたちが生きる力を育み、生涯にわたって健全な生活を送ることができるように、学校教育現場において、安全安心な学校給食の運営管理ができ、かつ系統的・総合的に食と栄養に関する教育を展開し得る栄養教諭を目指すことを目標とします。具体的には、次の学修を通じて、栄養教諭としての素養を身に付け、子どもの栄養に係る課題に対する理解を深めます。①食に関する指導に係る法令・諸制度、②栄養教諭の職務内容・使命・役割、③学校給食の意義と役割、④幼児、児童及び生徒の栄養の特徴、⑤幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題 (オムニバス方式／全15回) (10 村上 淳／10回) 栄養教諭の役割および職務内容、子どもの栄養に係る課題（食物アレルギー、咀嚼）、個別栄養相談指導等について学修します。 (12 佐野 尚美／5回) 子どもの栄養の特徴、子どもの栄養に係る課題（運動習慣、生活習慣病予防）、学校・家庭・地域が連携した食育の推進等について学修します。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校栄養教育論Ⅱ	小学校・中学校の教育現場において、食と栄養に関する指導を行うために必要な基礎的事項について理解を深めます。さらに、食と栄養に関する学習指導案の書き方、教育効果、評価方法などを学び、栄養教諭としての実践的資質を高めます。具体的には、次の学修を行います。①地域の食文化や食生活に関する歴史的・文化的事項、②食に関する指導の全体計画、③食に関する指導の展開（学習指導の実践と評価）、④食生活学習教材、⑤家庭科・体育科・道徳・特別活動・生活科等の関連教科と連携させた食に関する指導、⑥模擬授業の実施と検討会 (オムニバス方式／全15回) (1 岡本 洋子／5回) 食生活に関する歴史的・文化的事項、地域の食文化、地場産物と郷土食、食に関する指導（小学校高学年と中学生を対象とした食生活学習教材）等について学修します。 (12 佐野 尚美／2回) 食に関する指導（小学校低・中学年を対象とした食生活学習教材）等について学修します。 (127 熊谷 陽子／8回) 食に関する指導の全体計画、学習指導の実践と評価、家庭科・体育科・道徳・特別活動・生活科等の関連教科と連携させた食に関する指導について学修します。模擬授業の実施と検討会を行って総括します。	オムニバス方式
	憲法Ⅰ	日本国憲法が採用する統治システムの歴史的・思想的背景を明らかにしていきます。まず、憲法の歴史的発展過程を概観し、権力分立制や人権保障の観点から近代立憲主義と現代立憲主義の相違について明らかにします。 次に、憲法を単なる政治的規範としてではなく、裁判規範として具体的事件に解釈・適用する上で不可欠な制度として、司法審査制（裁判所が法律等の合憲性を最終的に審査する制度）について、それが生まれたアメリカでの歴史的発展過程を概観し、その民主的正当性をめぐる問題を検討します。 その上で、日本国憲法における司法審査制の概要を説明し、裁判所が法律等の合憲性を審査する方法ならびに基準について、具体的な事例を取り上げます。さらに、最高裁判所が法律等を違憲とした重要な判例を順次紹介し、最近の注目すべき下級裁判所による違憲判決についても取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康科学部健康栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	憲法Ⅱ	人権保障のために憲法をいかに解釈すべきかについて考えていきます。まず、憲法の歴史的発展過程を概観し、権力分立制や人権保障の観点から近代立憲主義と現代立憲主義の相違について明らかにします。 次に、憲法を単なる政治的規範としてではなく、裁判規範として具体的事件に解釈・適用する上で不可欠な制度として、司法審査制（裁判所が法律等の合憲性を最終的に審査する制度）について、それが生まれたアメリカでの歴史的発展過程を概観し、その民主的正当性をめぐる問題を検討します。 その上で、日本国憲法における司法審査制の概要を説明し、裁判所が法律等の合憲性を審査する方法ならびに基準について、具体的な事例を取り上げます。さらに、最高裁判所が法律等を違憲とした重要な判例を順次紹介し、最近の注目すべき下級裁判所による違憲判決についても取り上げます。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人修道学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
広島修道大学				→	広島修道大学				
商学部 商学科	155	—	620		商学部 商学科	155	—	620	
商学部 経営学科	155	—	620		商学部 経営学科	155	—	620	
経済科学部 現代経済学科	115	—	460		経済科学部 現代経済学科	115	—	460	
経済科学部 経済情報学科	115	—	460		経済科学部 経済情報学科	115	—	460	
人文学部 人間関係学科 心理学専攻	55	—	220		人文学部 人間関係学科 心理学専攻	<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成29年4月学生募集停止
人文学部 人間関係学科 社会学専攻	60	—	240		人文学部 人間関係学科 社会学専攻	60	—	240	
人文学部 教育学科	100	—	400		人文学部 教育学科	100	—	400	
人文学部 英語英文学科	110	—	440		人文学部 英語英文学科	110	—	440	
法学部 法律学科	220	—	880		法学部 法律学科	220	—	880	
法学部 国際政治学科	80	—	320		法学部 国際政治学科	80	—	320	
人間環境学部 人間環境学科	145	—	580		人間環境学部 人間環境学科	145	—	580	
計	1,310	—	5,240		健康科学部 心理学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	学部の設置（設置認可申請）
					健康科学部 健康栄養学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	学部の設置（設置認可申請）
					計	1,415	—	5,660	
広島修道大学大学院				→	広島修道大学大学院				
商学研究科 商学専攻（M）	8	—	16		商学研究科 商学専攻（M）	8	—	16	
商学研究科 商学専攻（D）	2	—	6		商学研究科 商学専攻（D）	2	—	6	
商学研究科 経営学専攻（M）	12	—	24		商学研究科 経営学専攻（M）	12	—	24	
商学研究科 経営学専攻（D）	3	—	9		商学研究科 経営学専攻（D）	3	—	9	
経済科学研究科 現代経済システム専攻（M）	8	—	16		経済科学研究科 現代経済システム専攻（M）	8	—	16	
経済科学研究科 現代経済システム専攻（D）	2	—	6		経済科学研究科 現代経済システム専攻（D）	2	—	6	
経済科学研究科 経済情報専攻（M）	8	—	16		経済科学研究科 経済情報専攻（M）	8	—	16	
経済科学研究科 経済情報専攻（D）	2	—	6		経済科学研究科 経済情報専攻（D）	2	—	6	
人文科学研究科 心理学専攻（M）	5	—	10		人文科学研究科 心理学専攻（M）	5	—	10	
人文科学研究科 心理学専攻（D）	2	—	6		人文科学研究科 心理学専攻（D）	2	—	6	
人文科学研究科 社会学専攻（M）	5	—	10		人文科学研究科 社会学専攻（M）	5	—	10	
人文科学研究科 教育学専攻（M）	5	—	10		人文科学研究科 教育学専攻（M）	5	—	10	
人文科学研究科 英文学専攻（M）	5	—	10		人文科学研究科 英文学専攻（M）	5	—	10	
人文科学研究科 英文学専攻（D）	3	—	9		人文科学研究科 英文学専攻（D）	3	—	9	
法学研究科 法律学専攻（M）	5	—	10		法学研究科 法律学専攻（M）	5	—	10	
法学研究科 国際政治学専攻（M）	10	—	20		法学研究科 国際政治学専攻（M）	10	—	20	
計	85	—	184		計	85	—	184	